

Ryukoku University



Course Guide

履修要項

Faculty of
Agriculture
農学部

入学生用
2023

学部・学科英文名

龍谷大学	Ryukoku University
農学部	Faculty of Agriculture
生命科学科	Department of Life Sciences
農学科	Department of Agricultural Sciences
食品栄養学科	Department of Food Science and Human Nutrition
食料農業システム学科	Department of Agri-Food System

『履修要項』は卒業まで使用しますので、大切に保管し、活用してください。

また、『履修要項』配付後に発生した変更、学年暦^(注)、各種日程、各学部窓口事務及び学部共通の各教育プログラム・諸課程については、履修要項WEBサイトを通じてお知らせします。

<履修要項WEBサイト>

<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>

※ポータルサイトからもアクセス可能です。

(お気に入り登録しておくとう便利です)。



(注) 大学行事、授業日、休日の授業実施日、定期試験期間、休業期間などの日程が毎年度定められています。

毎年度変更されますので、WEBサイトで必ず確認してください。

農学部生の皆さんへ

ご入学おめでとうございます。

これからは龍谷大学農学部生として、自らの興味・関心に沿って主体的に学び、充実した学生生活を送ってください。そのために、農学部はもとより龍谷大学全ての教職員が、皆さんの学修や学生生活のサポートをしていきます。学びたいこと、わからないことなどがあれば、教員や職員に遠慮なく尋ねてください。

さて、これまでの3年間は、世界中が新型コロナウイルスのパンデミックに翻弄されました。また、その中で起きたロシアによるウクライナへの軍事侵攻もあり、食料やエネルギーの生産・流通の混乱、価格高騰といった問題も発生しました。さらに、気候変動によるとみられる自然災害も世界各地で頻発するようになってきています。「食」とそれを支える「農」について、これほど世界的に問題が顕著に現れ、課題がクローズアップされたことは、近年なかったように思います。こうした時期に農学部で学ぶということは、大変意義があるといえるのではないのでしょうか。皆さんの学びが、「食」や「農」に関するさまざまな課題の解決につながっていくことを願っています。

そして、これからの皆さんの学びの指針と手引きになるものが、この履修要項です。その中で、まず目を通していただきたいのは、龍谷大学の「建学の精神」と「教育理念・目的」です。私立大学はそれぞれの「建学の精神」にもとづいて設立されており、それを踏まえた「教育理念・目的」に沿って教育がなされています。さらに、農学部にも「農学部の教育理念・目的」「学位授与の方針」があり、その下で、各学科のカリキュラムが編成されています。「学位授与の方針」は、農学部で学ぶことにより、どのような資質を身につけてもらいたいかを示していますので、折に触れ確認するようにしてください。

龍谷大学農学部のカリキュラムは、各学科の専門性を重視しつつ、学科を横断する科目の履修を必須としていることに特徴があります。「食の循環実習」をはじめとした学科横断科目を履修することで、農学部の中のさまざまな分野の学びに触れるとともに、違う学科の学生とも親しくなり意見を交わすようになることを期待しています。また、教養教育科目の履修を通じて、文理を問わずさまざまな学問分野に触れて視野を広げることも重要です。

履修要項は、各学科のカリキュラムの内容すべてを網羅した、いわばルールブックです。今年度入学の皆さんは、卒業までこの履修要項にしたがって学んでいってもらうこととなりますので、この履修要項は卒業まで保管し、学期毎に目を通すようにしてください。また各学期の履修にあたっては、履修ガイダンスを受け、わからないことがあれば農学部教務課まで問い合わせるようにしてください。

龍谷大学農学部は2015年に開設された、龍谷大学の中では比較的新しい学部です。今年度入学の皆さんは9期生ということになります。また今年度から、これまでの植物生命科学科は生命科学科に、資源生物科学科は農学科に、それぞれ学科名称が変わりました。両学科に入学される方は、新しい学科名称の下での1期生ともいえます。そして、今年3月の卒業生も含めると、すでに約2000人がこの龍谷大学農学部での学びを終え、食や農の分野のみならず社会のさまざまなところで活躍を始めています。これからも卒業生の数は増えていき、活躍の場も広がっていくことでしょう。新入生の皆さんも、在学生や教職員とともに、こうしてできつつある歴史と伝統に新たな1ページを加えてください。

よく学び、よく楽しみ、実りある農学部生活を送っていただくよう、心から願っています。

2023年 4 月

農学部長 竹歳 一紀

目 次

農学部生の皆さんへ

学年暦	5
龍谷大学の「建学の精神」	5
龍谷大学の教育理念・目的	6
学部の「教育理念・目的」と3つの方針（「卒業認定・学位授与の方針」 「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針	6
農学部の教育理念・目的	6
農学部の卒業認定・学位授与の方針 [学士（農学）]	6
農学部の教育課程編成・実施の方針	7
学生支援の方針	12
大学からの連絡・通知	13
ガイダンス	14
休講・補講・教室変更情報	14

第1部 履修の心得

I 履修をはじめるとにあたって

1. 長期的な履修計画を立てること	16
2. 系統的に科目を履修すること	16
3. 自主的に学修をすること	16
4. オフィスアワー	17

II シラバス

1. シラバスとは何か	18
2. シラバスに記載されている情報	18
3. シラバスの利用方法	18

III 単位制度と単位の認定

1. 単位制度	19
2. 単位とは	19
3. 単位の認定	20
4. 履修登録制度	20
5. 授業科目の履修	20
6. 授業時間	20
7. 卒業要件単位および学士号	21
8. 入学前に修得した単位の認定	21

IV 授業科目の開設方法

1. セメスター制	22
2. 授業科目の開講形態	22
3. オンライン授業について	23
4. 授業科目と授業テーマ	25
5. 先修制	25
6. 科目ナンバリング	25

V 履修登録	
1. 履修登録手続スケジュール	26
2. 履修登録制限単位数	27
3. 予備・事前登録	28
4. 履修登録要件	28
5. 履修辞退制度	29
6. 配当セメスターの考え方	30
VI 成績評価	
1. 成績評価の方法	31
2. 成績評価の基準	31
3. GPA制度	31
4. 成績疑義	32
5. 筆答試験の時期	32
6. 受験資格	32
7. 受験の注意事項	32
8. 答案の無効	33
9. 筆答試験における不正行為	33
10. レポート試験における不正行為	33
11. 追試験	34
12. 筆答試験時間	34
第2部 教育課程	
I 教育課程の編成方法	
1. 授業科目の区分	36
2. 必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目	36
3. クラスの編成	37
II 教養教育科目の教育目的および履修方法	
1. 教養教育とは	38
2. 教養教育の必修科目	40
3. 「仏教の思想」科目	40
4. 言語科目	41
5. 教養教育科目における「先修制」	43
6. 学科指定・クラス指定	43
7. 教養教育科目の予備登録	44
8. 日本語科目（留学生対象科目）の履修	44
9. 教養教育科目開設科目	45
III 農学部専攻科目の教育目的および履修方法	
1. 必修科目	48
2. 履修必修科目	49
3. 農学部専攻科目の履修方法	49
4. 農学部専攻科目における「先修制」	49
5. 進級制度（農学部農学科のみ）	49
6. 「食の循環実習」	50
7. 「演習科目」（ゼミナール）	50
8. 「特別研究」	51

9. 「農学部インターンシップA・B」	51
10. 「海外農業体験実習A・B」	52
11. 「農学部特別実習A・B・C」、「農学部特別講義」	52
12. 基礎教育科目	52
13. 生命科学科の専攻科目	53
14. 農学科の専攻科目	59
15. 食品栄養学科の専攻科目	64
16. 食料農業システム学科の専攻科目	75
IV その他の教育課程・教育プログラム	83

第3部 諸課程

I 諸課程

1. 諸課程	88
2. 特別研修講座・各種講座・試験	91

第4部 学修生活の手引き

I 窓口事務・保健管理センター・障がい学生支援室

1. 窓口事務	94
2. 保健管理センター	94
3. 障がい学生支援室	95

II 授業等の休講措置に関する取扱基準（自然災害及び交通機関不通時の授業及び定期試験の取扱について）

III 学籍の取り扱い

1. 学籍とは	97
2. 学籍簿	97
3. 学生証	98
4. 学籍の喪失	98
5. 休学と復学	99
6. 再入学	100
7. 編入学・転入学	100
8. 「9月卒業」	100

IV 通学

1. 自転車・バイク通学	101
2. 自転車・バイクの駐輪	101
3. 自動車通学の禁止	101
4. 自動車の臨時入構許可	102

付録

農学部教員名簿	104
瀬田学舎見取図	105
瀬田学舎教室見取図	106
龍谷大学農学部の農場・実習棟の位置	136
緊急時の対応	138

農学部生の皆さんへ

この履修要項は、龍谷大学農学部において開設されているすべての授業科目を紹介し、皆さんが卒業するまでに履修・修得しなければならない単位数、履修方法、その他有意義な学修のために必要な事項を説明しています。この要項を熟読し、明確な学修目的をもって系統的に履修してください。学期の始めには、履修に関する詳細なガイダンス（履修説明会）が行われますのであわせて利用してください。不明な点があれば農学部教務課窓口でたずねるようにしましょう。

2023年4月

学 年 暦

学年暦として、大学行事、授業日、休日の授業実施日、定期試験期間、休業期間などの日程を定めています。毎年度変更となりますので、履修要項WEBサイトで必ず確認してください。

〈履修要項WEBサイト〉

<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>

※ポータルサイトからもアクセス可能です。



龍谷大学の「建学の精神」

龍谷大学の「建学の精神」は「浄土真宗の精神」です。

浄土真宗の精神とは、生きとし生けるもの全てを、迷いから悟りへ転換させたいという阿弥陀仏の誓願に他なりません。

迷いとは、自己中心的な見方によって、真実を知らずに自ら苦しみをつくり出しているあり方です。悟りとは自己中心性を離れ、ありのままのすがたをありのままに見ることのできる真実の安らぎのあり方です。

阿弥陀仏の願いに照らされ、自らの自己中心性が顕わにされることにおいて、初めて自己の思想・観点・価値観等を絶対視する硬直した視点から解放され、広く柔らかな視野を獲得することができるのです。

本学は、阿弥陀仏の願いに生かされ、真実の道を歩まれた親鸞聖人の生き方に学び、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成します。このことを実現する心として以下5項目にまとめています。これらはみな、建学の精神あってこそその心であり、生き方です。

- ・すべてのいのちを大切に「平等」の心
- ・真実を求め真実に生きる「自立」の心
- ・常にわが身をかえりみる「内省」の心
- ・生かされていることへの「感謝」の心
- ・人類の対話と共存を願う「平和」の心

龍谷大学の教育理念・目的

建学の精神に基づき、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成する。

学部の「教育理念・目的」と3つの方針（「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針

龍谷大学の教育理念・目的を実現するために設置された学部・研究科は、広く社会に貢献できる教養教育・専門教育及びより高度な専門教育・研究を体系的かつ組織的に行うにあたり、各学問分野の独自性を活かしつつ、社会の要請等を踏まえた教育理念・目的を掲げ、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針を一体的に策定する。

農学部の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、人類が直面する「食」と「農」に関する国内外の諸問題に対して真摯に向き合い、農学の立場から正しい判断ができる力を備えた、持続可能な社会の実現に貢献しうる人の育成を目的とする。

農学部の卒業認定・学位授与の方針 [学士(農学)]

農学部の「教育理念・目的」に基づき、以下の基本的な資質・能力を備えるに至った学生に学士（農学）の学位を授与する。

<農学部の学生に保証する基本的な資質・能力>

- 教養教育科目により保証する資質・能力
● 専攻科目により保証する資質・能力

①：建学の精神の具現化	○建学の精神の意義について理解している。
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。 ○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。 ●農学の理論とその実践について説明できる。 ●幅広い学問領域について基礎的な知識をもち、それぞれの領域がもつ見方について説明することができる。 ●自ら発見した課題を論理的に分析し、自らの考えを文章で表現し、それをプレゼンテーション・ディスカッションできる。 ●「食」と「農」に関する諸課題を解決できる適切な技能を身につけている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。 ○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。 ●「食」と「農」に関する諸現象を論理的に分析できる。 ●基本的な論理的思考能力をもち、多角的な観点から柔軟かつ公正に思考し判断ができる。 ●問題を発見し、課題を解決する能力を身につけている。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	●地球環境と国内外の農業の動向に対して常に興味・関心を示している。 ●「食」と「農」をとりまく諸現象について、探究心をもって具体的な課題設定ができる。 ●問題を解決するために必要となる専門的知識を自ら進んで修得し、時代の変化や社会の要請に合致した学習を継続的に行うことができる。 ●高い倫理性をもって、専門知識と技術を総合的に活用することができる。 ●世界的な視野をもって社会が直面するさまざまな課題に主体的・積極的に対応することができる。 ●多様な価値観を認めつつ、学びを通じて自己の認識を広げ、感性を磨くことができる。 ●社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通じた持続的な就業力を身に付けている。

<学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法>

1. 学部にて4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。ただし、所定の科目を特別に優秀な成績で修得したと教授会が認めた者については、3年以上の在学で卒業を認定することができる。その取扱いについては、別にこれを定める。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位数を修得する。
3. 卒業認定を受けるためには、「特別研究」を行い合格しなければならない。

農学部の教育課程編成・実施の方針

未来の持続可能な農業を構築するために、文理融合型の人材を育成する必要がある。そこで、農学部の「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に基づいて、「農学概論」を核に、「演習」と「講義」、「実習」を組み合わせた教育課程を編成・展開し「食」と「農」を理解できる基礎知識基盤を構築する。

<農学部生命科学科の教育内容>

- 教養教育科目にかかる教育内容
- 専攻科目にかかる教育内容

①：建学の精神の具現化	<p>○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。</p> <p>●「仏教の思想」と農学研究を架橋するために初年次の必修科目として「食と農の倫理」（2単位）を設置する。</p>
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	<p>○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。</p> <p>○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。</p> <p>●分野が広範にわたる農学を総合的に理解するため「農学概論」（2単位）を必修科目として設置する。</p> <p>●情報リテラシー等を学ぶ「入門ゼミ」（2単位）を全員履修科目として設置する。</p> <p>●「農学概論」を核に、「演習」と「講義」、「実習」を組み合わせた教育課程を編成・展開し「食」と「農」を理解できる基礎知識基盤を構築する。</p> <p>●学科横断型カリキュラムにより文理融合型の知識基盤を構築する。低年次において他学科で開講される科目の履修を要件化し、理系・文系の垣根を越えた教育体系とする。</p> <p>●農業の基礎となる農作物の生育や変異の仕組み、すなわち生物の生理現象や変異と進化、その生育における外的要因の影響を総合的に理解するために、分子生物学や遺伝学をはじめとする生命科学領域の基礎科目を学ぶ。</p>
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）の発展・向上	<p>○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。</p> <p>○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。</p> <p>●農業に関するトータルプロセスを実体験できるプログラム「食の循環実習Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）を必修科目として設置する。この科目では、講義・演習と実験・実習の組み合わせにより「食」と「農」を総合的に理解させ、かつ学科横断型科目として実施する事で学科の枠組みを超えた多面的な学びを達成し、加えて学生交流を誘起する。</p> <p>●農業の基礎となる農作物の生育や変異の仕組み、すなわち生物の生理現象や変異と進化、その生育における外的要因の影響を総合的に理解するために、分子生物学や遺伝学をはじめとする、生命科学領域の応用科目を学ぶ。</p>

<p>④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●英語で書かれた文献の講読を通して最新の海外の研究動向を把握する。 ●実験・実習を通じて実際の生物の生理や遺伝現象の観察を行う。さらに、講義と実験・実習で身につけた知識と技術を活用して、自ら学び研究する総合演習や特別研究を行う。 ●社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開設する。
---	---

<農学部農学科の教育内容>

- 教養教育科目にかかる教育内容
- 専攻科目にかかる教育内容

<p>①：建学の精神の具現化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。 ●「仏教の思想」と農学研究を架橋するために初年次の必修科目として「食と農の倫理」（2単位）を設置する。
<p>②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。 ○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。 ●分野が広範にわたる農学を総合的に理解するため「農学概論」（2単位）を必修科目として設置する。 ●情報リテラシー等を学ぶ「入門ゼミ」（2単位）を全員履修科目として設置する。 ●未来の持続可能な農業を構築するために、文理融合型の人材を育成する。農学部の「教育理念・目的」「学位授与の方針」に基づいて、「農学概論」を核に、「演習」と「講義」、「実習」を組み合わせた教育課程を編成・展開し「食」と「農」を理解できる基礎知識基盤を構築する。 ●学科横断型カリキュラムにより文理融合型の知識基盤を構築する。低年次において他学科で開講される科目の履修を要件化し、理系・文系の垣根を越えた教育体系とする。 ●「食の安全・安心」を支える農作物の生産、すなわち品種育成や作物多様性、土壌などの栽培環境の保全、農薬や肥料などが環境に与える影響などを実証的かつ総合的に理解するために、育種学や作物学をはじめとする、農業に直結する自然科学領域の基礎科目を学ぶ。
<p>③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）の発展・向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。 ○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。 ●農業に関するトータルプロセスを実体験できるプログラム「食の循環実習Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）を必修科目として設置する。この科目では、講義・演習と実験・実習の組み合わせにより「食」と「農」を総合的に理解させ、かつ学科横断型科目として実施する事で学科の枠組みを超えた多面的な学びを達成し、加えて学生交流を誘起する。 ●「食の安全・安心」を支える農作物の生産、すなわち品種育成や作物多様性、土壌などの栽培環境の保全、農薬や肥料などが環境に与える影響などを実証的かつ総合的に理解するために、育種学や作物学をはじめとする、農業に直結する自然科学領域の応用科目を学ぶ。

④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ●英語で書かれた文献の講読を通して最新の海外の研究動向を把握する。 ●実験・実習を通じて実際の植物の育成や栽培を行う。さらに、講義と実験・実習で身につけた知識と技術を活用して、自ら学び研究する総合演習や特別研究を行う。 ●社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開設する。
---	--

＜農学部食品栄養学科の教育内容＞

- 教養教育科目にかかる教育内容
- 専攻科目にかかる教育内容

①：建学の精神の具現化	<ul style="list-style-type: none"> ○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。 ●「仏教の思想」と農学研究を架橋するために初年次の必修科目として「食と農の倫理」（2単位）を設置する。
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。 ○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。 ●分野が広範にわたる農学を総合的に理解するため「農学概論」（2単位）を必修科目として設置する。 ●情報リテラシー等を学ぶ「入門ゼミ」（2単位）を全員履修科目として設置する。 ●未来の持続可能な農業を構築するために、文理融合型の人材を育成する。農学部の「教育理念・目的」「学位授与の方針」に基づいて、「農学概論」を核に、「演習」と「講義」、「実習」を組み合わせた教育課程を編成・展開し「食」と「農」を理解できる基礎知識基盤を構築する。 ●学科横断型カリキュラムにより文理融合型の知識基盤を構築する。低年次において他学科で開講される科目の履修を要件化し、理系・文系の垣根を越えた教育体系とする。 ●人の健康を支える上で必要不可欠な「食と栄養」について学ぶ。また、人々の健全な食生活をサポートする管理栄養士の養成課程でもあることから、基礎栄養学をはじめ、生理学、生化学、食品化学などの専門基礎科目を学ぶ。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。 ○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。 ●農業に関するトータルプロセスを実体験できるプログラム「食の循環実習Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）を必修科目として設置する。この科目では、講義・演習と実験・実習の組み合わせにより「食」と「農」を総合的に理解させ、かつ学科横断型科目として実施する事で学科の枠組みを超えた多面的な学びを達成し、加えて学生交流を誘起する。 ●人々の健全な食生活をサポートする管理栄養士の養成課程でもあることから、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論などの実践的専門科目を学ぶ。 ●実験科目を通じて食と栄養の仕組みや食品加工の実際を観察・体験し、学内外での実習を通じて食に携わる人材としての資質を形成する。

<p>④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」の発展・向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●英語で書かれた文献の講読を通して最新の海外の研究動向を把握する。 ●臨地校外実習を実施することで、管理栄養士が活躍する現場で、様々な他職種の人々との協同性を養う。 ●講義と実験・実習で身につけた知識と技術を活用して、自ら学び研究する総合演習や特別研究を行う。 ●社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」、「臨地実習」を開設する。
--	---

＜農学部食料農業システム学科の教育内容＞

- 教養教育科目にかかる教育内容
- 専攻科目にかかる教育内容

<p>①：建学の精神の具現化</p>	<p>○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。</p> <p>●「仏教の思想」と農学研究を架橋するために初年次の必修科目として「食と農の倫理」（2単位）を設置する。</p>
<p>②：（③の基礎となる）「知識・技能」の修得</p>	<p>○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。</p> <p>○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。</p> <p>●分野が広範にわたる農学を総合的に理解するため「農学概論」（2単位）を必修科目として設置する。</p> <p>●情報リテラシー等を学ぶ「入門ゼミ」（2単位）を全員履修科目として設置する。</p> <p>●未来の持続可能な農業を構築するために、文理融合型の人材を育成する。農学部の「教育理念・目的」「学位授与の方針」に基づいて、「農学概論」を核に、「演習」と「講義」、「実習」を組み合わせた教育課程を編成・展開し「食」と「農」を理解できる基礎知識基盤を構築する。</p> <p>●学科横断型カリキュラムにより文理融合型の知識基盤を構築する。低年次において他学科で開講される科目の履修を要件化し、理系・文系の垣根を越えた教育体系とする。</p> <p>●「食」と「農」に関わる自然科学的な知識と「農」の実態に関する確かな認識を前提としつつ、「食」と「農」に関わる国内外の社会問題・経済問題に取り組む能力を養うことを目的としている。そのために、農業技術や食に関わる自然科学的な基礎知識を取得するための講義・実習を一定程度受講した上で、経済学、経営学、会計学、社会学といった社会科学関連の基礎科目を中心に学ぶ。</p>
<p>③：（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上</p>	<p>○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。</p> <p>○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。</p> <p>●農業に関するトータルプロセスを実体験できるプログラム「食の循環実習Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）を必修科目として設置する。この科目では、講義・演習と実験・実習の組み合わせにより「食」と「農」を総合的に理解させ、かつ学科横断型科目として実施する事で学科の枠組みを超えた多面的な学びを達成し、加えて学生交流を誘起する。</p> <p>●「食」と「農」に関わる自然科学的な知識と「農」の実態に関する確かな認識を前提としつつ、「食」と「農」に関わる国内外の社会問題・経済問題に取り組む能力を養うことを目的としている。そのために、農業技術や食に関わる自然科学的な基礎知識をふまえて、社会科学関連の応用科目を中心に学ぶ。</p>

<p>④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●英語で書かれた文献の講読を通して最新の海外の研究動向を把握する。 ●調査・実習等を通じて、農業や食産業の実態把握に努める。さらに、講義と実習で得た知識と知見を活用して、自ら学び研究する演習や特別研究を行う。 ●社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開設する。
---	---

<教育方法>

- ・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（担当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。
- ・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

<学修成果の評価>

- ・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の4種類のうちのひとつまたは複数を合わせて評価を行う。
 - ①筆答試験による評価
 - ②レポート試験による評価
 - ③実技試験による評価
 - ④授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価
- ・卒業論文（特別研究）の評価は、論文及び発表評価によって行う。

学生支援の方針

本学では、修学支援、学生生活支援、キャリア支援、留学生支援、障がい学生支援の5つの方針に基づき、すべての学生に対して支援を行う。

修学支援の方針

本学における修学支援は、すべての学生に等しく教育機会を提供することを目的とし、学生一人ひとりが学修を円滑に進め、継続していくことができるよう、次のような支援を中心に総合的な取り組みを行う。

- 修学に関する相談体制を整備し、教職員が相互に連携して相談・指導に取り組む。また、学生の主体的な学修を支援するとともに、必要に応じて補習・補充教育を実施する。
- 留年者及び休・退学者の状況把握と分析を行い、関係する各組織が連携して適切な対応策を講じる。
- 障がいのある学生や留学生など、多様な学生の学修が円滑に進むよう支援する。
- 本学独自の奨学金制度を整備し、意欲ある学生に学ぶ機会を提供する。

学生生活支援の方針

本学における学生生活支援は、学生が、正課・課外を通じて豊かな人間性を育むとともに自省利他の精神に基づいて、多様な価値観や異なる文化を尊重し、主体的に活動・成長できるよう、「生活支援」「経済支援」「課外活動支援」を柱とした総合的な支援を行う。

「生活支援」は、学生生活を安心・安全に過ごすためのメンタルヘルス、トラブル、ハラスメント等に関する支援・相談や啓発等、学生生活に係る様々な支援を行う。

「経済支援」は、修学支援、家計急変や社会環境の変化等に応じた奨学金、学業や課外活動等の奨学金の他、短期的な貸付等の支援を行う。

「課外活動支援」は、多様な学生が主体的に取り組むサークル活動、社会活動等の諸活動を通じて、学生一人ひとりが人間的な成長と調和の取れた社会の担い手になるための環境整備と支援を行う。

キャリア支援の方針

本学におけるキャリア支援は、建学の精神にもとづき、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことの出来る人間を育成し、社会的・職業的自立に向けて必要となる知識、能力、態度を育むことを目的とし、一人ひとりに寄り添った支援を行う。その上で、学生の職業観・勤労観を醸成し、主体的な進路選択、希望する進路の実現のために、「キャリア教育」と「進路・就職支援」を二本柱として、全学のおよび体系的に取り組む。

「キャリア教育」は、学部をはじめ各組織が連携し、正課教育および正課外教育を通して、社会で必要となる基礎的・汎用的能力を早期から育成するとともに、職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力や自分らしい生き方を実現するための力が身につくように取り組む。

「進路・就職支援」は、学生が自立し、主体的な進路選択・就職決定ができるよう、多様な支援プログラムを実施するとともに、face to faceの面談を重視し、それぞれの学生の状況を踏まえたきめ細やかで丁寧な支援を行う。

留学生支援の方針

本学における留学生支援は、学生が国籍、宗教及び文化の違いなどを乗り越え、多様な価値観を認め、世界平和の実現に寄与する人材となり得ることを目的として、本学学生が海外へ渡航する「派遣留学支援」及び海外からの留学生が本学で学ぶ「受入留学支援」を二本の柱として取り組む。

派遣留学支援は、学生の安全を最優先として進める。その上で、海外における外国語学習の効果に加えて、現地で価値観や文化の異なる多様な存在を知り、学び、受け入れる姿勢を身に付けることを目指す。また、経済的な側面で留学を躊躇せざるを得ない学生を支援する補助制度も充実させ、国際交流を志す学生が誰一人取り残されない体制の構築に取り組む。

受入留学支援においては、自国と異なる環境下においても、受入留学生が安心して生活を送り学修に注力できるよう、多様なニーズに応じ得る奨学金や留学生寮の整備を行うとともに、受入留学生に対する多言語での支援を展開する。加えて本学学生が自主的且つ主体的に受入留学生を支援することで双方が異文化理解を深められる仕組みを整える。

障がい学生支援の方針

本学では、誰一人取り残さないという理念のもと、修学の権利の主体が学生本人にあることを踏まえ、学生の要望に基づいた調整を図り、障がいのある学生の内発的主体性を育み、自立と社会参加につながる支援を行う。また、障がいの有無にかかわらず、学生が共に学びやすいインクルーシブな環境づくりに努める。その際、個々の状態や障がいの特性に応じ、適宜改善する姿勢で取り組んでいく。



これらの支援は、学内関係部署や学外の関係機関との有機的な連携に基づき行っていく。

大学からの連絡・通知

円滑な学生生活を送るために必要な情報が伝達されます。

大学からみなさんへの連絡や通知は、特別な場合を除きポータルサイトで行います。ポータルサイトを見落したために後で支障をきたさないよう、日頃からポータルサイトを確認するようにしましょう。また、個人への重要な連絡や通知等は大学が付与するメールアドレスに対しても行うことがあります。大学のメールアドレスも定期的に確認してください。

〈ポータルサイト〉

手 段	アクセス方法
Web版	龍谷大学ポータルサイト ruis (https://portal.ryukoku.ac.jp/login) からアクセスしてください。 ポータルサイトの利用には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。 
アプリ版	龍谷大学ポータルサイトアプリサポートWeb (https://ru.portal.ac/support/) からアプリをダウンロードしてください。 初回利用時には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。 

ガイダンス

学期の始めには各種のガイダンスが行われます。

履修説明会は、履修に関する詳細なガイダンスで、みなさんが学修の計画を立て、履修に必要な手続きをスムーズに行うための説明や指導をするものです。

その他にも、学生部が主催する奨学金申請手続きに関するガイダンス、諸資格取得のためのガイダンス等も開催されます。

これらの連絡は、「大学からの連絡・通知」のとおり行われるので十分注意してください。

【注意】 ガイダンスの日程は毎年度異なります。必ずポータルサイトまたは農学部掲示板（9号館1階）を確認してください。

休講・補講・教室変更情報

本学開講科目にかかる休講・補講・教室変更情報については、ポータルサイト上で公開しています。

〈公開期間〉

内 容		公開期間
休 講		30日後までの情報を公開
補 講		予定している全ての情報を公開
教室変更	臨時変更	30日後までの情報を公開
	恒常変更	前後30日分の情報を公開

〈注意事項・補足〉

- ・受付日や受付時間により公開に時差が生じる場合があります。
- ・当日に連絡があった情報には対応できない場合があります。
- ・本学以外の第三者機関による休講情報提供サービス等が存在しますが、本学が提供するポータルサイトの情報を確認してください。
- ・休講、補講、教室変更情報の公開については、メールでの配信サービスも行っています。
Web版ポータルサイトの「連絡先・メールアドレス・メール受信設定」で設定可能です。
- ・自然災害及び交通機関不通時の授業等の実施有無の確認については、「Ⅱ 授業等の休講措置に関する取扱基準」（96ページ）にて詳細を確認してください。

第1部

履修の心得

I 履修をはじめるとあって

大学では高校までと異なり、履修や学生生活に関するすべてのことが自分の責任に委ねられています。それだけに、各自が履修制度について十分な理解のもと履修することが望まれます。

1. 長期的な履修計画を立てること

授業科目は、「教養教育科目」と学部専門の教育に関する科目群である「専攻科目」からなります。みなさんは、これら2つの「授業科目の区分」から、卒業するために必要な一定の単位数を満たすように履修しなければなりません。

1学年間あるいは1学期間に履修できる単位数には上限が設けられており、また、各学期（セメスター）に、必ず履修すべき科目や選択して履修すべき科目が教育方針に基づいて配当されています。なお、年度によって開講される科目が異なりますので、履修計画を立てるときには、同時に次学期以降における履修計画もあわせて考える必要があります。

また、農学部農学科では進級制度があるため、必要な在学期間に加え要件を満たしていなければ進級できません。4年間で卒業要件を満たすとともに進級要件を満たさなければならないことを念頭に置いてください（進級制度に係る詳細は（P.49）を参照してください）。

2. 系統的に科目を履修すること

大学における学業は、定められた所定の要件を満たすことで完了しますが、その一環として一定の単位数を修得する必要があります（その単位のことを卒業要件単位と呼び、修得のしかたには多くの組合せがあります）。明確な学修目的をもたずに、単に決められた単位数を数字の上でそろえるだけの履修では、たとえ4年間に在学したとしても、大学の卒業生としてふさわしい能力と識見をもつことはできません。したがって、自らの学修目的にあわせて、各科目の性格やその科目の配当セメスターを考慮しながら系統的に履修する必要があります。

大学4年間において学問研究に触れる中心的な場は「演習」（ゼミナール）です。この「演習」では、みなさんは自ら選んだテーマに主体的に取り組み、専門的な視点に立って研究することが肝要となります。「演習」をはじめる前に、研究を進めるにあたっての土台となる知識や思考力、さらには、実験・実習の技法や研究方法などをあらかじめ修得しておくことが求められます。

3. 自主的に学修をすること

十分な学修成果をあげるためには、単に授業を受けるだけでなく、授業そのものに積極的な姿勢で臨むとともに、講義以外に自主的な学修が必要です。教室での授業時間の2倍あるいはそれ以上の自主的な学修が行われて、はじめて満足な理解が可能となります。そのため、シラバス（講義概要や到達目標、評価方法、講義計画等について記載したもの）によって指示された参考図書をはじめ、関連図書をよく読んで理解を深めることが望まれます。また、講義を聞き、参考図書・関連図書でも理解できない点については、直接先生に質問したり、先生や友人・先輩とディスカッションを通じて理解を深めることも大切です。

4. オフィスアワー

オフィスアワーとは、学生が事前に面会の約束をせずに教員の研究室を自由に訪れて良い時間です。教員は授業の内容や学修方法、学修上の問題等について質問や相談に応じます。

農学部専任教員は各自定めた時間帯をオフィスアワーとして設け、その時間は必ず研究室に在室することになっています。ただし、会議や出張などの理由により、やむを得ず不在にする場合もあります。オフィスアワーに教員を訪ねる際には基本的に予約は必要ありませんが、事前に相談事項をメール等で伝えておくと、円滑な問題解決につながるかもしれません。オフィスアワーの時間帯でなくても教員が在室しており、都合が悪くなければ、学生からの質問・相談に応じますので、ご相談ください。

オフィスアワーの一覧はポータルサイト・掲示板（9号館1階）でお知らせいたします。

なお、一覧表に名前のない教員（非常勤講師等）については、授業の前後に教室にて質問をしてください。

Ⅱ シラバス

1. シラバスとは何か

シラバス (Syllabus) とは、各科目の講義概要や到達目標、評価方法、講義計画等について記載したものです。本学で開講されている全ての科目は、あらかじめWeb上に公開されたそれぞれのシラバスに沿って実施されます。

シラバスには、科目名だけでは分からない、詳細な情報が記載されています。学生の皆さんはシラバスを熟読し学修計画を立て、系統的な履修を行ってください。

2. シラバスに記載されている情報

シラバスには、主に次のような情報が掲載されています。

- ① 科目名とサブタイトル
- ② 講義概要
- ③ 到達目標 (目的・ねらい)
- ④ 講義方法
- ⑤ 授業時間外における予・復習等の指示
- ⑥ 系統的履修
- ⑦ 成績評価の方法
- ⑧ テキスト・参考文献
- ⑨ 履修上の注意・担当者からの一言
- ⑩ オフィスアワー・教員との連絡方法
- ⑪ 講義計画 (回数・担当者・学修内容)

※授業時間外における予・復習の指示、参考文献、履修上の注意・担当者からの一言、オフィスアワー・教員との連絡方法、参考URL、資料、講義計画については、授業期間中に変更されることがあります。最新の情報を参照してください。

3. シラバスの利用方法

シラバスはすべてWeb上で公開されています。ポータルサイトからリンクをたどって参照してください。

Ⅲ 単位制度と単位の認定

1. 単位制度

大学での学修は単位制で行われています。

単位制とは、すべての科目に一定の単位数が定められており、その科目を履修して単位を修得し、定められた卒業要件単位数を満たすことで卒業が認定される制度です。

2. 単位とは

単位とは、学修の量を数字で表すものであり、下表のとおり、原則として各単位数によって必要な学修時間が定められています。

単位数	学 修 時 間					
	講義・演習・講読科目の場合			外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合		
	自主	授業	合計	自主	授業	合計
1	30時間	15時間	45時間	15時間	30時間	45時間
2	60時間	30時間	90時間	30時間	60時間	90時間
4	120時間	60時間	180時間			

<単位の計算方法>

学則第26条に基づき、原則として次の基準によって計算します。

- ①本学では、単位計算上、1つの授業90分を2時間として計算します。
- ②本学では、1単位につき45時間の学修時間を必要と定めています。
- ③本学では、 Semester型授業の場合は第1学期（前期）授業期間を15週、第2学期（後期）授業期間を15週とし、通年型授業の場合は1学年間（通年）で30週としています。

(1) 講義・演習・講読科目の場合

上表から、講義・演習・講読科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、4時間（授業時間の2倍）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区 分	必要な学修時間	単 位 数
Semester型 授業の場合	6時間(授業2時間+自主4時間)×15週=90時間	90時間÷45時間(1単位につき)=2単位
通年型 授業の場合	6時間(授業2時間+自主4時間)×30週=180時間	180時間÷45時間(1単位につき)=4単位

(2) 外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合

上表から、外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、1時間（授業時間の半分）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区 分	必要な学修時間	単 位 数
学期完結型 授業の場合	3時間(授業2時間+自主1時間)×15週=45時間	45時間÷45時間(1単位につき)=1単位
学期連結型 授業の場合	3時間(授業2時間+自主1時間)×30週=90時間	90時間÷45時間(1単位につき)=2単位

3. 単位の認定

1つの授業科目に定められた所定の単位を修得するためには、次の3つの要件を満たしていなければなりません。

- (1) 単位の認定を受けようとする科目について、履修登録をすること。
- (2) その科目の授業に出席し、履修に必要な学修をすること。
- (3) その科目の試験を受け、その成績評価で合格（60点以上）をすること（レポート、論文等をもって試験とする場合等があり、必ずしも教室における筆答試験とは限りません。詳細は、シラバスの成績評価の方法で確認して下さい）。

4. 履修登録制度

履修登録とは、科目を履修するための手続きです。この手続きをしていなければ、仮にその授業に出席していたとしても、試験を受けることや単位認定を受けることはできません。履修登録は学修計画の基礎となるものであり、登録が有効に行われるようすべて自己の責任において取り組まなければなりません。

<履修登録の方法>

後に説明するセメスター制により、履修登録は、第1学期（前期）、第2学期（後期）の年2回行われます。（ただし、4年次生以上は、第1学期（前期）に第2学期（後期）開講科目を含む通年分の履修登録をする必要があります。）

第1学期（前期）履修登録は、第1学期（前期）開講科目と通年科目および8月と9月に開講されるサマーセッション科目を登録します。第2学期（後期）履修登録は、第2学期（後期）開講科目を登録します。なお、第2学期（後期）登録時に通年科目の履修を放棄して別の第2学期（後期）開講科目を登録することはできません。

5. 授業科目の履修

履修登録をした科目を履修するということは、その科目に定められている単位数に見合った量の学修をするということです。

学修の内容は、授業形態に応じて、授業時間外における学修と授業時間外における自主的な学修（予・復習）とを含んでいます。

このうち、授業時間内における学修は、授業に出席し、その中で学修するということです。総授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、その科目の単位認定は受けられないことがあります。

また、授業時間外における自主的な学修（予・復習）は、「シラバス」の中で「授業時間外における予・復習の指示」で示される内容を中心に、参考文献等も利用しながら、あるいは友人とのディスカッションや図書館の利用などを通して、自主的に行う学修のことです。大学での学修はこの自主的な学修の比重が大きく、大学生活の成否はこの自主的な学修にかかっていると言えます。

6. 授業時間

本学における1回の授業時間は、後に説明する授業科目の開設方法に関係なく、いずれの場合でも90分です。また、それぞれの授業時間を「講時」といいます。

年間を通して、各講時の時間帯は次のとおりです。

	1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時
開始時刻	9 : 15	11 : 00	13 : 30	15 : 15	16 : 55
終了時刻	10 : 45	12 : 30	15 : 00	16 : 45	18 : 25

7. 卒業要件単位および学士号

卒業は、大学が定める教育課程の修了であり、農学部では「学士（農学）」の学位が授与されます。この認定証が卒業証書（学位記）です。卒業するためには、教育課程（カリキュラム）にしたがって学修し、学部毎に定められた所定の要件を満たすことが必要で、その一環として、124単位以上を履修しなければなりません。各学科における卒業要件単位数の詳細については、「第2部 教育課程Ⅲ 農学部専攻科目の教育目的および履修方法」（P.48-82）を参照してください。

また、農学部農学科では進級制度があるため、必要な在学期間に加え要件を満たしていなければ進級できません。4年間で卒業要件を満たすとともに進級要件を満たさなければならないことを念頭に置いてください（進級制度に係る詳細は（P.49）を参照してください）。

(1) 卒業の要件

本学において、卒業認定を得ようとする者は、次の2つの要件を満たさなければなりません。

① 所定在学年数

本学の教育課程（カリキュラム）を修了するには、4年以上在学しなければなりません。これは、単なる在籍期間ではなく、学修期間が4年以上必要ということです。したがって、休学等による学修中断の期間は所定在学年数に加えません。

② 所定単位の修得

本学の教育課程（カリキュラム）は、授業科目の区分ごとに必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目の別を指定しています。この指定と異なる履修をした場合には、いかに多くの単位を修得したとしても卒業の認定を受けることはできません。

(2) 卒業の時期

① 卒業認定は、毎年学年の終わり（3月）に行います。

② 9月卒業の取り扱い

教授会が必要と認めるときは、在学期間が4年以上の者について、第1学期（前期）終了時（9月）に卒業を認定することがあります。

（注）9月卒業を希望する者は、4月の登録関係書類配付時に申し出て、所定の願書を受け取り、必ず指定された期間に手続きを完了してください（本人の申し出がなければ、9月卒業の対象にはならないので注意してください）。

詳細については、農学部教務課窓口にご相談してください。

8. 入学前に修得した単位の認定

他の大学（短期大学）を卒業又は退学し、本学農学部1年次へ入学した場合に、教育上有益であると認められるときは、学則第38条にもとづき、前大学（短期大学）で修得した単位を本学農学部の卒業要件単位（上限あり）として認定する場合があります。

この単位認定を希望する場合は、入学後直ちに、前大学（短期大学）の「成績証明書」を持参の上、農学部教務課窓口まで申し出てください。

Ⅳ 授業科目の開設方法

1. セメスター制

農学部の授業は、セメスター制で開設されています。

セメスター制とは、半年を1学期とするもので、1学年を、原則として4月～9月末までを第1学期（前期）、10月～翌年3月末までを第2学期（後期）の2学期に区分し、以後4学年までの計8学期にわたって教育課程（カリキュラム）の編成を行うものです。学年、学期、セメスターの関係は次のとおりです。

学年	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
学期	第1学期 （前期）	第2学期 （後期）	第1学期 （前期）	第2学期 （後期）	第1学期 （前期）	第2学期 （後期）	第1学期 （前期）	第2学期 （後期）
セメスター	第1 セメスター	第2 セメスター	第3 セメスター	第4 セメスター	第5 セメスター	第6 セメスター	第7 セメスター	第8 セメスター

各セメスターにはそれぞれ必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目が配当されています。これらの科目の中からどの科目を履修するかは各自の責任に委ねられています。ただし、必修科目はそれを履修し単位を修得しないと卒業することができない科目です。また、選択必修科目も同じ性格を有する科目です。

必修科目や選択必修科目の単位を未修得のまま次のセメスターに進行した場合、他のすべての科目に優先してこれらの未修得科目を履修しなければならない場合が生じてしまい、本来そのセメスターに配当されている科目が履修できなくなるなど、みなさんの学修計画に重大な支障をきたすことにもなりかねません。したがって、十分な理解のもと学修計画を立て、授業時間内における学修と授業時間外における自主的な学修に積極的に取り組むことが望まれます。

（注意）実際に授業を開講する上での第1学期（前期）、第2学期（後期）の区分・日程は、毎年度、学年暦によって決定されます。

2. 授業科目の開講形態

各授業科目は、原則として各セメスターを単位として開設されていますが、実際には科目の性格等により次の3つの開講方式をとっています。（開講方式、授業回数、単位数等の組み合わせは主なものを挙げています。）

① 【セメスター型】

[学期]
→
(授業15週間)

	講義科目	外国語科目	実技科目
週1回開講	2単位	1単位	1単位
週2回開講	4単位	2単位	2単位

② 【通年型】

[学期] → [学期]
→ →
(授業30週間)

	講義科目	外国語科目	実技科目
週1回開講	4単位	2単位	2単位

③ 【クォーター型】

[四半期]
→
(授業8週間)

	講義科目
週1回開講	1単位
週2回開講	2単位

※クォーター型とは、1学年を4つに区分して授業を実施するものです。

各クォーターの区分・日程は、毎年度、学年暦によって決定されます。

- (1)セメスター型として開講される科目のうち「週2回開講方式」をとる授業科目は、1週間に2回（例えば月曜日1講時と木曜日1講時）の授業を行い、1つの学期で完結するものです。このため、一方の授業に出席するだけではその科目を履修したことにはならないので、注意する必要があります。
- (2)通年型として開講される科目は、原則として同一の授業担当者が1週間に1回の授業を行い、2つの学期（1年間）で完結するものです。
- (3)クォーター型として開講される1単位の講義科目は、1週間に1回の授業を行い、四半期で完結するものです。2単位の講義科目は、1週間に2回の授業を行い、四半期で完結するものです。
- (4)同一科目の授業が第1学期（前期）・第2学期（後期）ともに開講される場合があります。この場合は、特に指定のある場合を除き、いずれの学期で履修しても構いません。
- （注1）それぞれの科目には配当セメスターが設定されています。設定された配当セメスター以降の履修が可能であることを示していますが、諸事情により不開講となる場合や配当セメスターが変更される場合がありますので注意してください。
- （注2）すでに修得した科目（=既得科目）の再履修はできません。
- (5)サマーセッションを利用して開講される科目については、下記の取扱となります。

区 分	取扱学期	期間・留意事項
サマーセッション	第2学期（後期）科目	○第1学期（前期）開講科目の履修登録と同時に登録が必要です。 ○開講期間・開講場所については、履修説明会・ポータルサイト（学内者向け）等で確認してください。

- （注）履修登録できる科目数は2科目までとなります。
授業日程が他の科目と重複する場合は、1科目しか履修登録できないので、各科目の開講日程に注意してください。

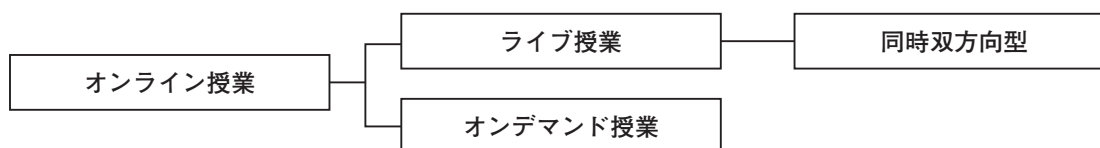
3. オンライン授業について

本学では、対面にて授業を行う科目のほか、一部においてインターネット環境を利用してオンライン上で授業を行う科目があります。

(1) オンライン授業の形態

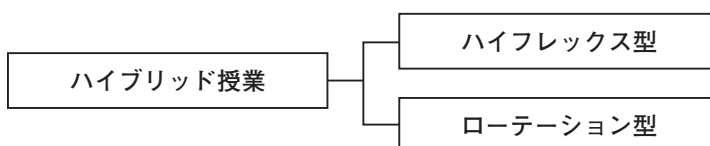
① オンライン授業の実施形態

本学では、次のようにオンライン授業の実施形態を区分しています。



② オンライン授業と対面授業を組み合わせた形態

オンライン授業と対面授業を組み合わせた形態として、ハイブリッド授業があります。



(2) オンライン授業の定義

① オンライン授業

本学におけるオンライン授業とは、インターネットを介して、文字・音声・静止画・動画等の多様な情報を、当該授業を行う教室等以外の場所にいる学生に対して配信し、設問解答や意見交換などを実施することにより、学修を進めていくもので、標準的な1コマ（1回分）のすべてを上記のような方法を用いて行う授業を指します。

＜ライブ授業＞

上記オンライン授業の一形態としてライブ授業があります。ライブ授業とは、オンライン授業のうち、同時かつ双方向（教員と学生）で授業を行うものを指します。ライブ授業を詳細に分類すると「同時双方向型」と「同時一方向」に分かれますが、本学においては、双方向性が確保できる「同時双方向型」を指します。

＜オンデマンド授業＞

上記オンライン授業の一形態としてオンデマンド授業があります。オンデマンド授業とは、オンライン授業のうち、予め収録した授業（動画・音声）や音声付PowerPoint動画等を配信し、あわせて課題指示等を行うものを指します。

② ハイブリッド授業

オンライン授業と対面授業を組み合わせた授業形態としてハイブリッド授業があります。ハイブリッド授業には、2つの形態（ハイフレックス型、ローテーション型）があります。

＜ハイフレックス型＞

対面授業をライブ配信することにより、オンラインとしても行う授業のことを指します。

（例）対面希望の学生とオンライン希望の学生を2グループに分けて実施する授業。

＜ローテーション型＞

全開講回数のうち、各回によって対面とオンラインを使い分ける授業のことを指します。

（例）全15回のうち、4回目～11回目をオンラインで実施し、その他は対面で実施する授業。

(3) オンライン授業科目

① オンライン授業科目とは

オンライン授業として実施する科目のうち、オンラインでの授業回数など一定の要件を満たした科目は開講学部等において「オンライン授業科目」として位置づけています。

② オンライン授業科目の履修要件

オンライン授業科目は、60単位を上限に卒業要件単位数として単位認定されます。60単位を超えて修得したオンライン授業科目は随意科目（卒業要件単位数には含まない）として取り扱います。

＜龍谷大学学則＞（抜粋）

第25条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第34条の規定により卒業の要件として修得すべき単位数のうち、前項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

※新型コロナウイルス感染症の影響により対面での授業実施が困難（一部のみの対面での授業実施を含む）と大学が判断した場合のオンライン授業科目は、卒業要件単位となる単位数の上限（60単位）に含まないことがあります。

(4) オンライン授業を受講するにあたって

オンライン授業は、以下の情報環境を準備した上で受講してください。

① 自身所有のノートパソコン等を利用する

農学部では、学生の情報処理・活用スキルの向上をめざして、パソコンを利用する授業を多く実施しています。また、授業時間内外の様々な場面でパソコンを活用することが必要となることから、携行が容易なノートパソコン等のデバイスを所有することとしています。

ノートパソコン等の仕様については、以下のウェブサイトを確認し準備してください。

・農学部ノートPC等の必携化 <https://www.agr.ryukoku.ac.jp/about/byod.html>

※必要なスペックを満たすノートパソコン等をすでに所有している場合は新たに用意する必要はありません。

※本学ではMicrosoft社との包括ライセンス契約により、在学中は無料でOfficeソフト（Word、Excel、PowerPointなど）が利用可能です。Office付属のノートパソコンやOfficeのライセンスを用意いただく必要はありません。



- ② キャンパス内の施設・機器を利用する
 キャンパス内の施設や機器を利用し、オンライン授業を受講することができます。
- スチューデントコモンズでノートパソコンの貸し出しを受ける。【学内利用に限る】
 深草キャンパス：和顔館1階学生コモンズ（ラーニングサポートデスク）
 大宮キャンパス：東翼2階学生コモンズ（PC貸出カウンター）
 瀬田キャンパス：智光館地下1階情報メディアセンター
- セルフラーニング室のパソコンを利用する。
 深草キャンパス：5号館3階
 大宮キャンパス：清風館1階
 瀬田キャンパス：3号館地下1階
- (5) オンライン授業科目の確認方法
 オンライン授業科目はポータルサイト（履修登録画面）及び龍谷大学履修要項WEBサイトにて確認することができます。
- ・ 本学履修要項WEBサイト
 (URL) <https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/rishu.html>



4. 授業科目と授業テーマ

「授業科目」は単位を認定する区分を示すものです。この授業科目名のみではどのような内容の授業であるか判断ができないことから、原則として「授業テーマ」が示されています。

同じ授業科目名で複数クラスが開講されている場合は、特に指定の無い限りどの授業テーマのクラスを履修しても構いません。ただし、単位の認定を受けることができるのは1つの科目に対して1回だけです（授業テーマが異なっていたとしても、同じ授業科目を複数クラス履修することはできません）。

また、「授業科目」を選ぶにあたっては、「シラバス」で講義の進め方、系統的履修の方法等を確認してください。なお、本学では、「シラバス」は原則としてWebサイトのみで提供しています。

5. 先修制

先修制とは、ある科目を履修する場合に、履修の要件として指定された科目及び単位数の修得を必要とする制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

したがって、先修制が設定されている科目とその履修の要件として指定された科目を同一学期に履修することはできません。

詳細については、「第2部 教育課程」－「Ⅱ 教養教育科目の教育目的および履修方法」－「5. 教養教育科目における「先修制」」(P.43) および「第2部 教育課程」－「Ⅲ. 農学部専攻科目の教育目的および履修方法」－「4. 農学部専攻科目における「先修制」」(P.49)を参照してください。

6. 科目ナンバリング

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みです。詳細は、以下のWEBサイトにて確認してください。

(URL) <https://www.agr.ryukoku.ac.jp/numbering>



V

履修登録

履修登録は、自らの学修計画に従ってその年度・学期（セメスター）に履修しようとする授業科目を届け出る手続であり、みなさんの学修計画の出発点となるものです。この登録をしていなければ、たとえ授業に出席しても、試験を受けることや単位の認定を受けることはできません。履修登録は学修計画の基礎となるものであり、登録が有効に行われるよう、すべて自分の責任において取り組まなければなりません。

1. 履修登録手続スケジュール

1～3年次生は、履修登録が前期・後期の年2回行われます。ただし、4年次生については、卒業見込判定の関係から、前期に1年分の履修登録を行います。

1～3年次生	年2回登録	前期：通年・前期科目登録
		後期：後期科目登録
卒業年次生	年1回登録	前期：通年・前期・後期科目登録

- 履修登録手続スケジュールは毎年度変更されますので、履修要項WEBサイト（<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>）で確認してください。



※卒業年次生は、卒業見込み判定の関係から、前期登録時にその年度に履修しようとする全科目を登録してください。

注意事項

- 成績表WEB通知など、期日が設定されていますので十分に注意して手続きをしてください。詳細な日程については、ポータルサイトまたは掲示板にて連絡します。
- WEB登録期間終了後の登録修正は、履修辞退制度による登録の取消の場合を除き、一切認められません。ただし、WEB履修登録期間中であれば、何度でも修正可能です。

2. 履修登録制限単位数

大学での学修においては、単位制度の趣旨、教育効果（自主的な学修時間の確保）および健康管理の点から、一度に多くの科目を履修することは適当ではありません。

このため、農学部では次のとおり履修登録制限を行っています。ここに定める単位数を超えて履修登録することはできません。卒業までの履修計画をよく考えて立てる必要があります。

所属セメスター		第1 セメスター	第2 セメスター	第3 セメスター	第4 セメスター	第5 セメスター	第6 セメスター	第7 セメスター	第8 セメスター
履修登録 制限単位数	生命科学科 農学科 食料農業システム学科	22	22	22	22	22	22	44	
	食品栄養学科	25	24	25	24	23	26	49	

(注1) 通年科目の単位数は、第1学期（前期）と第2学期（後期）で2分割して計算します。

(注2) この履修登録制限には、次の科目は含まれないので、制限単位数を超えて履修登録することができます。なお、単位制度の趣旨および教育効果（自主的な学修時間の確保）や健康管理の点からすれば、制限単位数を大幅に超える登録は好ましくありません。

- ① 随意科目（基礎教育科目、教職課程科目、本願寺派教師資格課程科目、博物館学芸員課程科目等）
- ② サマーセッションに開講される科目
- ③ 「海外英語研修」
- ④ 大学コンソーシアム京都科目（単位互換科目、インターンシップ）
- ⑤ 環びわこ大学・地域コンソーシアムの単位互換制度科目
- ⑥ 農学部専攻科目（全学科）のうち、以下の科目

「農学部インターンシップA」、「農学部インターンシップB」、「海外農業体験実習A」
「海外農業体験実習B」

- ⑦ その他、授業期間外に実施する科目

(注3) 編転入学した者のカリキュラムは、編入学または転入学した年度ではなく、入学を認められた学年の在学学生と同様のカリキュラムを適用します。再入学した者については、原則離籍前と同年度のカリキュラムを、復学したものについては、休学前と同年度のカリキュラムをそれぞれ適用します。

■成績優秀者の履修登録制限単位数に関する特別措置について

（※入学年度にかかわらず全ての在学学生が対象です）

成績優秀者（履修登録をおこなう学期の直前学期の累積GPAが3.5以上の者）については、農学部が定める所定の手続きをおこなった場合、履修登録制限単位数を各学期2単位（4年次は前期の履修登録時に4単位）拡大して登録ができます。

本特別措置の対象者には農学部教務課から申請方法等の詳細をお知らせしますので、特別措置を希望する場合は申請をしてください。

3. 予備・事前登録

予備・事前登録とは、定員が定められている科目の受講者数を調整するため、通常の履修登録（本登録）に先立って行われるものです。予備・事前登録にあたっては、以下の点に注意する必要があります。

- ① 予備・事前登録が必要な科目は、別途指示します。科目毎に運用が異なる場合があるので、必ずポータルサイトにて確認して手続きを進めてください。
- ② 予備・事前登録が必要な科目は、予備・事前登録なしに履修することはできません。ただし、予備登録の結果、定員に満たなかった場合は追加募集する場合があります。
- ③ 予備・事前登録で履修許可された科目は、必ず登録しなければなりません。
- ④ 予備・事前登録を行ったからといって、受講ができるものではありません。予備・事前登録の結果を確認して、登録が許可されれば、必ず履修登録（本登録）を行ってください。

履修登録 (広義)	1) 予備登録……………	受講可否を抽選（無作為抽出）により決めます。 教養教育科目や言語科目（選択外国語科目）においてこの手続きが必要です。
	2) 事前登録……………	受講可否を申請書の内容や過去の成績などにより決めます。 必修外国語の再履修や一部の専攻科目等においてこの手続きが必要です。
	3) 履修登録(本登録)……………	履修する科目（予備・事前登録にて受講可となった科目を含む）が確定します。
		(狭義)

4. 履修登録要件

(1) 履修登録要件

有効な履修登録を行うためには、次に定める要件をすべて備えていなければなりません。履修登録はすべて自己の責任において行ってください。

- ① 必修科目は、配当されているセメスターに登録してください。
- ② 所属年次に配当されている授業科目以外に下級年次配当の授業科目を登録することができます。ただし、諸事情により不開講となる場合や開講セメスターが変更される場合がありますので注意してください。
- ③ 履修登録は授業時間割表に従って登録してください（特に、同一授業科目について複数の担当者がある場合や、週2回授業等の場合は、別段の指示があるので注意してください）。
- ④ 重複登録（同一講時に2科目以上の登録をすること）をした場合、当該科目は全て無効となります。
- ⑤ 二重登録（すでに単位修得した科目（既修得科目）を再度登録すること、および同時に同一授業科目を2科目以上登録すること）をした場合、当該科目は全て無効となりますので注意してください。
- ⑥ 各セメスターおよび各年次において、定められている履修制限単位を超えて登録することはできません（成績優秀者の履修登録制限単位数に関する特別措置の場合を除く）。

(2) 履修登録にあたって注意すべき点

- ① 授業時間割に変更が生じた場合は、ポータルサイトにてお知らせします。
- ② 履修登録にあたって、不明な点があれば、農学部教務課窓口にご相談してください。
- ③ Web履修登録画面から、定められた期間内に必ず登録してください。
履修登録手続スケジュールは毎年度変更されますので、
履修登録WEBサイト（<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>）
で確認してください。



④ 受講登録確認表の出力による登録確認

登録した授業科目は、登録完了後、各自がその場で「受講登録確認表」を出力し、正しく登録されているかどうかを必ず確認してください。受講登録確認表について、不備もしくは質問がある場合は、ただちに、農学部教務課窓口申し出てください。また、出力した受講登録確認表は、必ず保管してください。

5. 履修辞退制度 —受講登録確認時に行う修正とは異なりますので注意してください—

(1) 「履修辞退制度」とは

「履修辞退制度」とは、受講者が授業を受けてみたものの、『授業内容が学修したいものと著しく違っていた場合』や『受講者自身が授業について行ける状況にまったくない場合』など、やむを得ない理由がある場合に自分自身の判断で履修を辞退することができる制度のことです。

この制度は、履修登録の確認時における登録不備によって修正が必要となる場合の「履修登録修正」とは異なり、履修登録がすべて確定した後に、上記のような理由によって受講者自身が定められた期間に履修辞退の申し出をすることができるものです。「履修登録修正」は登録情報を「修正」や「取消」するものであり、以前の履歴は一切残りませんが、「履修辞退」は、「履修登録」および「履修辞退」の履歴が記録として残ります。

したがって、受講者のみなさんはこの「履修辞退制度」を安易に利用するのではなく、「履修要項」および「シラバス」を熟読して学修計画をしっかりと立て、慎重な履修登録をするよう十分留意する必要があります。

(2) 履修辞退による成績評価のあり方

本学が設定する履修辞退の申出期間中に辞退を申し出た場合、当該授業科目の成績評価は行いません。したがって、履修辞退した科目は平均点やGPAの計算対象から除外されるとともに、成績証明書への記載対象からも除外されます。なお、各学期にWEBで通知される個人別の成績表には履修履歴および履修辞退履歴として「J」の記号が記載されます。

(3) 履修辞退できない科目

原則として、開講科目のすべてを「履修辞退」の対象科目としています。

ただし、下記のとおり、カリキュラムの関係において、学部（学科・課程・専攻・コース）で学修する上で“必修としている授業科目”や“予め定員を設け募集した科目”、“本学以外の団体等への手続きにおいて調整が困難である科目”など「履修辞退制度」の対象としない（＝履修辞退を認めない）科目を設定していますので、履修登録の際、必ず確認してください。

<履修辞退対象外科目の一覧>

科目区分	備 考
必修科目	
事前登録が必要となる科目（注）	教室の規模や教室の設備、授業の企画規模等にあわせて、予め受講者数の制限を設けて募集した科目については、履修辞退を認めません。
「大学コンソーシアム京都」および「環びわ湖大学・地域コンソーシアム」の単位互換科目として受講している科目	本学学生が本学他学部の開講する科目を、左記の2団体が展開する「単位互換科目」として受講している場合、履修辞退を認めません。
教育実習、介護等体験に関する科目	実習校との事前調整を行う科目であるため、履修辞退を認めません。
サマーセッション科目	本制度となじまない科目であることから、履修辞退は認めません。
その他、農学部が設定する科目	入門ゼミや実験・実習科目等は、クラスや班分けを行うため履修辞退をすると授業の運営に影響があることから、履修辞退を認めません。また、インターンシップ科目等は受け入れ先との事前調整を行うため、履修辞退を認めません。 「入門ゼミ」、「基礎演習Ⅰ」、「基礎演習Ⅱ」、「基礎演習」 「管理栄養士基礎演習」、「農学部インターンシップA」 「農学部インターンシップB」、「海外農業体験実習A」 「海外農業体験実習B」、「統計処理実習」 「SDGsと食料農業システム概論」、「スポーツ技術学」 その他、実験・実習系科目

（注）教養教育科目の「予備登録」が必要となる科目とは異なります。

(4) 履修辞退の申出期間

履修辞退の申出期間は各学期において1週間程度設けられます。学期はじめの履修説明、ポータルサイト(学内者向け)、学生手帳等で確認してください。

(5) 履修辞退の申し出方法

履修辞退の申出期間にポータルサイトの「Web履修辞退申請」から申請してください。

受付期間中にポータルサイトを利用した申請ができない理由を有する者は、事前に農学部教務課に相談してください。

(6) 留意事項

- ① 通年科目について、5月頃の履修辞退期間中に履修辞退の申し出をした場合は、第2学期(後期)の当該科目の単位数は履修登録制限単位から除外され、カウントされません。また、後期の履修登録がある場合は、履修辞退した科目の同一曜講時にセメスター型の後期開講科目を履修登録することができます。

なお、履修辞退の申し出による単位数計算は以下のとおりです。

履修辞退申出時期	科目区分	単位数の計算
5月頃	前期科目	カウントします
	通年科目	第1学期(前期)分はカウントしますが、第2学期(後期)分はカウントしません
10月頃	後期科目	カウントします
	通年科目	カウントします

- ② 履修辞退申し出による授業料(科目等履修生は履修料)の返還はしません。

なお、単位制学費の対象学生(留年生)が、通年科目の辞退を第1学期(前期)期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合、第2学期(後期)分の授業料は徴収しません。

また、科目等履修生が、通年科目を第1学期(前期)期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合、第2学期(後期)分の履修料は理由の如何にかかわらず返還しません。

6. 配当セメスターの考え方

それぞれの科目には配当セメスターが設定されており、設定された配当セメスター以降の履修が可能であることを示しています。

- 必修科目は、配当されているセメスターに登録してください。
- 配当セメスターにかかわらず、開講期(開講セメスター)は年度により変更することがあります。
- 一部の科目については、配当セメスター以外での履修を行うことができないなどの特性があります。詳細は、農学部教務課窓口にて確認してください。
- 9月入学・半期休学等の理由により、科目配当に極端な不利益があると判断されるときは、配当セメスターより前の履修を認めることがあります。ただし、履修登録にあたっては予め農学部教務課窓口で相談してください。

Ⅵ 成績評価

成績評価は、個々の科目について定められている単位数に相当する量の学修成果の有無やその内容を評価するために行われます。成績評価は、一般的に100点満点法で評価され、60点以上の評価を得られた場合に所定の単位が認定されます。

1. 成績評価の方法

成績評価は、おおよそ次の4種類の方法があり、これらのうちのひとつまたは複数を組み合わせて評価されます。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められています。その内容はWebシラバスに明示されているので参照してください。

- ①筆答試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③実技試験による評価
- ④授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、担当者が設定する方法による評価

2. 成績評価の基準

- ①成績評価は、100点を満点とし、60点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とします。
- ②一度合格点を得た科目（=既修得科目）は、いかなる事情があっても、再度履修して成績評価を受けることはできません。
- ③履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は0点となります。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合があります。
- ④段階評価と評点の関係は、次のとおりとします。

段階評価と評点			
S：90～100点	A：80～89点	B：70～79点	C：60～69点

※上記の段階評価以外に、実習科目はG（合格）・D（不合格）で評価する場合があります。
また、単位認定された科目の場合はN（認定）となります。

- ⑤学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しません。
- ⑥学業成績表は、第1学期（前期）分を9月中旬、第2学期（後期）分を3月下旬にポータルサイトよりダウンロードできます。日程の詳細は、別途ポータルサイトでお知らせします。

3. GPA制度

「GPA」とは、Grade Point Average（成績加重平均値）のことで、各教科の評点（100点満点）を下表のように換算し、その合計を履修登録科目の総単位数で割って算出したものです。

このGPA制度は、従来の修得単位数による学修到達度の判定に加え、どの程度のレベルで単位を修得したかを一目で表す指標として考えられたものです。

農学部では、このGPAを学習指導等の参考として扱うことがあります。

評価点	グレードポイント
100～90点	4
89～80点	3
79～70点	2
69～60点	1
59点以下	0

<計算式>

$$\text{GPA} = \frac{\sum (\text{登録科目のグレードポイント} \times \text{単位数})}{\sum (\text{登録科目の単位数})}$$

※随意科目、履修辞退した科目については、登録科目には含みません。
※成績を評価点(100点満点)で評価しない科目は算入しません。

4. 成績疑義

成績評価について疑義がある場合は、必ず所定の「成績疑義申出用紙」に疑義内容を記入した後、農学部教務課窓口へ提出してください。授業担当者に直接申し出てはいけません。

なお、申出期間および申出方法については、別途ポータルサイトで確認してください。

5. 筆答試験の時期

筆答試験をその実施時期によって分類すると、次の2種類になります。

1) 定期試験

個々の科目について定められている授業期間の終了時期（通常の場合は学期末）に実施する筆答試験。

2) 追試験

定期試験欠席者のために、定期試験終了後に改めて実施する筆答試験（11. 追試験の項を参照のこと）。

6. 受験資格

次の各号に定める条件をすべて備えていないと受験資格を失い、受験することができなくなる恐れがあります（追試験については、追試験の項を参照のこと）。

- 1) その科目について、有効な履修登録がなされていること。
- 2) 定められた学費を納入していること。
- 3) 授業に出席していること。原則として3分の2以上の出席があること。
- 4) 授業担当者の求める諸条件を満たしていること。

7. 受験の注意事項

筆答試験に際しては、次のことを守らなければなりません。

- 1) 指定された試験場で受験すること。
- 2) 試験開始20分以上の遅刻および30分以内の退室は許されない。
- 3) 学生証を携帯すること。
- 4) 学生証は写真欄が見えるよう机上通路側に置くこと。**万一、学生証を忘れた場合には、農学部教務課窓口で「試験用臨時学生証」の交付を受けておくこと。**
- 5) 答案（解答）用紙が配付されたら直ちに年次、学籍番号、氏名を「ペンまたはボールペン」で記入すること。
- 6) 参照を許可されたもの以外は、指示された場所におくこと。
[担当教員の指示がない限り、電子機器等の使用を認めない。]
[持ち込み条件が「全て可」であっても、携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ等情報端末機器の使用は一切認めない。]
- 7) 試験開始前に携帯電話等の電源を切り、かばんの中に入れること。
- 8) 答案（白紙答案を含む）を提出しないで退室しないこと。

8. 答案の無効

次の場合は、その答案は無効となります。

- (1) 無記名の場合
- (2) 指定された場所に提出しない場合
- (3) 試験終了後、試験監督者の許可なく氏名を書き直した場合
- (4) 受験態度の不良な場合

9. 筆答試験における不正行為

(1) 受験中に不正行為を行った場合は、その学期に履修登録をした全科目の単位認定を行いません。さらに、不正行為の程度により、学則に定める懲戒を加えることがあります。

次に該当する場合は、これを不正行為と見なします。

- ① 私語や態度不良について注意を与えても改めない場合
- ② 監督者の指示に従わない場合
- ③ 身代わり受験を行ったとき、または行わせた場合
- ④ カンニングペーパー等を所持していた場合
- ⑤ 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ等情報端末機器をかばん等にしまっていない場合
- ⑥ 許可された以外のものを参照した場合
- ⑦ 机上等への書き込みをしていた場合
- ⑧ 許可なくして物品や教科書、ノート類を貸借した場合
- ⑨ 答案用紙の交換および見せ合いをした場合
- ⑩ その他、①～⑨に準じる行為を行った場合

10. レポート試験における不正行為

レポート試験については、既存文書からの不正な転用等が認められたとき（例えば、インターネット等からコピーしたような場合）は、当該レポートを無効扱いとし、単位認定を行わない場合があります。

11. 追試験

(1) 追試験の受験資格

追試験は次の各号のいずれかの理由により定期試験を欠席し、所属学部が認めると受験することができます。

- ① 病気、怪我又は試験時における体調不良等
- ② 親族（原則として3親等まで）の葬儀への参列
- ③ 公認サークルの公式戦への選手としての参加
- ④ 交通機関の遅延等
- ⑤ 交通事故、災害等
- ⑥ 就職活動（説明会、筆記試験、面接等）
- ⑦ 資格試験（公務員試験、公的資格試験等）の受験
- ⑧ 単位互換科目の試験受験
- ⑨ インターンシップ実習（協定型インターンシップ、大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム）又は博物館実習への参加
- ⑩ 裁判員（候補者）への選任
- ⑪ その他所属学部が特に必要と認める理由

追試験受験希望者は、追試験受験願および欠席理由証明書（医師診断書、交通遅延証明書（WEB発行の証明書可）または事故理由書、就職試験等による場合は会社あるいは団体が発行する証明書等）をその科目の試験日を含めて4日以内（土・日・祝日は含めない。ただし、土曜日が試験日の場合は試験当日を含む4日以内）に農学部教務課窓口へ提出しなければなりません。

なお、医師の診断の結果、インフルエンザなどの流感により外出が制限され、定期試験を受験できなかった場合は、追試験申込期限内に農学部教務課まで連絡してください（電話による連絡可）。

(2) 追試験受験料

追試験の受験料は、1科目1,000円です。

(3) 追試験を実施しない科目

実技・実習科目、レポート試験による科目、特別に指定された科目については、原則として追試験は行いません。

詳細については、定期試験前にポータルサイトまたは掲示等にて確認してください。

12. 筆答試験時間

筆答試験時間割は、原則として試験の14日前にポータルサイトにより発表します。

試験時間は、次のとおりです。

	1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時	6 講時
開始時刻	9 : 15	11 : 00	13 : 30	15 : 15	16 : 55	18 : 35
終了時刻	10 : 15	12 : 00	14 : 30	16 : 15	17 : 55	19 : 35

※通常の講義時間と異なるため注意すること。

第 2 部

教 育 課 程

1. 授業科目の区分

本学の教育課程（カリキュラム）の編成は、4年間（8 Semester）にわたっており、その内容は次のとおり構成されています。これらの分類のことを「授業科目の区分」といいます。

授業科目	教養教育科目	科目区分	科目名
		「仏教の思想」科目	仏教の思想A、仏教の思想B
		言語科目	英語総合1(A)、英語総合1(B)、英語総合2(A) 英語総合2(B)、英語総合3、英語総合4
		教養科目	
		人文科学系科目	
		社会科学系科目	
		自然科学系科目	
	学部専攻科目	学部必修科目	
	学科基礎分野	学科基礎科目A	
		学科基礎科目B	
	学科応用分野	学科応用科目	
		総合演習・特別研究	

農学部では、さまざまな科目が一定の教育課程（カリキュラム）に沿って展開しており、これらの科目は「教養教育科目」と「専攻科目」に大別されます。

「教養教育科目」とは、「仏教の思想」科目、言語科目、教養科目の3つの科目区分で構成されており、これら全体を教養教育科目とよびます。

また、「専攻科目」とは、「食」や「農」に係わる内容を専門的に学修するための科目です。「専攻科目」は「学部必修科目」、「学科基礎分野」、「学科応用分野」に大別され、皆さんが、「食」や「農」について、「基礎」から「応用」へ段階を追って学修が進められるよう構成されています（詳細は学科により異なります）。

2. 必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目

すべての科目は必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目のいずれかに指定されています。

- 「必修科目」とは、卒業要件を満たすために必ず履修し単位を修得しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができません。
- 「選択必修科目」とは、指定された科目群の内から決められた数の科目を任意に選択して単位を修得しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。また、これらの科目は、指定された単位数を超えて修得した場合、超えた分の単位数を選択科目の単位数の一部に充てることができます。
- 「選択科目」とは、どの科目を履修するかはすべて学生の自由に任されている科目です。ただし、卒業要件上、指定された科目群の内から一定の単位数を修得することが義務づけられており、この要件を満たしていない場合は卒業の認定を受けることができません。
- 「随意科目」とは、主として各種の資格取得等にかかわる科目であって、卒業要件とは無関係です。

3. クラスの編成

(1) クラスとは

クラスとは教育上の効果を考慮して、受講者を適切な規模に分割したものです。

(2) クラスの種類

クラスには次の種類があります。

①必修外国語クラス

②学部専攻科目クラス（入門ゼミ、食の循環実習、基礎演習、実験・実習科目等）

これらはそれぞれに定員が異なるためクラスの構成員は一致しません。

Ⅱ

教養教育科目の教育目的および履修方法

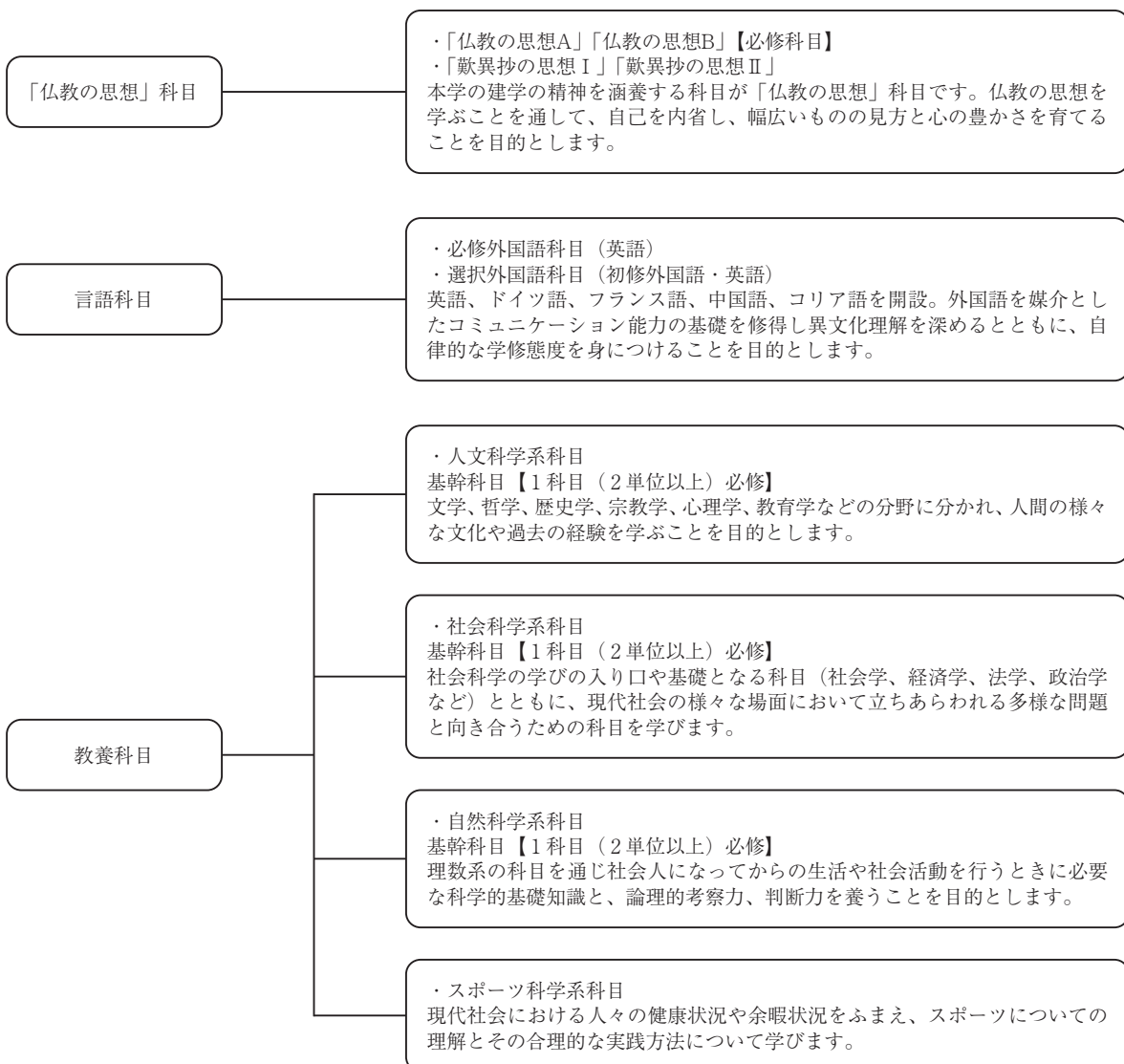
1. 教養教育とは

(1) 教養教育の理念・目的

龍谷大学の教養教育は、人間の根源的な問いからその内面を見つめる思考の幅を広げ、人間をとりまく多様な世界を知ることを通じて、自己を確立できる人間の育成を目指して開講されています。このため、建学の精神に基づく高い倫理性や豊かな人間性ととも、知性・感性を兼ね備え、現代社会でたくましく生きる力を持った人間の形成、つまり、幅広い知識と知的な諸技法の修得に基づく論理的思考力や判断力の涵養により、社会性をもって現実を正しく理解する力と、国際的なコミュニケーション能力をもった「専門性を身につけた教養人の育成」の一翼を担うことを目的としています。

(2) 教養教育科目とは

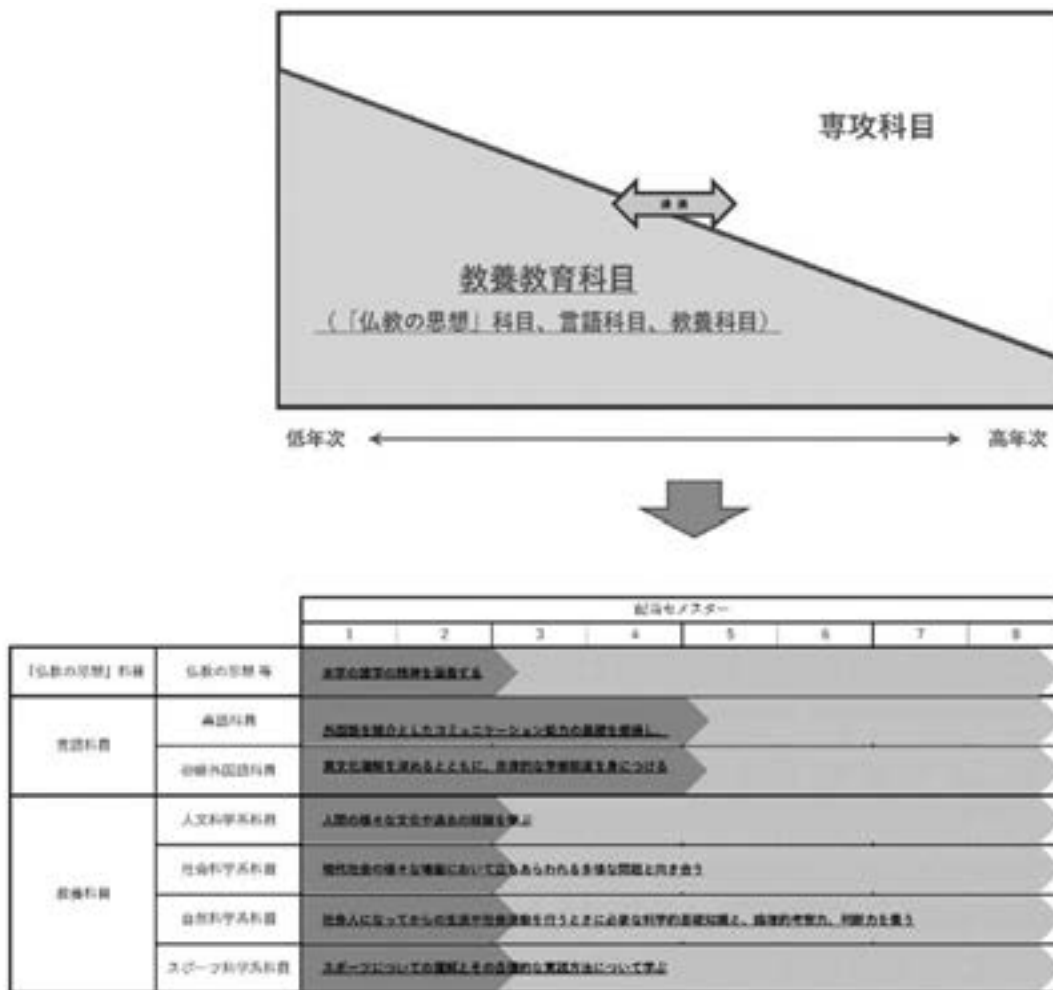
本学の教養教育は、「仏教の思想」科目、言語科目、教養科目の3つの科目区分で構成されており、これら全体を教養教育科目とよびます。



教養科目

教養科目は、「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」「スポーツ科学系科目」の4つの系列に分類されており、各系列から偏りなく履修することを通じ、幅広い教養を身につけることを可能にしています。全ての教養科目は自由に選択できますが、選択必修として「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」に設置されている基幹科目（学びの入門となる科目や諸学の基本を学ぶ科目）の中から各1科目（2単位）以上修得する必要があります。なお、2単位を超えて修得した基幹科目の単位については、教養教育科目の選択科目として認定されます。

(3) カリキュラムマップ



2. 教養教育の必修科目

「教養教育科目」として開設している科目の中から、次表に示す科目を必修科目・選択必修科目（基幹科目）として合計16単位修得しなければなりません。

科目区分	科目名	各単位数	合計単位数
「仏教の思想」科目	仏教の思想A、仏教の思想B	各2単位	4単位
言語科目	英語総合1(A)、英語総合1(B) 英語総合2(A)、英語総合2(B) 英語総合3、英語総合4	各1単位	6単位
教養科目			
人文科学系科目	選択必修科目として定める各科目（基幹科目）	1科目(2単位)以上	2単位以上
社会科学系科目	選択必修科目として定める各科目（基幹科目）	1科目(2単位)以上	2単位以上
自然科学系科目	選択必修科目として定める各科目（基幹科目）	1科目(2単位)以上	2単位以上

① 仏教の思想の履修

「仏教の思想」科目区分のうち、「仏教の思想A、B（各2単位）」は、配当されたセメスターにおいて必ず履修してください。配当されたセメスターで単位を修得できなかった場合は、次年次以降に再履修しなければなりません。詳細は本ページ以降の説明をよく読んでください。

② 英語の履修

「言語科目」区分のうち、必修外国語として英語6単位を履修しなければなりません。配当されたセメスターで単位を修得できなかった場合は、次学期以降再履修しなければなりません。詳細は本ページ以降の説明をよく読んでください。

③ 教養科目の履修

「教養科目」区分のうち、「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」に設置されている「基幹科目」（学びの入門となる科目や諸学の基本を学ぶ科目）の中から各1科目（2単位）以上を修得してください。

3. 「仏教の思想」科目

「仏教の思想」科目では、1年次の必修科目「仏教の思想A」「仏教の思想B」と、2年次以降の選択科目「歎異抄の思想Ⅰ」「歎異抄の思想Ⅱ」が開設されています。ここでは「仏教の思想」を中心に説明します。

(1) 目的と意義

本学は「親鸞聖人によって開示された浄土真宗の精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養をもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想」は本学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、本学の一つの個性となっています。この講義では本学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通じて、自己を内省し、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的としています。「仏教の思想」は、各学部のカリキュラムに沿って履修しやすいように、クラス指定で1年次に開講されています。また、入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあります。この「仏教の思想」を平易に理解するために、以下の教育目標を掲げています。

- ① 人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実の宗教を見極める眼を育てる。
- ② 倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。
- ③ 人間学として「仏教の思想」を学ぶ。

- ④ 広い視野を育てるために「仏教の思想」を学ぶ。
- ⑤ 現代世界のあり方を考える思想として「仏教の思想」を学ぶ。
- ⑥ いのちのかけがえのなさに目覚め、異なる意見と対話・交流しあえるような姿勢を培うために、「仏教の思想」を学ぶ。
- ⑦ 「仏教の思想」を通して、龍谷大学の建学の精神を学ぶ。

(2) 履修方法

- ① 必修科目
「仏教の思想A」「仏教の思想B」は必修科目です。配当された Semester において必ず履修してください。
- ② 選択科目
「歎異抄の思想Ⅰ」「歎異抄の思想Ⅱ」は選択科目で、教養教育科目の選択科目として単位認定されます。
- ③ クラス指定
授業内容の系統性を確保するため、「仏教の思想A」、「仏教の思想B」は同一の授業担当者になります。学部指定やクラス指定を行っていますので、時間割の指示にしたがって履修登録してください。
- ④ 「仏教の思想A」「仏教の思想B」の再履修
配当された Semester で不合格となった場合は、2 年次以降に次のとおり再度履修してください。なお、この場合は上記③（同一の授業担当者による受講およびクラス指定）は適用しません。各自、履修登録を行ってください。

年次	Semester	科目名
2 年次	3	「仏教の思想A」(正規クラスを再履修として履修)
	4	「仏教の思想B」(正規クラスを再履修として履修)
3 年次～ (注)	5	「仏教の思想A」(正規クラスを再履修として履修) 「仏教の思想B」(再履修クラス)
	6	「仏教の思想A」(再履修クラス) 「仏教の思想B」(正規クラスを再履修として履修)

(注) 3 年次以上は、同一 Semester で、A・B を同時履修することが可能です。

4. 言語科目

言語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語が開設され、必修外国語科目と選択外国語科目とに区分されます。言語科目のうち、必修外国語科目（英語）6 単位を必ず修得してください。なお、6 単位を超えて修得した単位は、教養教育科目の選択科目として認定されます。

(1) 目的と意義

外国語教育では、母語とはまったく異なる言語に接することで、母語に基づいた思考様式とはまったく異なった思考様式に対する認識・理解を深めることができます。また、これにより、外国の文化、芸術、社会におけるさまざまな伝統や価値観をより深く理解する能力も養われます。さらにそれは、日本語を客観的にながめ、自らの日本語能力を見直すよい機会ともなるでしょう。このような意味で、外国語教育は大学生活に必須の学問的基礎訓練の一環となっています。こうした目標を達成するには、地道な努力の継続が欠かせないこと、また、教室外での自発的な研修も必要であることを心に留めておいてください。

[英語]

●英語（必修科目）の到達目標

辞書を使いながら標準的な語彙を用いた文字または音声による英語の内容を的確に捉えられるように

します。さらに、正確な情報を把握するために基本的な文法構造と語彙を習得します。

1年次では主に英語受信能力の向上に焦点を置き、2年次では発信能力の育成も視野に入れながら、英語の4技能の充実を図ります。さらに2年間の必修を終えた後、3年次以降にも英語継続学修の動機付けを行います。

●英語セミナー（選択科目）の到達目標

英語セミナーは、必修科目で養った基礎的な運用能力のレベルアップを図るとともに、個々のニーズに合わせた英語運用能力の向上を目指します。例えば専門分野での学習や留学に対応できるように、知的情報の受信発信能力のさらなる向上を目標とします。

[初修外国語]

本学では、英語以外の外国語で、歴史的・社会的・文化的に見て重要な言語の中からドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語の4言語を「初修外国語」として開講しています。

英語以外の外国語を学ぶことによって、その運用能力を身につけるとともに、言語一般の普遍的構造や機能に対する理解を深め、世界を複眼的に考察する視点を養います。

(2) 必修外国語科目（英語）の履修

本当に使える外国語の力を身につけたいといった要望に応え、「読む・書く・聴く・話す」といった技能のレベルアップを図るとともに、国際社会において確固とした判断・主張・行動ができるための素地の育成をめざします。

① 開設科目

科目	配当	科目概要	履修方法	再履修
英語総合1(A) 英語総合1(B)	1セメ	基礎的な英語力の見直し	クラス指定が行われます。 指定された科目を履修登録してください。	各科目の次の開講セメスターから再履修が可能です。 予備登録を行い、履修を行ってください。
英語総合2(A) 英語総合2(B)	2セメ	「1」を発展させた基礎力の強化		
英語総合3	3セメ	「1、2」をもとに4技能(Reading、Writing、Speaking、Listening)のさらなる養成		
英語総合4	4セメ			

② 習熟度別クラス編成

必修外国語である英語のクラスは、習熟度別クラス編成を行っています。これは、既習の英語の知識、能力を踏まえつつ、英語圏の文化に対する理解および情報伝達のための英語力（読む、書く、聴く、話す）の総合的向上を図るために、より学生の実態に即した教育を行うためのものです。習熟度別クラスについては、入学時に実施する英語クラス編成テスト（プレイスメントテスト）の得点結果によって編成します。

③ 再履修

必修外国語科目（英語）が不合格になった場合は、再履修科目を履修しなければなりません。

「英語総合（再）」は予備登録が必要となります。

履修方法等については、各学期の履修指導期間にポータルサイト等で周知しますので、希望の曜講時を選択し登録してください。なお、クラスは受講者数が均等になるよう大学で割り振りしますので、受講予定者自身がクラスを選択することはできません。不合格となった科目数しか履修は認められませんのでご注意ください。

(3) 選択外国語科目の履修

選択外国語科目には、新しい言語にチャレンジするための入門科目と発展科目であるセミナー科目が開講されています。より高度な運用能力（読む・書く・聴く・話す）の向上を図るとともに、そのことばが用いられている国・地域の文化的、社会的事情についての理解を深めることをめざします。

① 開設科目・配当セメスター

	1年次		2年次	
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
初修外国語 ・ 初修外国語セミナー	ドイツ語ⅠA、ⅠB フランス語ⅠA、ⅠB 中国語ⅠA、ⅠB 韓国語ⅠA、ⅠB	ドイツ語ⅡA、ⅡB フランス語ⅡA、ⅡB 中国語ⅡA、ⅡB 韓国語ⅡA、ⅡB	ドイツ語セミナーⅠA フランス語セミナーⅠA 中国語セミナーⅠA 韓国語セミナーⅠA	ドイツ語セミナーⅠB フランス語セミナーⅠB 中国語セミナーⅠB 韓国語セミナーⅠB
英語セミナー	英語セミナー A1 英語セミナー G1	英語セミナー A2 英語セミナー G2	英語セミナー B1 英語セミナー C1 英語セミナー D1 英語セミナー E1 英語セミナー F1	英語セミナー B2 英語セミナー C2 英語セミナー D2 英語セミナー E2 英語セミナー F2
海外英語研修	-	海外英語研修(注)	-	-

(注) 1・2年次のみ履修可

② 履修方法

選択外国語科目は全て予備登録が必要となります。

「海外英語研修」については、グローバル教育推進センターにおいて、申込み手続きを行ってください (Web履修登録不要)。

③ 先修制

選択外国語科目には先修制が定められていますので履修には注意が必要です。

5. 教養教育科目における「先修制」

教養教育科目において「先修制」指定科目は次のとおりです。

先修制が設定されている授業科目とその履修の要件となる授業科目を同一学期に履修することはできません。

<教養教育科目>

授業科目	履修の要件となる授業科目及び単位数
ドイツ語セミナーⅠA・ⅠB	「ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB」(各1単位)のいずれか1単位の修得
フランス語セミナーⅠA・ⅠB	「フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB」(各1単位)のいずれか1単位の修得
中国語セミナーⅠA・ⅠB	「中国語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB」(各1単位)のいずれか1単位の修得
韓国語セミナーⅠA・ⅠB	「韓国語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB」(各1単位)のいずれか1単位の修得

6. 学科指定・クラス指定

必修科目は、「学科指定」又は「クラス指定」されている場合がありますので、別途指示に従って履修登録してください。

7. 教養教育科目の予備登録

教養教育科目のうち、次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整する「予備登録制」がとられています。この予備登録は、通常の履修登録に先立って行われます。予備登録の結果発表にしたがって履修登録を行ってください。

予備登録を行う際は、学期ごとに定められている履修制限単位数に基づき履修計画をたてた上で、予備登録を行ってください。

- ① 「英語総合（再）」
- ② 「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「ロシア語」の各選択外国語科目。
- ③ 「英語セミナー」、「ドイツ語セミナー」、「フランス語セミナー」、「中国語セミナー」、「ロシア語セミナー」の各科目。
- ④ 「自然観察法」
- ⑤ 「スポーツ技術学A・B（再）」は、※通常の予備登録とは異なる方法で行います。

なお、上記以外の科目においても「予備登録制」をとる場合があります。ポータルサイト等で周知を行いますので、必ず予備登録時に確認をしてください。

予備登録の結果、受講が許可された科目は、Web履修登録画面にあらかじめ確定した状態で表示されます。その場合、登録の取消はできませんので注意してください。

8. 日本語科目（留学生対象科目）の履修

留学生を対象に、「日本語」を開講しています。

履修・登録にあたっては必ず農学部教務課窓口で相談してください。

科目名	単 位	配当年次	履修単位の取扱い
日本語	1	1年次以上	2回受講することが可能です。修得した単位は最大2単位を必修外国語として認定することができる。ただし、必修外国語を6単位修得した場合は、1単位までは、教養教育科目の選択科目（卒業要件単位）として認定し、残りの単位は、随意とする。

9. 教養教育科目開設科目

◎は必修科目 ●は選択必修科目／基幹科目 ○は選択科目

科目区分	授業科目名	単位数	配当年次・セメスター				備考
			1年次		2年次		
			前 1	後 2	前 3	後 4	
「仏教の思想」科目	仏教の思想A	2	◎				2科目（4単位）必修
	仏教の思想B	2		◎			
	歎異抄の思想Ⅰ	2			○		
	歎異抄の思想Ⅱ	2				○	
言語科目	英語総合1(A)	1	◎				6科目（6単位）必修
	英語総合1(B)	1	◎				
	英語総合2(A)	1		◎			
	英語総合2(B)	1		◎			
	英語総合3	1			◎		
	英語総合4	1				◎	
	英語セミナーA1	2	○				
	英語セミナーA2	2		○			
	英語セミナーB1	2			○		
	英語セミナーB2	2				○	
	英語セミナーC1	2			○		
	英語セミナーC2	2				○	
	英語セミナーD1	2			○		
	英語セミナーD2	2				○	
	英語セミナーE1	2			○		
	英語セミナーE2	2				○	
	英語セミナーF1	2			○		
	英語セミナーF2	2				○	
	英語セミナーG1	2	○				
	英語セミナーG2	2		○			
	海外英語研修	2		○			1・2年次のみ履修可
	ドイツ語ⅠA	1	○				
	ドイツ語ⅠB	1	○				
	ドイツ語ⅡA	1		○			
	ドイツ語ⅡB	1		○			
	フランス語ⅠA	1	○				
	フランス語ⅠB	1	○				
	フランス語ⅡA	1		○			
	フランス語ⅡB	1		○			
	中国語ⅠA	1	○				
	中国語ⅠB	1	○				
	中国語ⅡA	1		○			
	中国語ⅡB	1		○			
	韓国語ⅠA	1	○				
	韓国語ⅠB	1	○				
	韓国語ⅡA	1		○			
韓国語ⅡB	1		○				
ドイツ語セミナーⅠA	2			○			
ドイツ語セミナーⅠB	2				○		
フランス語セミナーⅠA	2			○			
フランス語セミナーⅠB	2				○		
中国語セミナーⅠA	2			○			
中国語セミナーⅠB	2				○		
韓国語セミナーⅠA	2			○			
韓国語セミナーⅠB	2				○		
日本語	1		○			留学生対象科目	

科目区分	授業科目名	単位数	配当年次・セメスター				備考		
			1年次		2年次				
			前 1	後 2	前 3	後 4			
人文科学系科目	哲学入門	2	●				1科目（2単位以上）必修		
	倫理学入門	2	●						
	倫理学A	2	●						
	クリティカル・シンキング	2	●						
	宗教学のすすめ	2	●						
	宗教の世界	2	●						
	日本の文学M	2	●						
	日本の文学N	2		●					
	アジアの文学A	2	●						
	アジアの文学B	2	●						
	西洋の文学A	2	●						
	西洋の文学B	2			●				
	言語学入門	2	●						
	歴史入門	2	●						
	日本の歴史M	2	●						
	日本の歴史N	2		●					
	日本の文化	2	●						
	西洋の歴史M	2	●						
	西洋の歴史N	2	●						
	心理学入門	2	●						
	教育原論A	2	●						
	教育原論B	2		●					
	倫理学B	2			○				
	アジアの歴史M	2			○				
	アジアの歴史N	2				○			
	アジアの文化	2			○				
	心理学A	2			○				
	心理学B	2				○			
	学習・発達論A	2			○				
	学習・発達論B	2				○			
	社会科学系科目	日本国憲法	2	●					1科目（2単位以上）必修
		法学のすすめ	2	●					
政治学のすすめ		2	●						
社会学のすすめ		2	●						
地理学のすすめ		2	●						
経済学のすすめ		2	●						
経営学のすすめ		2	●						
国際学のすすめ		2	●						
文化人類学のすすめ		2	●						
社会調査のすすめ		2	●						
社会統計学のすすめ		2	●						
人権論A		2	○						
人権論B		2		○					
現代社会とメディア		2			○				
現代社会と福祉		2			○				
現代社会と法		2			○				
現代社会と労働		2			○				
現代社会の諸問題		2			○				
環境と社会		2			○				
平和学A		2			○				
ジェンダー論		2			○				
国際社会論		2			○				
地域論		2			○				
企業と会計		2			○				
社会思想史		2			○				
情報倫理		2			○				
情報社会とメディア	2	○							
データサイエンス・AI入門	2	○							

科目区分	授業科目名	単位数	配当年次・セメスター				備考	
			1年次		2年次			
			前 1	後 2	前 3	後 4		
教養科目	自然科学系科目	生活の中の数学	2	●				1科目(2単位以上)必修
		生活の中の統計技術	2	●				
		生活の中の化学	2	●				
		生活の中の物理	2	●				
		生活の中の生物学	2	●				
		生活の中の地学	2		●			
		生命と科学	2			●		
		現代の技術	2		○			
		自然観察法	2			○		
		里山学	2	○				
		環境の科学	2			○		
		人類の科学	2			○		
		情報と人間	2		○			
	現代社会と栄養	2	○				食品栄養学科では履修不可	
	スポーツ系科目	健康とスポーツ	2			○		
		現代社会とスポーツ	2		○			
スポーツ技術学A		1	○					
スポーツ技術学B		1		○				
スポーツ文化論		2			○			
教養教育科目特別講義	教養教育科目特別講義	2	○				4科目(8単位)まで卒業要件単位として認める	
English language (Ryukoku Intercultural Program)		詳細については、グローバル教育推進センターもしくは農学部教務課にお問い合わせください。						
Lecture (Ryukoku Intercultural Program)								
Volunteer (Ryukoku Intercultural Program)								

注意事項

- 各印は配当セメスターを示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です(一部例外あり)。
(例：1年次配当科目であれば、2年次以降生も受講可能)
- 上記配当セメスターに関わらず、開講セメスターは年度により変更することがあります。
また、年度により不開講になることがあります。詳細は、WEB時間割表およびWeb履修登録画面で確認してください。
- 同一の科目名で授業担当者が異なる場合でも同一科目として取り扱います。
よって、同じセメスターにおいて、二つ以上同時に履修することや一度単位認定された科目を再度履修することはできません。
- 同一の科目名でありながら、「〇〇A」「〇〇B」「〇〇M」「〇〇N」とある科目や「〇〇I」「〇〇II」とある科目は、それぞれ独立した科目であり、いずれも卒業要件として認定されます。「〇〇A」という科目を修得していなくても、「〇〇B」の履修は可能です。なお、「〇〇I」「〇〇II」の「I」「II」は科目内容のグレードを表していますので、できるだけ順序だてて履修してください。
- 「教養教育科目特別講義」は複数の科目が開講されますが、卒業要件単位として認められるのは4科目(8単位)までです。

食品栄養学科では履修不可の科目があります。

Ⅲ

農学部専攻科目の教育目的および履修方法

農学部では、確かな知識・スキルと高度な倫理観に基づき、「食」や「農」に関わる様々な問題の解決に取り組み、今後の農業の振興とそれを通じた社会全体の発展を牽引できる人材を養成することを目的としています。

こうした目的を達成するため、専攻科目の中に、次のような科目区分を設け、「基礎」から「応用」へと段階的・系統的に学修が進められるよう教育課程（カリキュラム）を編成しています。

科目群		概要
①	学部必修科目	農学部における「学びの核」の構築や「農学」の概要の理解、「学びへの態度」の形成、「感謝」や「喜び」といった「農」の持つ本質の体得などを目的とした、農学部全学生の必修科目を配置する。
②	②-1 学科基礎科目A	農学部がめざす「文理融合型教育」を体現する科目群であり、「学科の文理を問わず、農学部の学生であるならば理解しておくことが望ましい」科目を配置する。
	②-2 学科基礎科目B	各学科において高年次での学科応用分野を学ぶための基盤形成を目的とした科目群であり、「入門ゼミ」、「基礎演習」、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を含めた基礎的科目を中心に配置する。
③	③-1 学科応用科目	低年次で身に付けた幅広い「食」や「農」に関する知識・技能をもとにして、専門的な知識・スキルを修得するための科目群であり、各学科の分野に則した専門科目を中心に配置する。
	③-2 総合演習・特別研究	各自が所属した研究室において実施されるゼミナール（総合演習Ⅰ～Ⅲ、総合演習Ⅰ～Ⅳ）及び4年間の学修の集大成である「特別研究」を配置する。

1. 必修科目

農学部全学科で共通して開講する「学部必修科目」（「農学概論」、「食と農の倫理」、「食の循環実習Ⅰ」、「食の循環実習Ⅱ」）及び各学科が指定する「必修科目」は、指定された Semester で必ず履修してください。修得単位数が124単位以上を超えていても、必修科目が未修得の場合は、卒業の認定を受けることはできません。

なお、学部必修科目については、学科ごとにクラス指定を行う場合がありますので、各自が所属する学科の指定されたクラスを履修登録・受講してください。

<学部専攻科目における必修科目>

学 科	学部必修科目	その他の必修科目
生 命 学 科	農学概論 食と農の倫理 食の循環実習Ⅰ・Ⅱ	遺伝学Ⅰ、植物生理・生化学Ⅰ、基礎生物学実習、基礎化学実習、生命科学実習A・B
農 学 科		植物育種学、作物学Ⅰ、基礎生物学実習、基礎化学実習、農場実習、農学専門実験
食 品 栄 養 学 科		健康管理概論、公衆衛生学Ⅰ、生化学、解剖生理学、運動生理学、食品化学、食品学、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論Ⅰ、臨床栄養学Ⅰ、公衆栄養学、給食経営管理論Ⅰ
食料農業システム学科		ミクロ経済学、食料・農業経済学
		総合演習Ⅰ～Ⅲ 特別研究
		総合演習Ⅰ～Ⅳ 特別研究

2. 履修必修科目

履修必修科目とは、専攻科目を学修するうえで基本となる科目の中から、必ず履修するよう指導している科目です。卒業要件上の必修科目ではありませんが、以降の学修のために、指定されたセメスターで必ず履修登録・受講してください。

<履修必修科目（履修指導科目）>

学科	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター
生命科学科 農学科	入門ゼミ	—	—	基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ
食品栄養学科	入門ゼミ	—	—	—	管理栄養士 基礎演習
食料農業システム学科	入門ゼミ	—	SDGsと食料農業 システム概論	基礎演習 統計処理実習	—

3. 農学部専攻科目の履修方法

「専攻科目」は、「学部必修科目」、「学科基礎分野」、「学科応用分野」に大別されます。さらに、「学科基礎分野」は「学科基礎科目A」と「学科基礎科目B」、「学科応用分野」は「学科応用科目」と「総合演習・特別研究」に区分されます。

科目区分ごとに、卒業に必要な修得単位数（卒業要件）が定められていますので、それぞれ計画的に履修してください。

4. 農学部専攻科目における「先修制」

農学部専攻科目における「先修制」指定科目は次のとおりです。

先修制を指定している授業科目とその履修の要件となる授業科目を同一学期に履修することはできません。

<学部専攻科目>

食品栄養学科 専攻科目

授業科目	履修の要件となる授業科目及び単位数
給食経営管理実習（校外）	「食品学」（2単位）、「調理学実習Ⅰ」（1単位）、「調理学実習Ⅱ」（1単位）、「基礎栄養学」（2単位）、「栄養教育論Ⅰ」（2単位）、「給食経営管理論Ⅰ」（2単位）、「給食経営管理論Ⅱ」（2単位）の合計7科目
臨地実習Ⅰ（給食経営管理論） 臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）	上記7科目と「臨床栄養学Ⅰ」（2単位）の合計8科目
臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）	上記8科目と「公衆栄養学」（2単位）の合計9科目
特別臨地実習Ⅰ（給食経営管理論） 特別臨地実習Ⅱ（公衆栄養学） 特別臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）	「管理栄養士免許証の取得に関する本学の開講科目」〈管理栄養士総合演習、臨地実習Ⅰ（給食経営管理論）、臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）、臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）を除く〉の合計48科目

5. 進級制度（農学部農学科のみ）

農学部農学科では進級制度があるため、2年次から3年次への進級時に、以下の進級要件（在学期間及び修得単位数）を満たしていなければ進級できません。進級に必要な在学期間及び修得単位数は次のとおりです。

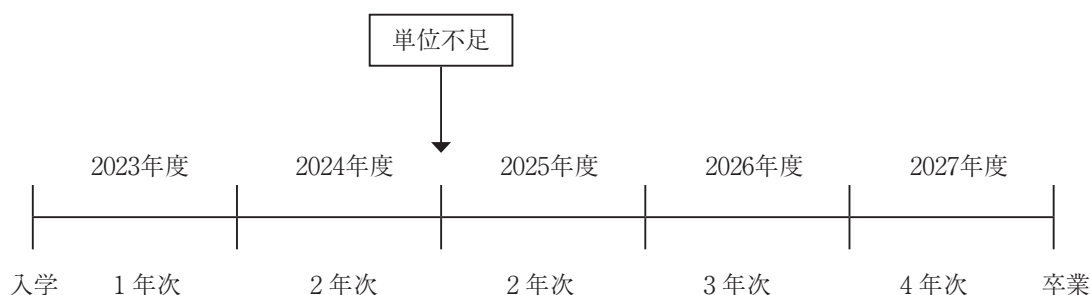
(1) 進級要件

進級年次	在学期間（最低）	修得単位数（卒業要件）
3年次進級	2年間	62単位 ※2年次終了時
<参考>卒業要件	4年間	124単位

(2) 進級に係る年次の取り扱い

2年次から3年次へ進級できなかった場合の「年次」の進行は原年次復帰方式とします。学籍異動上は次のような扱いとなります。

例) 2025年度に3年次へ進級できなかった場合



6. 「食の循環実習」

「食の循環実習Ⅰ・Ⅱ」は、本学農学部のコネクトである「食の循環」（生産・加工・流通・消費・再生）にかかる一連の流れを体験する実習科目であり、4学科が合同で開講します。

学科を超えたグループ（班）を構成し、それぞれのグループで、栽培計画の立案、畑の整備・土づくり、作付け、栽培管理、収穫、収穫後の評価、加工等の実習や6次産業化の現場見学等を行います。

7. 「演習科目」（ゼミナール）

開講科目の中で「もっとも大学らしい授業」が少人数で開講する「演習」（ゼミナール）です。教員の講義により進められる講義科目とは異なり、演習科目は皆さんが中心となって学修を進めていくものです。

農学部では、以下のような演習科目を開講しています。いずれも「必修科目」又は「履修必修科目」に指定されていますので、必ず履修登録・受講してください。

(1) 「入門ゼミ」 <第1 Semester>：全学科対象

「入門ゼミ」は、大学入門科目として位置づけており、大学での学修を有意義にするために必要な学び方のノウハウなどの修得を目的としています。レポート作成や電子情報を取得する際のルールや、キャリアパスをどのように捉えておくべきかという心得などの修得をめざします。

(2) 「基礎演習Ⅰ」 <第4 Semester>：生命科学科、農学科対象

「基礎演習Ⅰ」は、基礎学力と「食の循環実習Ⅰ・Ⅱ」による実習経験を踏まえたうえで、学部での学びとしてもっとも専門性が高い「総合演習・特別研究」の受講に備える導入科目と位置付けています。自らの興味・関心のあるテーマに近接した内容を専門とする教員を選択し、研究室に所属するにあたっての基礎的トレーニングを重ねます。関連する複数の書籍の記載事項をまとめるなどして発表・討論し、グループワークやレジュメの作成方法、パワーポイントでの発表方法などの修得をめざします。

(3) 「基礎演習」 <第4 Semester>：食料農業システム学科対象

「基礎演習」は、基礎学力と「食の循環実習Ⅰ・Ⅱ」による実習経験を踏まえた上で、学部での学びと

してもっとも専門性の高い「総合演習・特別研究」の受講に備える導入科目として位置付けています。第5 Semesterからのゼミナールでの学び（「総合演習・特別研究」）に備え、フィールドワークの手法を学びます。また、グループワークやプレゼンテーションを通して今後の大学生活および将来の目標設定を行うキャリア啓発科目としても位置付けられています。

(4) 「基礎演習Ⅱ」 <第5 Semester>：生命科学科、農学科対象

「基礎演習Ⅱ」は、学部での学びとしてもっとも専門性が高い「総合演習・特別研究」の受講に備える準備科目として位置付けています。自らの興味・関心のあるテーマに近接した内容を専門とする教員を選択し、研究室に所属するにあたって、学術論文や関連書籍の輪読を行い、最新論文の検索方法や専門用語の理解の仕方、実験方法の理解など、より研究現場に近い学びに関するスキル・知識の修得をめざします。

(5) 「総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」 <第6～8 Semester>：生命科学科、農学科、食品栄養学科対象

「総合演習」では、各自が自身の興味や関心のあるテーマに近接した専門分野の教員を選択し、専門的な教育や研究指導を受けます。関連する学術論文・実験技術に関する理解、最新の研究動向や学術論文の理解や、新しい実験技術への挑戦など、特別研究と関連しつつ、その専門分野を展開させるためのスキルと知識の修得をめざします。

(6) 「総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」 <第5～8 Semester>：食料農業システム学科対象

食料農業システム学科では、各自の興味や関心があるテーマにしたがって第5 Semesterよりゼミナールに所属し、「総合演習」を受講します。ゼミナールでは、指導教員から専門的な教育や研究指導を受けます。さまざまな文献や資料を読み、食と農に関わる社会的課題やその研究動向について学びます。また、ゼミナールであるいは個人で調査や見学を行い、現地・現場の実態についても学びます。それら学んだことをゼミナールのメンバーで討論しながら、各自の卒業研究に展開していきます。

8. 「特別研究」

「特別研究」は、卒業研究を実施し、それを取りまとめ発表するまでの一連の過程を、担当教員の指導のもとで実践する科目です。これまでの講義や実験・実習等で修得した知識・技能・体験をもとに、演習での学びを活かし、各自が選択した研究テーマについて、指導教員と連携しつつ研究課題を実施します。

9. 「農学部インターンシップA・B」

農業の現場で生じている諸問題を理解し、これを解決していくためには、実験室や大学が管理する農地での実験・実習のみではなく、農業の現場に積極的に携わることが重要です。

「農学部インターンシップA・B」は、「食」や「農」に関わる実際の現場に触れることにより、それらが直面する現実的な課題や、それらを支える人々の心情に気付くことをめざします。また、自身のキャリアについて考える機会を提供することを目的としています。

事前学習で農業の現場や関連業界の現状や課題を知るとともに、インターンシップでの目標設定、ビジネスマナー、社会人基礎力の理解と自己分析などを学びます。事後学習では実習の振り返りを行い、報告書を作成します。「農学部インターンシップA」は2週間程度の派遣期間です。また、「農学部インターンシップB」は1週間程度の派遣期間です。

「農学部インターンシップA・B」の履修方法、インターンシップ先の紹介や派遣先の配属等の詳細については、別途、説明会を実施しますので必ず参加してください（開催日時等については、ポータルサイトまたは掲示板でお知らせします）。

10. 「海外農業体験実習A・B」

農業は様々な地域の気候的・土壌的特色や地域に根付いた食や農の伝統とともに発達し、今に至っています。「農」に関する真にグローバルな視点の醸成には、海外の農業事情を体験することが重要です。「海外農業体験実習A」では、海外のなかでも特に東南アジアの農業の中心であるタイの農業関連施設や農業の現場、食品工場の見学など、「海外農業体験実習B」では、ハワイの農園、研究施設を訪問し、食と農業を取り巻く様々なフィールドについて学びます。事前学習でタイおよびハワイの農業の現状や課題を知るとともに、現地実習での目標設定、マナー、社会人基礎力の理解と自己分析などを学びます。事後学習では実習の振り返りを行い、英語による研修発表および報告書作成等を行います。

「海外農業体験実習A・B」の履修方法等の詳細については、別途、説明会を実施しますので必ず参加してください（開催日時等については、ポータルサイトまたは掲示板でお知らせします）。

11. 「農学部特別実習A・B・C」、「農学部特別講義」

農学部では、以下の指定した取り組みを「農学部特別実習A・B・C」、「農学部特別講義」の科目に読み替えることで卒業要件単位として認定しています。

- ・「龍谷IP」(Ryukoku Inventive Program)・・・大学改革及び教育改革・教育改善に資する取組を支援する本学の事業
- ・「アグリSDGs」(SDGs：Sustainable Development Goals)・・・2015年9月の国連サミットで採択された、持続可能でよりよい世界を目指す国際目標
- ・「RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム」・・・教養教育科目特別講義（キャリア入門）と「キャリア実習・実習指導」を組み合わせた、約100社の企業・団体等と協定を締結して実施する本学独自の教育プログラム
※詳細はP.85を参照
- ・大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム
- ・他大学が開講する実習 等

当該科目の単位数等は以下のとおりです。

授業科目の名称	単位数	配当セメスター
農学部特別実習A	2単位	第1セメスター
農学部特別実習B	2単位	
農学部特別実習C	1単位	
農学部特別講義	2単位	

各授業科目において指定する取り組みは年度ごとに定めます。その他、受講可能年次、履修方法、開講曜講時等の詳細は、原則前年度の3月下旬～当該年度の4月上旬にポータルサイト等においてお知らせします。

12. 基礎教育科目

「基礎教育科目」は、各学科における学修を進めるために必要な最低限の基礎知識を修得することを目的として開講される科目です（開講科目は学科により異なります）。

各自の習熟度を測定するために、入学後に「到達度テスト（プレースメントテスト）」を実施します。このテストの結果において、基礎教育科目を受講するよう指導された場合は、必ず履修・受講してください。

なお、基礎教育科目は、いずれも「学科基礎科目B」に配置されていますが、随意科目であり卒業要件には含まれません。

<基礎教育科目>

対象学科	基礎教育科目名	単位数	科目区分	開講セメスター
生命科学科	「生物学基礎」	2単位	随意科目	第1セメスター
農学	「生物学基礎」			
食品栄養学科	「基礎生物化学」			
食料農業システム学科	「数学基礎」			

13. 生命科学科の専攻科目

(1) 卒業要件単位数 (生命科学科)

卒業のためには、本学科の教育課程における、各科目区分に応じて単位を修得しなければなりません。合計124単位以上の修得が必要です。

科目区分		卒業要件単位数		備考	
		必修	選択		
教養教育科目	「仏教の思想」科目		4単位		仏教の思想A・B (各2単位)
	言語科目		6単位	6単位以上	英語総合1(A)、1(B) 英語総合2(A)、2(B) 英語総合3 英語総合4 (各1単位)
	教養科目	人文科学系科目	2単位		
		社会科学系科目	2単位		
自然科学系科目		2単位			
専攻科目	学部必修科目		8単位		農学概論 (2単位) 食と農の倫理 (2単位) 食の循環実習I、II (各2単位)
	学科基礎分野	学科基礎科目A		10単位以上	
		学科基礎科目B	8単位	20単位以上	基礎生物学実習、基礎化学実習 植物生理・生化学I、遺伝学I (各2単位)を含む
	学科応用分野	学科応用科目	4単位	24単位以上	生命科学実習A、B (各2単位)を含む
総合演習・特別研究		12単位		総合演習I～III (各2単位) 特別研究 (6単位)	
フリーゾーン			16単位以上		
合計		124単位以上			

※「フリーゾーン (16単位以上)」は、学修の自由度、選択度をより高めるために設けており、各自の関心に応じて、「教養教育科目」及び「専攻科目」のいずれを選択しても良い領域です (ただし、随意科目は除く)。

例えば、このフリーゾーンを利用して、教養教育科目の外国語科目に重点をおいて学ぶこともできれば、専攻科目に重点をおいて「食」と「農」について幅広く、深く学ぶことも可能です。

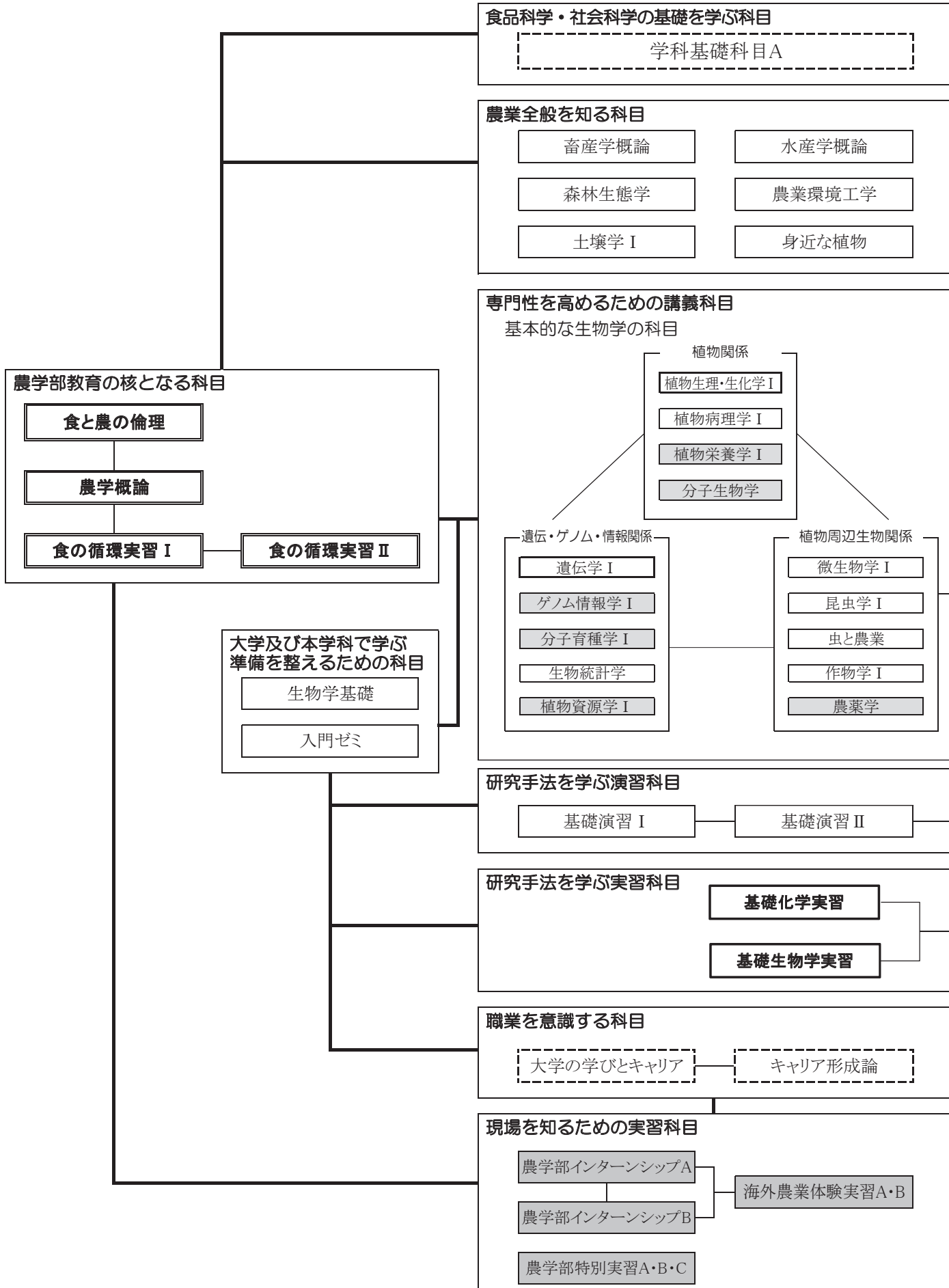
(2) 専攻科目 開設科目 (生命科学科)

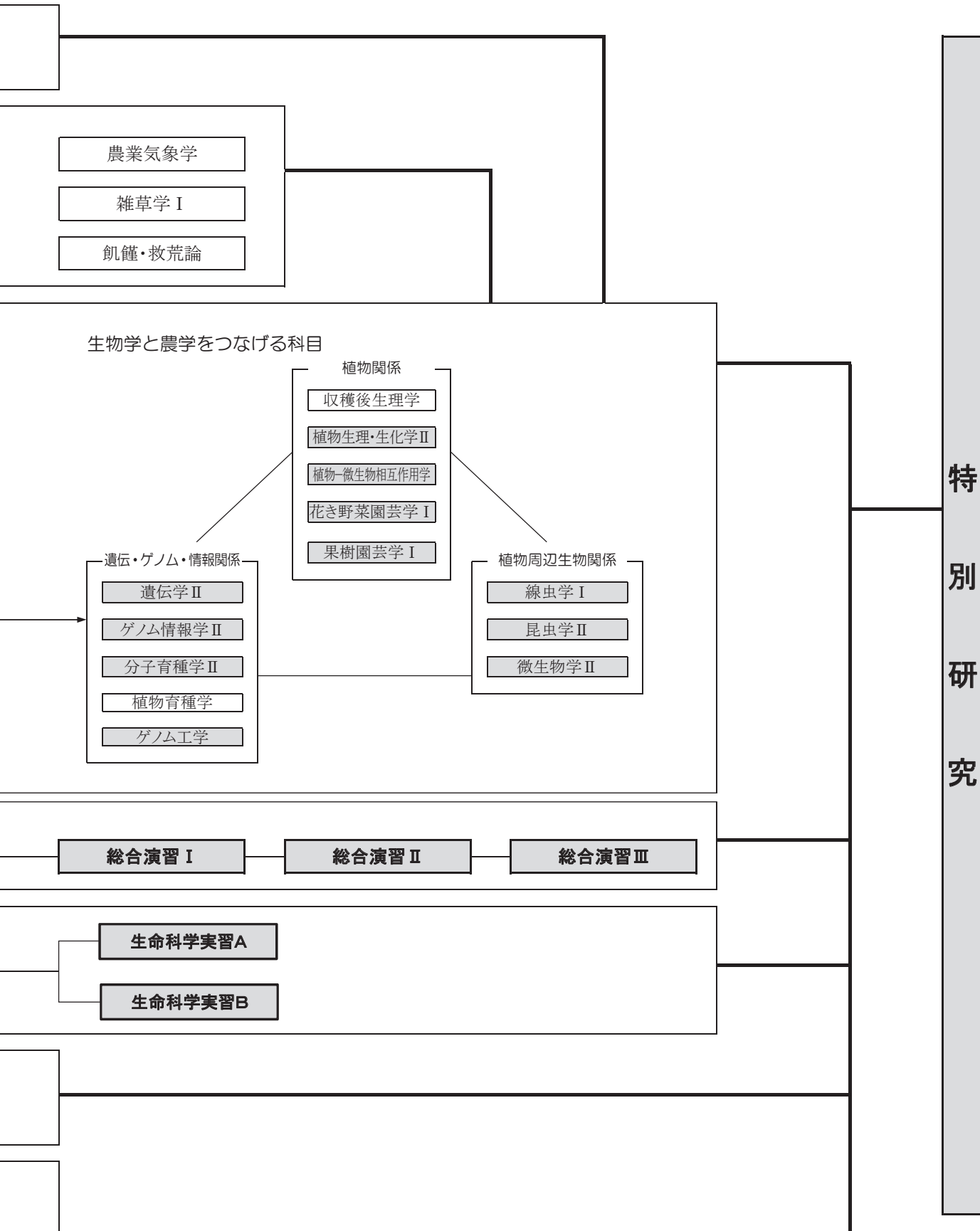
◎必修科目 ●履修必修科目 ○選択科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当 Semester								備考				
			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次						
			前	後	前	後	前	後	前	後					
専攻科目	必修科目	農学概論	2	◎											
	食と農の倫理	2	◎												
	食の循環実習 I	2		◎											
	食の循環実習 II	2			◎										
	学 科 基 礎 分 野	有機化学	2		○										
		分析化学	2						○						
		社会福祉論	2	○											
		食品の安全と法律	2		○										
		食と嗜好の科学	2		○										
		食の文化論	2			○									
		暮らしの中の食品学	2	○											
		身体のしくみと栄養	2	○											
		調理のサイエンス	2	○											
		日本・京滋の食料と農業	2		○										
		欧米の食料と農業	2			○									
		アジア・アフリカの食料と農業	2			○									
		日本の歴史と農業	2		○										
		世界の歴史と農業	2		○										
		科学史・農学史入門	2			○									
		暮らしと経済	2	○											
		会社と農家のしくみ	2	○											
		事例に学ぶ食品マーケティング	2	○											
		大学の学びとキャリア	2	○											
		キャリア形成論	2				○								
		情報教育論	2						○						随意科目
		地学概論	2			○									
		物理学概論	2						○						
		化学概論	2			○									
		生物物理学	2						○						
		地学実験	2						○						
物理学実験		1						○							
生物物理学実習	1						○								
専攻科目	学科基礎分野	入門ゼミ	2	●											
	基礎演習 I	2				●									
	基礎演習 II	2					●								
	生物学基礎	2	○										随意科目		
	遺伝学 I	2		◎											
	植物育種学	2		○											
	植物生理・生化学 I	2		◎											
	作物学 I	2		○											
	収穫後生理学	2			○										
	植物病理学 I	2			○										

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当セメスター								備考		
			1年次		2年次		3年次		4年次				
			前	後	前	後	前	後	前	後			
専攻科目	学科基礎科目B	身近な植物	2		○								
		森林生態学	2		○								
		雑草学Ⅰ	2				○						
		飢饉・救荒論	2	○									
		昆虫学Ⅰ	2			○							
		虫と農業	2		○								
		土壌学Ⅰ	2				○						
		微生物学Ⅰ	2			○							
		生物統計学	2				○						
		農業気象学	2							○			
		畜産学概論	2				○						
		水産学概論	2							○			
		農業環境工学	2		○								
		基礎生物学実習	2				◎						
		基礎化学実習	2				◎						
専攻科目	学科応用科目	遺伝学Ⅱ	2						○				
		分子育種学Ⅰ	2				○						
		分子育種学Ⅱ	2					○					
		花き野菜園芸学Ⅰ	2			○							
		果樹園芸学Ⅰ	2				○						
		分子生物学	2			○							
		植物生理・生化学Ⅱ	2						○				
		ゲノム情報学Ⅰ	2				○						
		ゲノム情報学Ⅱ	2					○					
		ゲノム工学	2					○					
		植物資源学Ⅰ	2			○							
		植物栄養学Ⅰ	2				○						
		植物-微生物相互作用学	2					○					
		線虫学Ⅰ	2			○							
		農薬学	2				○						
		昆虫学Ⅱ	2						○				
		微生物学Ⅱ	2					○					
		生命科学実習A	2					◎					
		生命科学実習B	2					◎					
		農学部インターンシップA	2			○							
		農学部インターンシップB	1			○							
		海外農業体験実習A	2			○							
		海外農業体験実習B	2			○							
		農学部特別実習A	2	○									
	農学部特別実習B	2	○										
	農学部特別実習C	1	○										
	農学部特別講義	2	○										
特別研究	総合演習Ⅰ	2						◎					
	総合演習Ⅱ	2							◎				
	総合演習Ⅲ	2								◎			
	特別研究	6									◎		

(3) カリキュラムフローチャート (生命科学科)





<凡例>

学部必修科目

学科基礎科目A(必修)

学科基礎科目A(選択)

学科基礎科目B(必修)

学科基礎科目B(選択)

学科応用分野科目(必修)

学科応用分野科目(選択)

14. 農学科の専攻科目

(1) 卒業要件単位数（農学科）

卒業のためには、本学科の教育課程における、各科目区分に応じて単位を修得しなければなりません。合計124単位以上の修得が必要です。

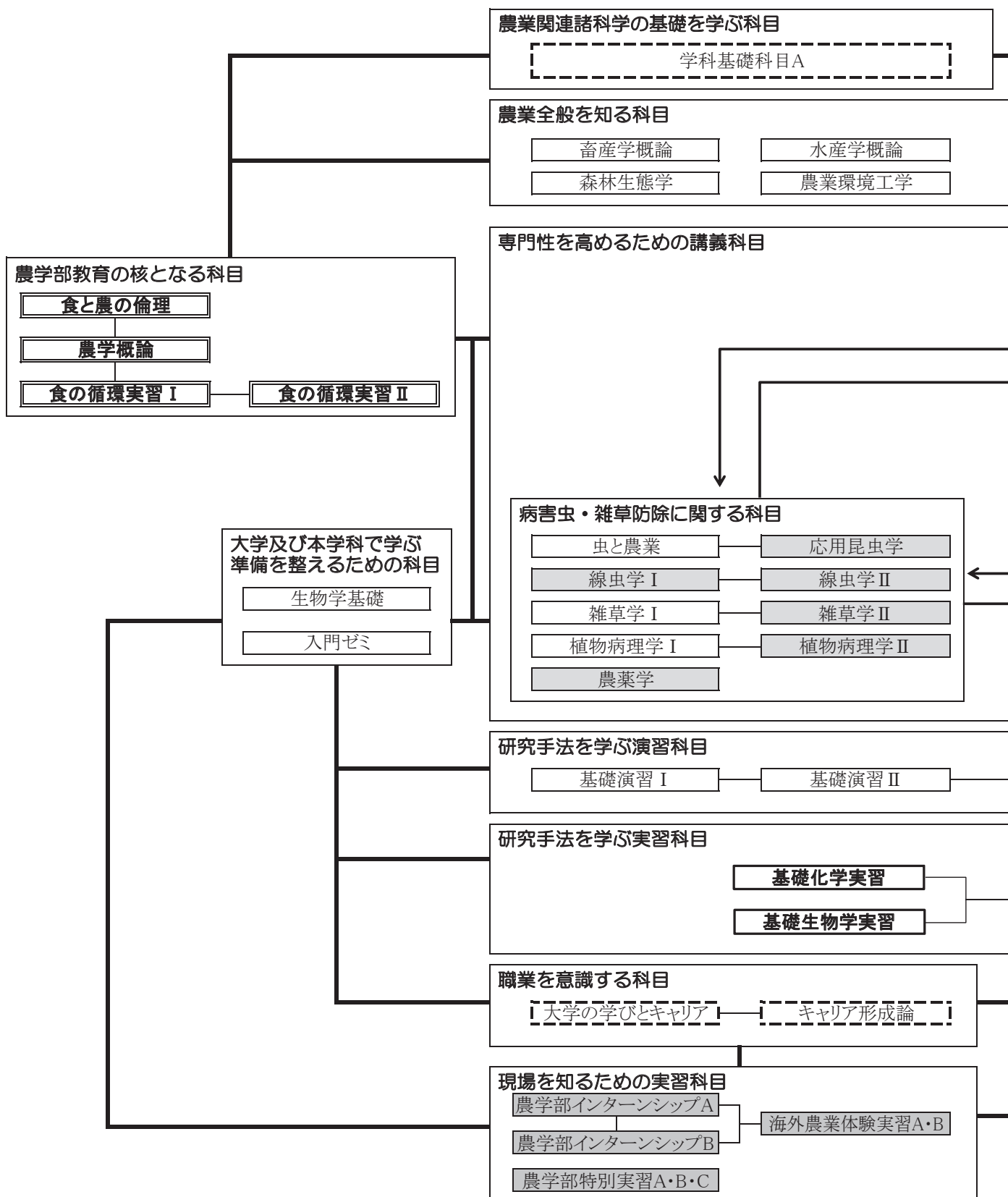
科目区分		卒業要件単位数		備考	
		必修	選択		
教養教育 科目	「仏教の思想」科目		4単位		仏教の思想A・B（各2単位）
	言語科目		6単位	6単位以上	英語総合1(A)、1(B) 英語総合2(A)、2(B) 英語総合3 英語総合4（各1単位）
	教養科目	人文科学系科目	2単位		
		社会科学系科目	2単位		
自然科学系科目		2単位			
専攻科目	学部必修科目		8単位		農学概論（2単位） 食と農の倫理（2単位） 食の循環実習Ⅰ、Ⅱ（各2単位）
	学科基礎 分野	学科基礎科目A		10単位以上	
		学科基礎科目B	8単位	20単位以上	基礎生物学実習、基礎化学実習 作物学Ⅰ、植物育種学（各2単位） を含む
	学科応用 分野	学科応用科目	4単位	24単位以上	農場実習、農学専門実験 （各2単位）を含む
総合演習・特別研究		12単位		総合演習Ⅰ～Ⅲ（各2単位） 特別研究（6単位）	
フリーゾーン				16単位以上	
合計			124単位以上		

※「フリーゾーン（16単位以上）」は、学修の自由度、選択度をより高めるために設けており、各自の関心に応じて、「教養教育科目」及び「専攻科目」のいずれを選択しても良い領域です（ただし、随意科目は除く）。

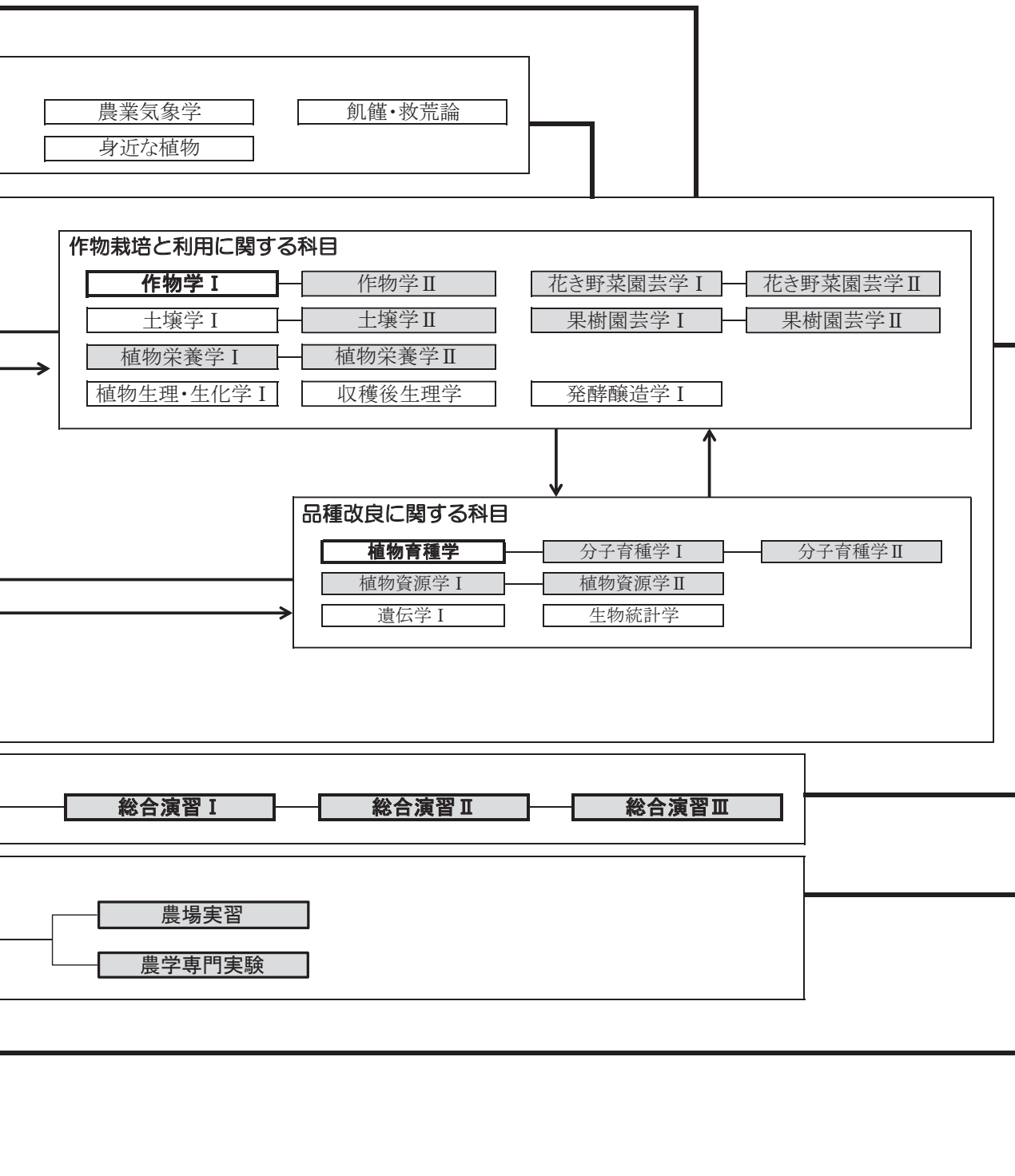
例えば、このフリーゾーンを利用して、教養教育科目の外国語科目に重点をおいて学ぶこともできれば、専攻科目に重点をおいて「食」と「農」について幅広く、深く学ぶことも可能です。

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当セメスター								備考		
			1年次		2年次		3年次		4年次				
			前	後	前	後	前	後	前	後			
専攻科目 学科基礎分野 学科基礎科目B	作物学Ⅰ	2		◎									
	収穫後生理学	2			○								
	植物病理学Ⅰ	2			○								
	身近な植物	2		○									
	森林生態学	2		○									
	雑草学Ⅰ	2				○							
	飢饉・救荒論	2	○										
	虫と農業	2		○									
	土壌学Ⅰ	2				○							
	発酵醸造学Ⅰ	2				○							
	生物統計学	2					○						
	農業気象学	2							○				
	畜産学概論	2					○						
	水産学概論	2								○			
	農業環境工学	2		○									
	基礎生物学実習	2						◎					
	基礎化学実習	2							◎				
	専攻科目 学科応用分野 学科応用科目 総合演習 特別研究	植物資源学Ⅰ	2			○							
植物資源学Ⅱ		2					○						
分子育種学Ⅰ		2					○						
分子育種学Ⅱ		2						○					
作物学Ⅱ		2							○				
花き野菜園芸学Ⅰ		2			○								
花き野菜園芸学Ⅱ		2								○			
果樹園芸学Ⅰ		2				○							
果樹園芸学Ⅱ		2						○					
雑草学Ⅱ		2							○				
植物栄養学Ⅰ		2					○						
植物栄養学Ⅱ		2							○				
土壌学Ⅱ		2								○			
応用昆虫学		2								○			
植物病理学Ⅱ		2							○				
線虫学Ⅰ		2				○							
線虫学Ⅱ		2								○			
農薬学		2					○						
農場実習		2								◎			
農学専門実験		2								◎			
農学部インターンシップA		2					○						
農学部インターンシップB		1					○						
海外農業体験実習A		2					○						
海外農業体験実習B		2					○						
農学部特別実習A		2	○										
農学部特別実習B		2	○										
農学部特別実習C		1	○										
農学部特別講義		2	○										
総合演習Ⅰ	2								◎				
総合演習Ⅱ	2									◎			
総合演習Ⅲ	2										◎		
特別研究	6											◎	

(3) カリキュラムフローチャート (農学科)



特別研究



<凡例>



15. 食品栄養学科の専攻科目

(1) 卒業要件単位数（食品栄養学科）

卒業のためには、本学科の教育課程における、各科目区分に応じて単位を修得しなければなりません。合計124単位以上の修得が必要です。

科目区分		卒業要件単位数		備考	
		必修	選択		
教養教育 科目	「仏教の思想」科目		4単位		仏教の思想A・B（各2単位）
	言語科目		6単位		英語総合1(A)、1(B) 英語総合2(A)、2(B) 英語総合3 英語総合4（各1単位）
	教養科目	人文科学系科目	2単位	6単位以上	
		社会科学系科目	2単位		
自然科学系科目		2単位			
専攻科目	学部必修科目		8単位		農学概論（2単位） 食と農の倫理（2単位） 食の循環実習Ⅰ、Ⅱ（各2単位）
	学科基礎 分野	学科基礎科目A		6単位以上	
		学科基礎科目B	14単位	18単位以上	栄養士課程資格要件を満たす科目 (14単位必修)を含む
	学科応用 分野	学科応用科目	12単位	16単位以上	栄養士課程資格要件を満たす科目 (12単位必修)を含む
		総合演習・特別研究	12単位		総合演習Ⅰ～Ⅲ（各2単位） 特別研究（6単位）
フリーゾーン			16単位以上		
合計		124単位以上			

※「フリーゾーン(16単位以上)」は、学修の自由度、選択度をより高めるために設けており、各自の関心に応じて、「教養教育科目」及び「専攻科目」のいずれを選択しても良い領域です（ただし、随意科目は除く）。

例えば、このフリーゾーンを利用して、教養教育科目の外国語科目に重点をおいて学ぶこともできれば、専攻科目に重点をおいて「食」と「農」について幅広く、深く学ぶことも可能です。

※「栄養士免許証」を取得するためには、所定の単位を取得する必要があります。詳細については、「(4)栄養士および管理栄養士養成課程 1) 栄養士資格について」(P.70)を参照してください。

※「管理栄養士国家試験受験資格」を取得するためには、卒業要件以上の単位を取得する必要があります。詳細については、「(4)栄養士および管理栄養士養成課程 2) 管理栄養士国家試験受験資格について」(P.71-72)を参照してください。

※「食品衛生管理者及び食品衛生監視員」の資格を取得するためには、所定の単位を取得しなければなりません。詳細については、「(5)食品衛生管理者および食品衛生監視員養成課程」(P.73)を参照してください。

(2) 専攻科目 開設科目 (食品栄養学科)

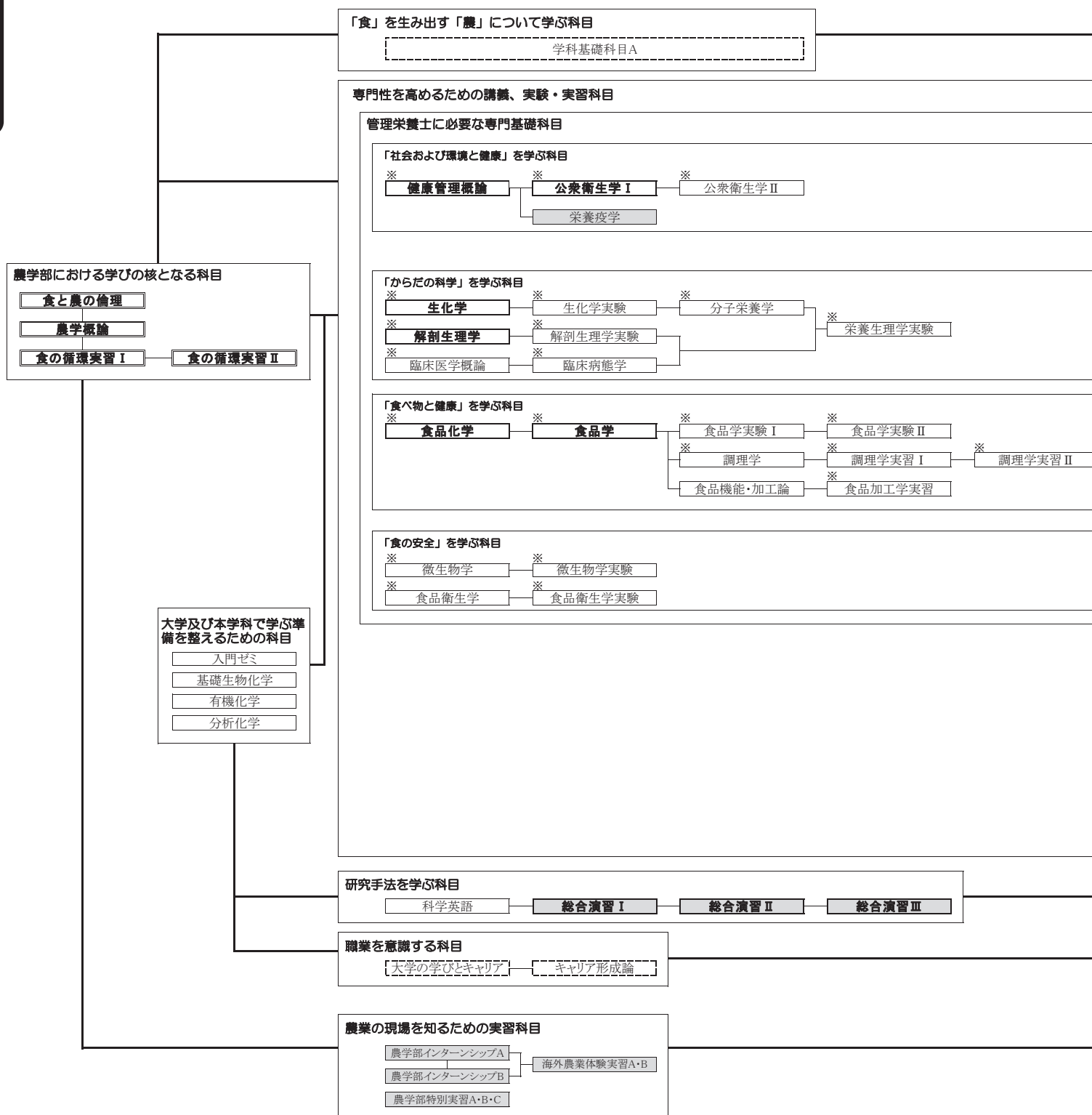
○必修科目 ●履修必修科目 ○選択科目 ◇課程必修科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当セメスター								栄養士	管理栄養士	食品衛生管理者	備考
			1年次		2年次		3年次		4年次					
			前	後	前	後	前	後	前	後				
必修科目	農学概論	2	○											
	食と農の倫理	2	○											
	食の循環実習Ⅰ	2		○										
	食の循環実習Ⅱ	2			○									
専攻科目 学科基礎分野 学科基礎科目A	社会福祉論	2	○											
	食品の安全と法律	2		○										
	食と嗜好の科学	2		○										
	食の文化論	2			○									
	収穫後生理学	2			○									
	植物病理学Ⅰ	2			○									
	身近な植物	2		○										
	森林生態学	2		○										
	雑草学Ⅰ	2				○								
	飢饉・救荒論	2	○											
	昆虫学Ⅰ	2			○									
	虫と農業	2		○										
	土壌学Ⅰ	2				○								
	微生物学Ⅰ	2			○									
	生物統計学	2				○								
	農業気象学	2					○							
	畜産学概論	2				○								
	水産学概論	2					○							
	農業環境工学	2		○										
	農業を支える植物細胞の力	2	○											
	分子から見た生命	2	○											
	遺伝の考え方	2	○											
	花と果物の科学	2		○										
	植物栽培の考え方	2	○											
	生活を支える微生物の力	2	○											
	日本・京滋の食料と農業	2		○										
	欧米の食料と農業	2			○									
	アジア・アフリカの食料と農業	2			○									
	日本の歴史と農業	2		○										
	世界の歴史と農業	2		○										
	科学史・農学史入門	2			○									
	くらしと経済	2	○											
会社と農家のしくみ	2	○												
事例に学ぶ食品マーケティング	2	○												
大学の学びとキャリア	2	○												

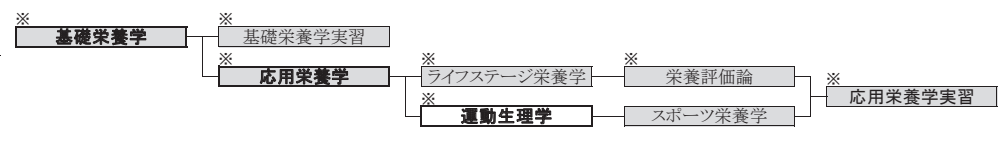
科目区分	授業科目の名称	単位数	配当セメスター								栄養士	管理栄養士	食品衛生管理者	備考
			1年次		2年次		3年次		4年次					
			前	後	前	後	前	後	前	後				
専攻科目 学科基礎分野 学科基礎科目A	キャリア形成論	2				○								
	情報教育論	2					○							随意科目
	地学概論	2			○									
	物理学概論	2						○						
	化学概論	2			○									
	生物物理学	2						○						
	生物物理学実習	1						○						
専攻科目 学科基礎分野 学科基礎科目B	入門ゼミ	2	●											
	管理栄養士基礎演習	2					●							
	科学英語	2							○					
	健康管理概論	2		◎						◇	◇	◇		
	公衆衛生学Ⅰ	2			◎					◇	◇	◇		
	公衆衛生学Ⅱ	2				○					◇	◇		
	生化学	2	◎							◇	◇	◇		
	分子栄養学	2		○							◇	◇		
	解剖生理学	2		◎						◇	◇	◇		
	運動生理学	2					◎			◇	◇			
	臨床医学概論	2			○						◇	◇		
	臨床病態学	2				○					◇	◇		
	微生物学	2			○					◇	◇	◇		
	食品化学	2		◎						◇	◇	◇		
	食品学	2			◎					◇	◇	◇		
	食品機能・加工論	2						○				◇		
	食品衛生学	2				○				◇	◇	◇		
	調理学	2	○							◇	◇			
	有機化学	2		○								◇		
	分析化学	2						○				◇		
	基礎生物化学	2	○											随意科目
	生化学実験	1				○				◇	◇			
	解剖生理学実験	1			○					◇	◇			
	栄養生理学実験	1				○					◇			
	微生物学実験	1			○						◇			
	食品学実験Ⅰ	1			○					◇	◇			
	食品学実験Ⅱ	1			○					◇	◇			
	食品加工学実習	1						○			◇			
食品衛生学実験	1				○				◇	◇				
調理学実習Ⅰ	1	○							◇	◇				
調理学実習Ⅱ	1		○						◇	◇				

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当セメスター								栄養士	管理栄養士	食品衛生管理者	備考	
			1年次		2年次		3年次		4年次						
			前	後	前	後	前	後	前	後					
専攻科目 学科応用分野 学科応用科目	基礎栄養学	2			◎						◇	◇	◇		
	応用栄養学	2				◎					◇	◇	◇		
	ライフステージ栄養学	2						○			◇	◇			
	栄養評価論	2							○			◇			
	スポーツ栄養学	2							○						
	栄養教育論Ⅰ	2				◎					◇	◇			
	栄養教育論Ⅱ	2						○			◇	◇			
	栄養カウンセリング論	2							○			◇			
	学校栄養指導論	2							○						
	学校栄養実践論	2							○						
	臨床栄養学Ⅰ	2				◎					◇	◇			
	臨床栄養学Ⅱ	2						○				◇			
	臨床栄養学Ⅲ	2							○			◇			
	臨床栄養管理学	2							○			◇			
	臨床栄養実践論	2								○					
	公衆栄養学	2						◎			◇	◇	◇		
	公衆栄養活動論	2							○			◇			
	栄養疫学	2				○							◇		
	給食経営管理論Ⅰ	2				◎					◇	◇	◇		
	給食経営管理論Ⅱ	2					○					◇			
	管理栄養士総合演習	2								○		◇			
	臨地実習指導	1								○					
	基礎栄養学実習	1					○				◇	◇			
	応用栄養学実習	1						○			◇	◇			
	栄養教育論実習	1						○			◇	◇			
	臨床栄養学実習Ⅰ	1						○			◇	◇			
	臨床栄養学実習Ⅱ	1							○			◇			
	公衆栄養学実習	1							○		◇	◇			
	給食経営管理実習Ⅰ	1					○				◇	◇			
	給食経営管理実習Ⅱ	1						○				◇			
	給食経営管理実習(校外)	1								○	◇	◇			
	臨地実習Ⅰ(給食経営管理論)	1								○		※	いずれか 1科目を選択		
	臨地実習Ⅱ(公衆栄養学)	1								○		※			
	臨地実習Ⅲ(臨床栄養学)	2								○		◇			
	特別臨地実習Ⅰ(給食経営管理論)	1									○				
	特別臨地実習Ⅱ(公衆栄養学)	1									○				
	特別臨地実習Ⅲ(臨床栄養学)	1									○				
	農学部インターンシップA	2				○									
	農学部インターンシップB	1				○									
	海外農業体験実習A	2				○									
海外農業体験実習B	2				○										
農学部特別実習A	2	○													
農学部特別実習B	2	○													
農学部特別実習C	1	○													
農学部特別講義	2	○													
総合演習特別研究	総合演習Ⅰ	2						◎							
	総合演習Ⅱ	2							◎						
	総合演習Ⅲ	2								◎					
	特別研究	6									◎				

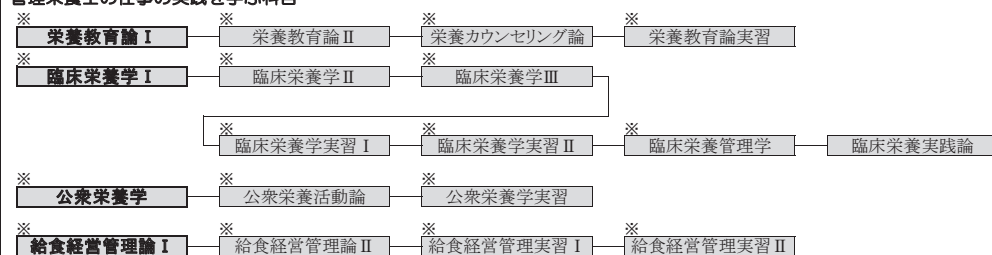
(3) カリキュラムフローチャート (食品栄養学科)



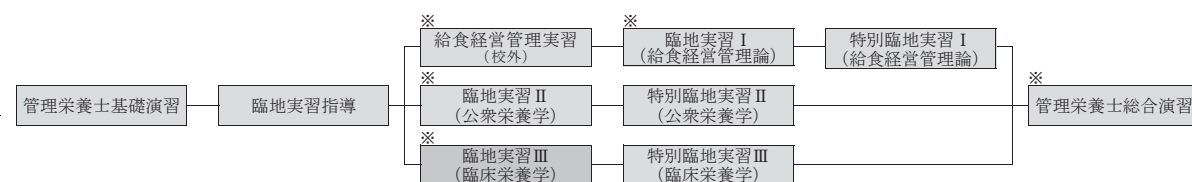
管理栄養士としての土台づくりのための科目



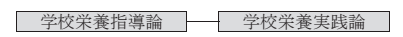
管理栄養士の仕事の実践を学ぶ科目



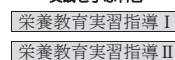
管理栄養士の働く現場で学ぶ科目



栄養教諭の仕事の学び科目



栄養教諭の仕事の実践を学ぶ科目



<凡例>



※管理栄養士国家試験受験資格を得るための科目 (82単位)

(4) 栄養士および管理栄養士養成課程－食品栄養学科のみ－

農学部食品栄養学科では、「農」の仕組みを理解しながら「食」と「ヒトの栄養」について学び、食と栄養のスペシャリストとして活躍できる人材の輩出をめざしています。このため本学科は、栄養士および管理栄養士養成施設であり、卒業後は、病院、保健所、福祉施設、民間企業給食施設、スポーツジム、食品関連企業等、多岐にわたる職場での活躍が期待されます。

本学科では、卒業時に栄養士免許の取得が可能であり、さらに幅広い知識と技能を修得することで、管理栄養士国家試験の受験資格を取得できるカリキュラムを用意しています。

1) 栄養士資格について

① 栄養士とは

栄養士とは、都道府県知事の免許を受けて、栄養士の名称を用いて栄養の指導に従事することを業とする者をいいます。

② 栄養士資格の取得

栄養士の資格を取得するには、農学部食品栄養学科において、卒業要件を満たす科目及び厚生労働大臣の指定する科目の単位を修得しなければなりません。

栄養士の免許は、栄養士に必要な知識・技術を修得した者に対して、都道府県知事が与えます。

③ 栄養士免許証の取得に関する本学の開講科目

栄養士法に定める教育内容			本学開講科目		
教育内容	単位数		授業科目	単位数	
	講義又は演習	実験又は実習		講義又は演習	実験又は実習
社会生活と健康	4	4	健康管理概論	2	
人体の構造と機能	8		公衆衛生学Ⅰ	2	
			生化学	2	
			解剖生理学	2	
			運動生理学	2	
			微生物学	2	
			生化学実験		1
食品と衛生	6		解剖生理学実験		1
			食品化学	2	
			食品学	2	
		食品衛生学	2		
食品学実験Ⅰ			1		
	食品学実験Ⅱ			1	
小計	18	4	小計	18	4
栄養と健康	8	10	基礎栄養学	2	
			応用栄養学	2	
			ライフステージ栄養学	2	
			臨床栄養学Ⅰ	2	
			基礎栄養学実習		1
			応用栄養学実習		1
栄養の指導	6		臨床栄養学実習Ⅰ		1
			栄養教育論Ⅰ	2	
			栄養教育論Ⅱ	2	
			公衆栄養学	2	
給食の運営	4	栄養教育論実習		1	
		公衆栄養学実習		1	
		給食経営管理論Ⅰ	2		
		調理学	2		
		給食経営管理実習Ⅰ		1	
		給食経営管理実習(校外)		1	
		調理学実習Ⅰ		1	
調理学実習Ⅱ		1			
食品衛生学実験		1			
小計	18	10	小計	18	10
合計	36	14	合計	36	14

※栄養士養成課程における実験・実習科目については、45時間をもって1単位とします。

2) 管理栄養士国家試験受験資格について

① 管理栄養士とは

管理栄養士とは、厚生労働大臣の免許を受けて、管理栄養士の名称を用いて、傷病者に対する療養のため必要な栄養の指導、個人の身体の状態、栄養状態等に応じた高度の専門的知識および技術を要する健康の保持増進のための栄養の指導並びに特定多数人に対して継続的に食事を供給する施設における利用者の身体の状態、栄養状態、利用の状況等に応じた特別の配慮を必要とする給食管理及びこれらの施設に対する栄養改善上必要な指導等を行うことを業とする者をいいます。

② 管理栄養士資格の取得

管理栄養士の資格を取得するには、農学部食品栄養学科において、卒業要件を満たす科目及び厚生労働大臣の指定する科目の単位を修得し、その後、管理栄養士国家試験に合格しなければなりません。管理栄養士の免許は、管理栄養士国家試験に合格した者に対して、厚生労働大臣が与えます。

③ 管理栄養士免許証の取得に関する本学の開講科目

管理栄養士学校指定規則に定める教育内容			本学開講科目					
教育内容	単位数		授業科目	単位数				
	講義又は演習	実験又は実習		講義又は演習	講義又は実習			
社会・環境と健康	6		健康管理概論	2				
			公衆衛生学Ⅰ	2				
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	14	10	公衆衛生学Ⅱ	2				
			生化学	2				
			分子栄養学	2				
			解剖生理学	2				
			運動生理学	2				
			臨床医学概論	2				
			臨床病態学	2				
			微生物学	2				
			生化学実験		1			
			解剖生理学実験		1			
			栄養生理学実験		1			
			微生物学実験		1			
			食べ物と健康	8		食品化学	2	
						食品学	2	
食品衛生学	2							
調理学	2							
食品学実験Ⅰ		1						
食品学実験Ⅱ		1						
食品加工学実習		1						
調理学実習Ⅰ		1						
調理学実習Ⅱ		1						
食品衛生学実験		1						
小計	28	10				小計	28	10

管理栄養士学校指定規則に定める教育内容			本学開講科目			
教育内容	単位数		授業科目	単位数		
	講義 又は演習	実験 又は実習		講義 又は演習	実験 又は実習	
専門分野	基礎栄養学	2	8	基礎栄養学	2	
				基礎栄養学実習	1	
	応用栄養学	6			応用栄養学	2
					ライフステージ栄養学	2
					栄養評価論	2
					応用栄養学実習	1
	栄養教育論	6			栄養教育論Ⅰ	2
					栄養教育論Ⅱ	2
					栄養カウンセリング論	2
					栄養教育論実習	1
	臨床栄養学	8			臨床栄養学Ⅰ	2
					臨床栄養学Ⅱ	2
					臨床栄養学Ⅲ	2
					臨床栄養管理学	2
					臨床栄養学実習Ⅰ	1
					臨床栄養学実習Ⅱ	1
	公衆栄養学	4			公衆栄養学	2
					公衆栄養活動論	2
					公衆栄養学実習	1
給食経営管理論	4		給食経営管理論Ⅰ	2		
			給食経営管理論Ⅱ	2		
			給食経営管理実習Ⅰ	1		
			給食経営管理実習Ⅱ	1		
総合演習	2		管理栄養士総合演習	2		
臨地実習		4	給食経営管理実習(校外)※1	1		
			臨地実習Ⅰ(給食経営管理論)※2	1		
			臨地実習Ⅱ(公衆栄養学)※2	1		
			臨地実習Ⅲ(臨床栄養学)	2		
小計	32	12	小計	32	12	
合計	60	22	合計	60	22	

※1 「給食の運営」にかかる校外実習（1単位）を含む。

※2 「臨地実習Ⅰ（給食経営管理論）」および「臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）」は選択必修科目であり、いずれか1科目（1単位）を選択すること。

※3 管理栄養士養成課程における実験・実習科目については、45時間をもって1単位とします。

(5) 食品衛生管理者および食品衛生監視員養成課程－食品栄養学科のみ－

農学部食品栄養学科では、食品の安全と機能を深く理解し、幅広い分野で活躍できる能力を持った食品に関する専門家を養成するべく、「食品衛生管理者および食品衛生監視員養成課程」を設置しています。

食品衛生管理者および食品衛生監視員は厚生労働省に認定される資格であり、食品衛生法に定められている所定の科目の単位を修得しなければなりません。食品衛生管理者は食品製造・加工会社などで必要となる資格で、食品衛生監視員は検疫所や保健所に勤務した時に用いられる任用資格です。

① 食品衛生管理者及び食品衛生監視員とは

食品衛生管理者は、食品衛生法の規定により、製造又は加工の過程において特に衛生上の考慮を必要とする食品又は添加物であって、食品衛生法施行令で定めるものの製造又は加工を行う営業者は、その製造又は加工を衛生的に管理させるため、その施設ごとに、専任の食品衛生管理者を置かなければならないこととなっています。

また、食品衛生監視員は、食品衛生法の規定により、当該職員の職権及び食品衛生に関する指導の職務を行わせるために、厚生労働大臣、内閣総理大臣又は都道府県知事等が命じる技術系公務員です。

② 食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得

食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格を取得するためには、農学部食品栄養学科において、厚生労働大臣の登録を受けた、所定の科目の単位を修得しなければなりません。

③ 食品衛生管理者及び食品衛生監視員資格の取得に関する本学の開講科目

	食品衛生法施行規則第50条別表に定める科目	食品栄養学科の開講科目		
		左記科目に該当する科目名	必修・選択の別	単位数
別表第14条に掲げる科目	化 学	分析化学	選択	2
		有機化学	選択	2
	生 物 化 学	生化学	必修	2
		食品化学 解剖生理学	必修 必修	2 2
	微 生 物 学	微生物学	選択	2
		食品衛生学	選択	2
	公 衆 衛 生 学	公衆衛生学Ⅰ	必修	2
		公衆衛生学Ⅱ	選択	2
		健康管理概論	必修	2
		栄養疫学	選択	2
	小計 22単位以上	—	—	22単位
別表第15条に掲げる科目	その他関連科目	食品学	必修	2
		食品機能・加工論	選択	2
		基礎栄養学	必修	2
		応用栄養学	必修	2
		分子栄養学	選択	2
		臨床病態学	選択	2
		臨床医学概論	選択	2
		公衆栄養学	必修	2
		給食経営管理論Ⅰ	必修	2
			小 計	—
	合計 40単位以上	—	—	40単位

16. 食料農業システム学科の専攻科目

(1) 卒業要件単位数（食料農業システム学科）

卒業のためには、本学科の教育課程における、各科目区分に応じて単位を修得しなければなりません。合計124単位以上の修得が必要です。

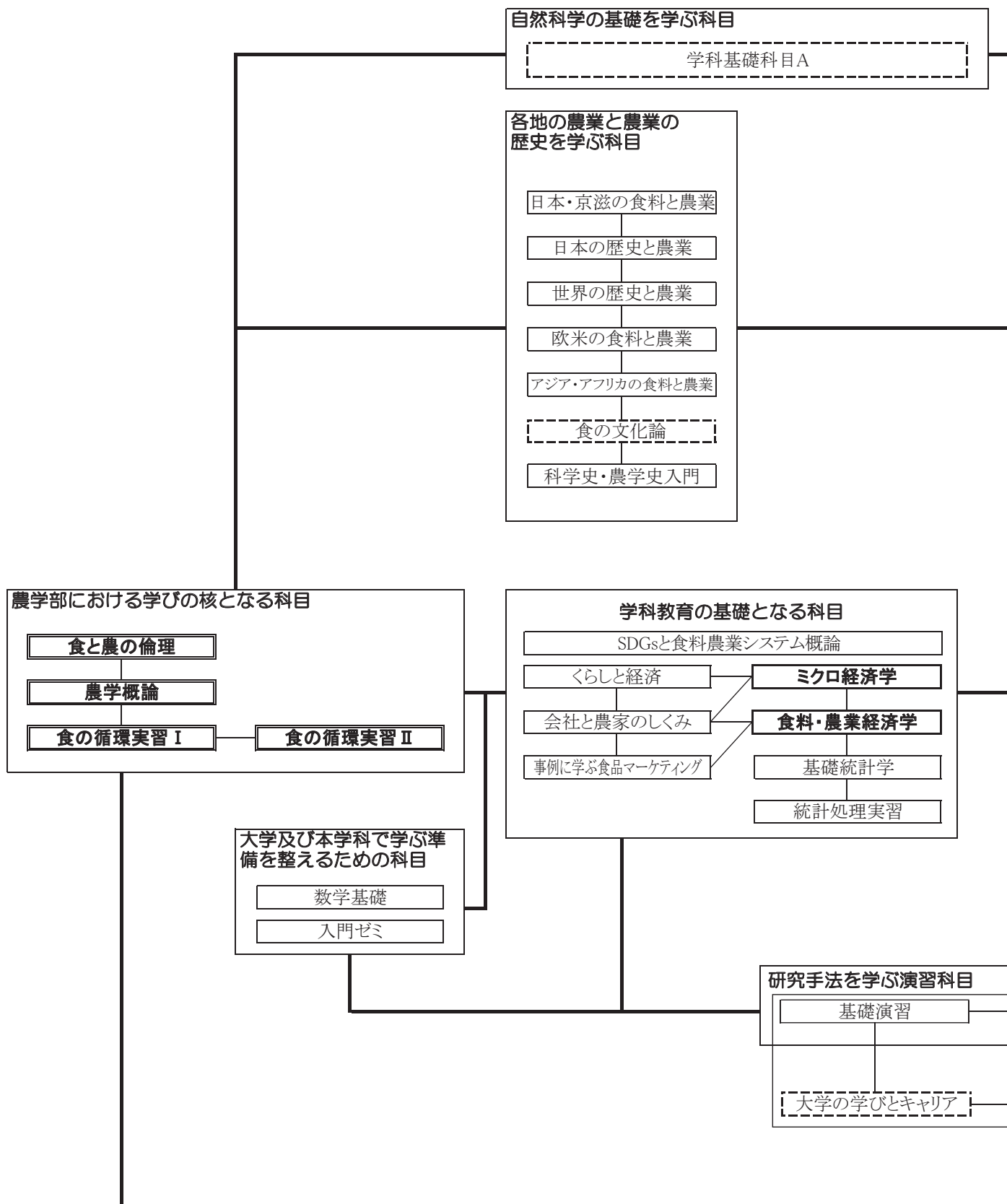
科目区分		卒業要件単位数		備考	
		必修	選択		
教養教育科目	「仏教の思想」科目		4単位		仏教の思想A・B（各2単位）
	言語科目		6単位		英語総合1(A)、1(B) 英語総合2(A)、2(B) 英語総合3 英語総合4（各1単位）
	教養科目	人文科学系科目	2単位	6単位以上	
		社会科学系科目	2単位		
自然科学系科目		2単位			
専攻科目	学部必修科目		8単位		農学概論（2単位） 食と農の倫理（2単位） 食の循環実習Ⅰ、Ⅱ（各2単位）
	学科基礎分野	学科基礎科目A		10単位以上	
		学科基礎科目B	4単位	22単位以上	ミクロ経済学（2単位） 食料・農業経済学（2単位）
	学科応用分野	学科応用科目		28単位以上	
総合演習・特別研究		14単位		総合演習Ⅰ～Ⅳ（各2単位） 特別研究（6単位）	
フリーゾーン			16単位以上		
合計		124単位以上			

※「フリーゾーン（16単位以上）」は、学修の自由度、選択度をより高めるために設けており、各自の関心に応じて、「教養教育科目」及び「専攻科目」のいずれを選択しても良い領域です（ただし、随意科目は除く）。

例えば、このフリーゾーンを利用して、教養教育科目の外国語科目に重点をおいて学ぶこともできれば、専攻科目に重点をおいて「食」と「農」について幅広く、深く学ぶことも可能です。

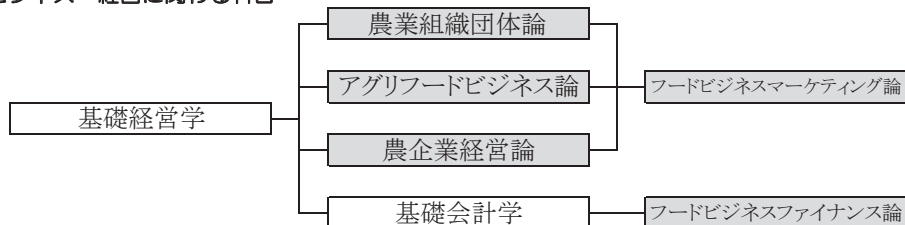
科目区分	授業科目の名称	単位数	配当セメスター								備考	
			1年次		2年次		3年次		4年次			
			前	後	前	後	前	後	前	後		
学科基礎分野	学科基礎科目B											
	基礎経営学	2			○							
	基礎会計学	2			○							
	基礎社会学	2			○							
	食料・農業経済学	2			◎							
	日本・京滋の食料と農業	2		○								
	欧米の食料と農業	2			○							
	アジア・アフリカの食料と農業	2			○							
	日本の歴史と農業	2		○								
	世界の歴史と農業	2		○								
科学史・農学史入門	2			○								
専攻科目	学科応用分野											
	農業政策論	2				○						
	地域農業経済論	2							○			
	環境経済学	2						○				
	熱帯農業論	2							○			
	国際食料需給論	2						○				
	国際農村発展論	2							○			
	国際協力論	2							○			
	アグリフードビジネス論	2					○					
	農企業経営論	2						○				
	フードビジネスマーケティング論	2					○					
	フードビジネスファイナンス論	2							○			
	農業組織団体論	2				○						
	農業法律学	2					○					
	食料流通システム論	2					○					
	食と農の安全安心論	2						○				
	農村社会学	2					○					
	食料環境社会学	2							○			
	ソーシャルキャピタル論	2					○					
	地域マネジメント論	2						○				
	比較食文化論	2					○					
	比較地域文化論	2						○				
	現代社会と食	2							○			
	食料農業システム実習A	2				○						
	食料農業システム実習B	2				○						
	食料農業システム実習C	2				○						
	食料農業システム実習D	2				○						
	食料農業システム実習E	2				○						
	食料農業システム実習F	2				○						
	農学部インターンシップA	2				○						
	農学部インターンシップB	1				○						
	海外農業体験実習A	2				○						
	海外農業体験実習B	2				○						
	農学部特別実習A	2	○									
農学部特別実習B	2	○										
農学部特別実習C	1	○										
農学部特別講義	2	○										
総合演習・特別研究												
総合演習Ⅰ	2						◎					
総合演習Ⅱ	2							◎				
総合演習Ⅲ	2								◎			
総合演習Ⅳ	2									◎		
特別研究	6										◎	

(3) カリキュラムフローチャート (食料農業システム学科)

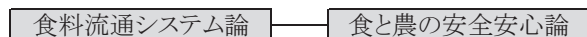


専門性を高めるための講義科目

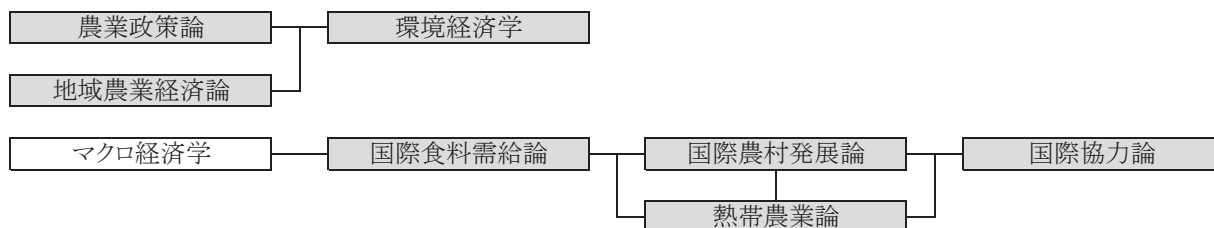
ビジネス・経営に関わる科目



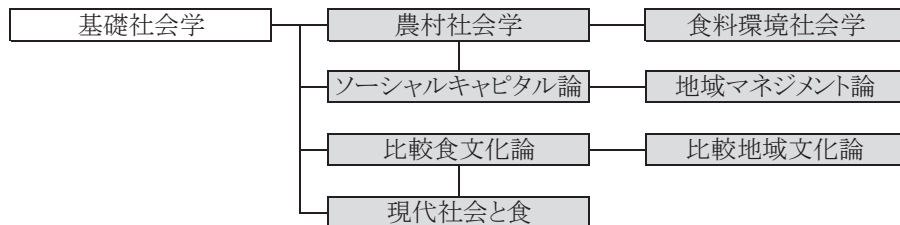
ビジネス・経営と経済の双方に関わる科目



国内外の経済に関わる科目



地域社会と文化に関わる科目



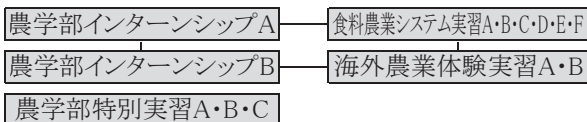
学科専門科目全体と関わりのある科目



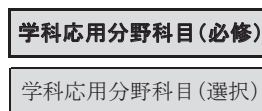
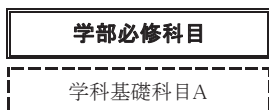
職業を意識する科目

キャリア形成論

現場を知るための実習科目



<凡例>



(4) 食料農業システム学科における学修プログラム

■「食料農業システムSDGsプログラム」(食農×SDGs)

① プログラムのねらい

食料農業システム学科の学びの幅広さを生かして、SDGs（持続可能な開発目標）の17の目標と関連付けながら（※1）持続可能な食料農業システムのありかたについて学びます。座学の授業科目だけでなく、実習科目を受講することで、SDGsと食料・農業・環境のつながりについて体験しながら学ぶことをねらいとします。

② プログラムの修了要件

以下のプログラム必修科目、プログラム選択科目及びプログラム実習科目において、所定の要件（単位修得、点数など）を満たした者に「食料農業システムSDGsプログラム修了証」を発行します。

【プログラム必修科目】

授業科目	単位数	配当セメスター
SDGsと食料農業システム概論	2	3
環境経済学	2	5
国際農村発展論	2	6

【プログラム選択科目】

以下の科目から4科目（8単位）以上かつ各科目70点以上の点数で単位修得すること。ただし、これらの科目が「SDGsの17の目標」のうち6つ以上の目標と関連していること（※1）。

授業科目	単位数	配当セメスター
農業組織団体論	2	3
農業政策論	2	4
フードビジネスマーケティング論	2	4
比較食文化論	2	4
食料流通システム論	2	4
ソーシャルキャピタル論	2	4
アグリフードビジネス論	2	4
比較地域文化論	2	5
農企業経営論	2	5
食と農の安全安心論	2	5
地域マネジメント論	2	5
国際食料需給論	2	5
現代社会と食	2	6
食料環境社会学	2	6
フードビジネスファイナンス論	2	6
地域農業経済論	2	6
国際協力論	2	6
熱帯農業論	2	6

【プログラム実習科目】

以下の科目から食料農業システムSDGsプログラムに対応する取り組み（※2）1科目（2単位）以上かつ70点以上の点数で単位修得すること。

授業科目	単位数	配当セメスター
食料農業システム実習A	2	3
食料農業システム実習B	2	3
食料農業システム実習C	2	3
食料農業システム実習D	2	3
食料農業システム実習E	2	3
食料農業システム実習F	2	3

③ 「食料農業システムSDGsプログラム修了証」の申請方法と受領までの流れ

- 1) 各自「学業成績表」にて単位の修得状況、点数を確認
- 2) 所定の要件をすべて満たしていることを確認後、「食料農業システムSDGsプログラム申請書」に必要事項を記入して申請（※3）
- 3) 「食料農業システムSDGsプログラム修了証」を受領

■ 「地域農業マネジメントプログラム」

① プログラムのねらい

JA（農業協同組合）をはじめとする農業組織・団体等に就職して活躍する人材を育成することを目的に、地域農業マネジメントの理論と実態について学びます。関連する授業科目の受講を通して、現場の課題や地域農業を支える各主体の業務内容について体験しながら学ぶことをねらいとします。

② プログラムへの登録（エントリー）

本プログラムは登録制（エントリー制）です。登録は1年次後期の学業成績通知以降、随時受け付けます（※3）。

③ プログラムの修了要件

以下のプログラム必修科目、プログラム選択科目及びプログラム実習科目における所定の要件（単位修得、点数）を満たし、プログラム報告会にて発表した者に「地域農業マネジメントプログラム修了証」を発行します。

【プログラム必修科目】

授業科目	単位数	配当セメスター
農業組織団体論	2	3

【プログラム選択科目】

以下の科目から3科目（6単位）以上かつ各科目70点以上の点数で単位修得すること

授業科目	単位数	配当セメスター
農業政策論	2	4
食料流通システム論	2	4
アグリフードビジネス論	2	4
農企業経営論	2	5
地域マネジメント論	2	5
地域農業経済論	2	6

【プログラム実習科目】

以下の科目から地域農業マネジメントプログラムに対応する取り組み（※2）2科目（4単位）以上かつ各科目70点以上の点数で単位修得すること。

授業科目	単位数	配当セメスター
食料農業システム実習A	2	3
食料農業システム実習B	2	3
食料農業システム実習C	2	3
食料農業システム実習D	2	3
食料農業システム実習E	2	3
食料農業システム実習F	2	3

【プログラム報告会】

本プログラム登録者のうちプログラム報告会への参加を許可された者は、当該報告会（2月を予定）において、各自が取り組んだ成果を発表します。

④ 「地域農業マネジメントプログラム修了証」の申請方法と受領までの流れ

- 1) 各自「学業成績表」にて単位の修得状況、点数を確認
- 2) 所定の要件をすべて満たしていることを確認後、「地域農業マネジメントプログラム申請書」に必要事項を記入して申請（※3）
- 3) 「地域農業マネジメントプログラム修了証」を受領

※1 「SDGs（持続可能な開発目標）の17の目標」と選択科目（各科目）の内容との関連性を示す対応表は別に定めます。

※2 「食料農業システム実習A～F」の「食料農業プログラム」「地域農業マネジメントプログラム」に対応する取り組みは年度ごとに定めます。

※3 「食料農業システムSDGsプログラム」「地域農業マネジメントプログラム」の申請方法等の詳細は、3月および9月の成績発表時にポータルサイト等においてお知らせします。所定の要件を満たすことができれば両プログラムを申請することも可能です。

★「食料農業システムSDGsプログラム」「地域農業マネジメントプログラム」の詳細は、以下のWEBサイトにて確認してください。

(URL) https://www.agr.ryukoku.ac.jp/department/afs_program.html



農学部の教育課程の他にも、みなさんが受講できる多様な教育課程・教育プログラムがあります。詳細は、ホームページ、配布冊子などで確認するとともに、各担当窓口にお問い合わせください。

1. データサイエンス・AIリテラシープログラム

本学が全学的に展開するデータサイエンス教育として、「データサイエンス・AIリテラシープログラム」を開設します（2022年度以降入学生対象）。

日本政府は、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（物理空間）が高度に統合された社会「Society5.0」を提唱しています。このような社会では、フィジカル空間の膨大なデータをサイバー空間に蓄積し、そのデータをAI（人工知能）で解析し、その結果をフィジカル空間にフィードバックすることで、経済発展や社会課題の解決が実現されると考えられています。

このような新しい社会の到来に備えて、ビッグデータから有用な情報を可視化し、意思決定を行い、機械学習などのAI技術で結果を分析・予測するスキルを身につけることが重要です。

そのために、これから社会に出る大学生には、データサイエンス・AIに関する基礎的な知識やスキルが不可欠です。また、社会の変化に対する意識を持つことや、データを扱う上での倫理観が求められます。本学ではこれらのことを学ぶために「データサイエンス・AIリテラシープログラム」を全学的に展開しています。

(1) プログラムの概要

データサイエンス・AIリテラシープログラムは、以下の①②で構成されます。

- ① 教養教育科目「データサイエンス・AI入門」
- ② 教養教育科目、学部専攻科目のうちプログラム科目として指定する科目

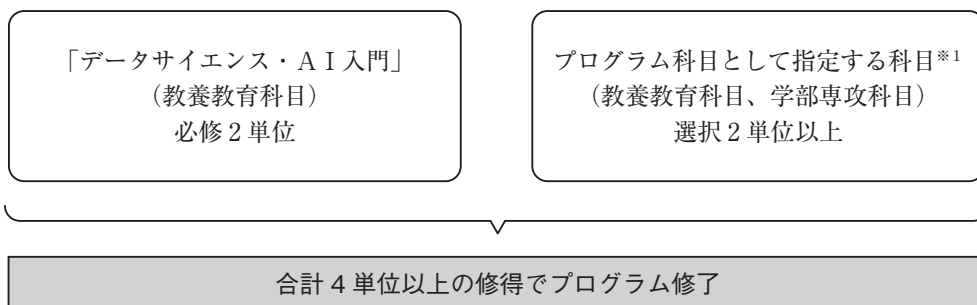
(2) プログラムの修了要件

データサイエンス・AIリテラシープログラムは、教養教育科目「データサイエンス・AI入門」（2単位）を必修科目として、教養教育科目、学部専攻科目のうちプログラム科目として指定する科目*1の中から2単位以上を選択して修得し、合計4単位以上を修得することがプログラム修了の要件です。

(3) 修了の認定

データサイエンス・AIリテラシープログラムの修了要件を満たした学生については、各年度末に修了認定の結果をポータルサイトを通じてお知らせします（希望する学生にはプログラム修了証を発行します）。

<データサイエンス・AIリテラシープログラム>



※1 教養教育科目、学部専攻科目のうちプログラム科目として指定する科目



<教養教育科目のうち指定する科目>

科目名	単位数	配当年次
社会統計学のすすめ	2	1年次～
生活の中の統計技術	2	1年次～

<農学部専攻科目のうち指定する科目>

科目名	単位数	配当年次	備考(対象学科)
生物統計学	2	2年次～	生命科学科・農学科
栄養疫学	2	2年次～	食品栄養学科
統計処理実習	2	2年次～	食料農業システム学科

2. 留学／国際交流プログラム・単位互換制度・各種インターンシッププログラム

留学／国際交流プログラムについて	担当窓口・関係情報
<p>龍谷大学では、国際社会で活躍できるグローバル人材の育成及び「多文化共生キャンパスの実現」を目的として、学生の海外派遣及び外国人留学生の受入を積極的に推進するため、様々な留学制度や国際交流プログラムを整備しています。交換留学や私費留学に加えて、龍谷大学の海外拠点を活用して展開されるRIP (Ryukoku Intercultural Program ※2021年度までBIE Program) や短期海外派遣プログラム等の多様なプログラムが展開されています。また、グローバルコモンズにおいては、英会話レッスン、英語ディスカッション等さまざまな英語学習プログラムを提供しています。TOEIC®、TOEFL®、IELTS™等の英語資格試験や初修外国語の教材も幅広く取り揃えているため、検定試験対策はもちろんのこと、備え付けのパソコンを利用した海外とのコミュニケーション等、幅広い活用が可能です。</p> <p>経済、社会、文化、政治などあらゆる局面でグローバル化が急速に進む現在、海外の大学での学修、国内外での異文化交流を通して広い視野と柔軟な発想を学ぶことは、みなさんにとって有意義な経験となることでしょう。</p>	<p>(担当窓口) グローバル教育推進センター 深草学舎 和顔館1階／瀬田学舎 智光館2階 ※単位認定に関する相談は農学部教務課 瀬田学舎9号館1階</p> <p>(関係情報) ・「留学ガイド」グローバル教育推進センターで配布 ・グローバル教育推進センター ホームページ (URL) https://intl.ryukoku.ac.jp</p> <div style="text-align: right;">  </div> <p>・龍谷大学グローバル教育推進センター 交換留学マンスリーレポート (URL) https://www.mrepo.jp/</p> <div style="text-align: right;">  </div>



大学コンソーシアム京都「単位互換制度」	担当窓口・関係情報
<p>大学コンソーシアム京都では、京都地域の約50の大学・短期大学が協定を締結し、各大学の科目を履修できる「単位互換授業」の制度を設置しています。</p> <p>一部の科目は、京都駅前の「キャンパスプラザ京都」で開講されます。</p> <p>なお、出願については、大学コンソーシアム京都のホームページの「単位互換・京カレッジポータルサイト」から出願手続きを行ってください。</p>	<p>(担当窓口) 農学部教務課 瀬田学舎 9号館1階 ※単位認定できる科目、出願資格・手続きなど、まずは、農学部教務課で確認してください。</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項WEBサイトで確認してください。 (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html </p> <p>(関係情報) ・大学コンソーシアム京都 単位互換制度特設サイト (URL) https://www.consortium.or.jp/special/tani_gokan/index.html </p>
環びわ湖大学・地域コンソーシアム「単位互換制度」	担当窓口・関係情報
<p>環びわ湖大学・地域コンソーシアム単位互換制度とは、滋賀県内にある10以上の大学や短期大学の科目を履修し、それを所属大学・短期大学の単位として認定する制度です。</p> <p>滋賀県特有の内容をテーマにした科目や、各大学・短期大学の学部・学科・専攻で特徴的な科目などが受講できます。</p>	<p>(担当窓口) 農学部教務課 瀬田学舎 9号館1階 ※単位認定できる科目、出願資格・手続きなどの詳細については、農学部教務課で確認してください。</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項WEBサイトで確認してください。 (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html </p> <p>(関係情報) ・「環びわ湖大学・地域コンソーシアム」 単位互換制度 (URL) https://www.kanbiwa.jp/ </p>
RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム	担当窓口・関係情報
<p>本学では、学生の自立とキャリア形成を支援する実践的な教育プログラムとして企業・団体等と協定を締結して「RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム」を実施しています。</p> <p>このプログラムは、建学の精神にもとづくきめ細かな実習前後の学修を通じて、職業観・勤労観を醸成する本学独自の特色あるプログラムです。</p> <p>2022年度入学生からは、「教養教育科目特別講義(キャリア入門)」を実習前の学修と位置づけ、この特別講義を登録および受講することで、夏期休業期間中に開講される1・2年次生対象の「キャリア実習・実習指導(実習・事後学修)」を履修することができます。</p> <p>このプログラムに積極的に参加することでコミュニケーション力や人に働きかけ巻き込む力、主体性や行動力等、社会で求められる様々な能力を身につけることができます。</p> <p>少しでも興味を持った方は、履修要項WEBサイトの「(3)インターンシップ制度」を確認し、4月に開催する説明会に参加しましょう。</p>	<p>(担当窓口) インターンシップ支援オフィス 深草学舎 5号館1階／瀬田学舎 1号館1階</p> <p>(履修に関する情報) 履修要項WEBサイトで確認してください。 (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html </p> <p>(関係情報) ・インターンシップ支援オフィス (URL) https://career.ryukoku.ac.jp/support/internship.html </p> <p>・「インターンシッププログラムパンフレット」 (URL) https://career.ryukoku.ac.jp/statistical/ </p>

<p>大学コンソーシアム京都「インターンシップ・プログラム」</p>	<p>担当窓口・関係情報</p>
<p>大学コンソーシアム京都のインターンシップ・プログラムは、就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラム（コーオペ教育）として、1998年度より全国に先駆けて開始しています。単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、社会人基礎力を育成するカリキュラムを持ったキャリア教育として、受講生からも高い満足度を得ています。</p> <p>「学生ならではの経験がしたい！」 「社会人になる力をつけたい！」 「“働く”をイメージしたい！」 「自分の強みや課題に気づきたい！」 「地域・社会に貢献したい！」 「他大学生と交流したい！」 1つでもあてはまる方に、【大学コンソーシアム京都のインターンシップ】をお勧めします。</p>	<p>(担当窓口) 【単位認定に関する問い合わせ】 農学部教務課 瀬田学舎 9号館1階 【プログラムに関する問い合わせ】 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 インターンシップ事業推進室 〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下ル キャンパスプラザ京都内 TEL：075-353-9106</p> <p>(履修に関する情報) 履修要項WEBサイトで 確認してください。 (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/ishu/prog.html</p> <p>(関係情報) ・大学コンソーシアム京都 インターンシップサイト (URL) https://consortiumkyoto-internship.jp/</p>  
<p>「放送大学科目」履修制度</p>	<p>担当窓口・関係情報</p>
<p>放送大学とは、テレビ・ラジオ、またその記録媒体等を効果的に活用して、大学教育の機会を多くの人々に提供していく正規の大学で、放送大学学園法に基づき設立されています。</p> <p>本学と放送大学が単位互換に関する協定を締結したことにより、本学部が指定した「放送大学科目」を受講することによって修得した単位を卒業要件単位として認定されます。この「放送大学科目」を受講する学生は、放送大学では「特別聴講学生」として扱われます。</p>	<p>(履修に関する情報) 2021年度については、放送大学科目を農学部の卒業要件単位（専攻科目として読み替え）として認定していません。</p> <p>放送大学科目を農学部卒業要件単位として認定するかどうかは毎年度変わります。掲示および本学履修要項WEBサイトで確認してください。</p> <p>(関係情報) ・放送大学 (URL) https://www.ouj.ac.jp</p> 

第 3 部

諸 課 程

1. 諸課程

教職課程	担当窓口・関係情報
<p>教職課程は、教員免許状の取得を目指す学生を対象とした課程です。教科等に関する確かな専門的知識はもちろん、広く豊かな教養、人間の成長・発達への深い理解、生徒に対する教育的愛情、教育者としての使命感を基盤とした、実践的な指導力を養成することを目的に設置しています。教職課程の履修にあたっては、「履修要項別冊 教職課程ガイドブック」を熟読してください。</p> <p>また、教職センターでは、教職課程履修者を対象に教員採用試験突破のための基礎力・実践力セミナーなども実施しています。</p>	<p>(担当窓口) 教職センター 深草学舎 紫英館1階 大宮学舎 西翼1階 瀬田学舎 3号館1階</p> <p>(関係情報) 教職センター HP (URL) https://www.ryukoku.ac.jp/faculty/kyoshoku/</p> 
本願寺派教師資格課程	担当窓口・関係情報
<p>本願寺派教師資格課程は、浄土真宗本願寺派における寺院の住職や布教使になるために必要となる資格課程です。本学では、本願寺派教師資格に関する養成施設としての認定を受け、資格課程にかかわる科目を開設しており、1回生から受講することが可能です(受講する場合は、科目一覧を確認のうえ、履修登録をしてください)。</p> <p>この課程は、最終的には浄土真宗本願寺派が実施する本資格に関連する試験・研修を受けなければなりません。</p> <p>資格制度の詳細について、不明な点等がありましたら、浄土真宗本願寺派僧侶養成部に尋ねてください。</p> <p>履修に関する詳細については、担当窓口に尋ねてください。</p>	<p>(担当窓口) 瀬田教学部 瀬田学舎 3号館1階</p> <p>(関係情報) ・履修要項WEBサイト (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html</p> 
栄養士資格(食品栄養学科のみ)	担当窓口・関係情報
<p>栄養士とは、都道府県知事の免許を受けて、栄養士の名称を用いて栄養の指導に従事することを業とするものをいいます。</p>	<p>(担当窓口) 農学部教務課 瀬田学舎 9号館1階 ※詳細については、第2部教育課程-15. 食品栄養学科の専攻科目(P.70)をご参照下さい。</p>
管理栄養士国家試験受験資格(食品栄養学科のみ)	担当窓口・関係情報
<p>管理栄養士とは、厚生労働大臣の免許を受けて、管理栄養士の名称を用いて、傷病者に対する療養のため必要な栄養の指導、個人の身体の状況、栄養状態に応じた高度の専門的知識および技術を要する健康の保持増進のための栄養の指導並びに特定多数人に対して継続的に食事を配給する施設における利用者の身体の状況等に応じた特別の配慮を必要とする給食管理及びこれらの施設に対する栄養改善上必要な指導等を行うことを業とする者をいいます。</p>	<p>(担当窓口) 農学部教務課 瀬田学舎 9号館1階 ※詳細については、第2部教育課程-15. 食品栄養学科の専攻科目(P.71-72)をご参照下さい。</p>

食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程 (食品栄養学科のみ)	担当窓口・関係情報
<p>食品衛生管理者および食品衛生監視員は厚生労働省に認定される資格です。食品衛生法の規定により、製造又は加工の過程において特に衛生上の考慮を必要とする食品又は添加物であって、食品衛生法施工令で定めるものの製造又は加工を行う営業者は、その製造又は加工を衛生的に管理させるため、その施設ごとに、専任の食品衛生管理者を置かなければならないこととなっています。</p> <p>また、食品衛生監視員は、食品衛生法の規定により、当該職員の職権及び食品衛生に関する指導の職務を行わせるために、厚生労働大臣、内閣総理大臣又は都道府県知事等が命じる技術系公務員です。</p>	<p>(担当窓口) 農学部教務課 瀬田学舎 9号館1階 ※詳細については、第2部教育課程-15. 食品栄養学科の専攻科目 (P.73) をご参照下さい。</p>
博物館学芸員課程 (農学科のみ)	担当窓口・関係情報
<p>資料の収集・保管・展示および調査研究等の業務に携わり、博物館の事業全般をサポートする博物館学芸員をサポートします。</p>	<p>(担当窓口) 農学部教務課 瀬田学舎 9号館1階 ※詳細については、以下をご参照下さい。</p>
樹木医補資格 (農学科のみ)	担当窓口・関係情報
<p>樹木医補資格は、樹木医制度の充実を図るため、樹木学や病虫学などの基礎的な知識・技術を所定の大学等で習得した学生を対象に、樹木医資格取得への門戸を開くために設けられた資格です。樹木医補は、樹木医が実施する樹木の保護、育成、管理事業・業務や活動を補佐する能力が求められるばかりでなく、樹木医補資格養成機関において修得した幅広い知識と技術をもって、国土の保全や緑化に関わる業務や活動を行う中で、倒木等の危険を察知する能力を養い、対応していくことが求められています。</p> <p>龍谷大学農学部は2021年度に（一財）日本緑化センターより樹木医補資格養成機関として認定を受けました。2022年度以降の入学生が対象です。樹木医補の資格を取得するためには、所定の科目の単位を修得して卒業した者が、資格認定に必要な書類をそろえて日本緑化センターへ申請することで、認定を受けることができます。</p>	<p>(担当窓口) 農学部教務課 瀬田学舎 9号館1階 (関係情報) 〈一般財団法人 日本緑化センター〉 (http://www.jpgreen.or.jp/index.html)</p>

◆博物館学芸員課程 (農学科のみ)

博物館とは、美術館、資料館、郷土館、動・植物園、民芸館、記念館などを含む社会教育施設を指し、生涯学習の観点から社会教育上、重要な役割を担うものです。昭和26年12月に制定された「博物館法」によって、これらの博物館には「学芸員」やその他の職員を置くことが定められています。学芸員は、博物館において、その管理運営・博物館資料の収集・保管・展示及び調査研究などの専門的事項を担当します。

農学部における博物館学芸員課程では、人文・自然科学系〔歴史学、民族(俗)学、美術史学、考古学、環境学、動植物学等〕博物館学芸員を養成し、別表(P.91を参照)の科目を履修することによって、高い学識と見識を持った学芸員を社会に送り出すことをめざしています。

就職については、学芸員の採用人数はきわめて少ない現状です。これらのことから、目的意識を明確にもち、積極的な学修意欲が強く求められることを十二分に認識の上、履修することが望まれます。

在学中に本課程を完修できなかった場合、卒業後に農学部での科目等履修生となり、未修得の科目を履修することも可能ですが、「博物館実習」は原則として履修できないので、在学中に完修してください。

(1) 博物館学芸員課程の履修

博物館法施行規則に定められている科目と単位数に応じて、農学部では「(3) 農学部における博物館学芸員課程に関する科目」(P.91を参照)のとおり、必修科目は9科目19単位を履修しなければなりません。また、選択科目は11科目22単位の中から2科目4単位以上の履修を推奨しています。

(2) 「博物館実習」の履修

1) 履修資格：

次の項目をすべて満たしていること。

- ① 「博物館実習」を履修するまでに必修科目（5科目以上）の単位を修得した者
- ② 所定の期間に事前登録を行い、選考に合格した者
- ③ 所定の期間に博物館実習費を納入した者

2) 対象年次：3年次以上

3) 受講定員：原則、10名以内

4) 実施方法

- ① 実地研修を中心に「博物館実習」の事前・事後の指導講義も行います（学内実習）。
- ② 学外の博物館などの学外実習先にて指導を受けます（館園実習）。
- ③ 通年開講科目です（当該年度に長期留学する者は受講できません）。

5) 博物館実習費の納入

「博物館実習」の本登録を許可された者は、必ず所定の期間（4月上旬）に証明書自動発行機にて博物館実習費10,000円を納入の上、証明書自動発行機から出力される各種申込書「博物館実習費（農学部）」を速やかに農学部教務課に提出してください。なお、受講登録後の自己都合による受講取消の場合は、博物館実習費を一切返金しません。

6) 実習申込時期

履修登録希望者は、博物館実習履修の前年度3月下旬に所定の手続き（事前登録等）を行うこと。

7) その他

「博物館実習」の一端として宿泊を伴う博物館の見学などを行う場合もあります。博物館の見学などに必要な交通費・宿泊費・食事代等の実費（5万～10万円）は、自己負担しなければなりません。

(3) 農学部における博物館学芸員課程に関する科目 ※開講学舎、開講曜講時は時間割を確認すること

1) 必修科目

省令科目	農学部開講科目	単位数	配当年次
生涯学習概論	生涯学習概論	2	1
博物館概論	博物館概論	2	1
博物館経営論	博物館経営論	2	2
博物館資料論	博物館資料論	2	1
博物館資料保存論	博物館資料保存論	2	2
博物館展示論	博物館展示論	2	2
博物館教育論	博物館教育論	2	1
博物館情報・メディア論	博物館情報・メディア論	2	2
博物館実習	博物館実習	3	3

2) 選択科目


以下の科目の中から2科目4単位以上修得することを推奨します

分野	農学部開講科目	単位数	配当年次
自然科学史	科学史・農学史入門	2	2
化学	化学概論	2	2
	有機化学	2	1
	分析化学	2	3
	植物生理・生化学 I	2	1
生物学	生物物理学	2	3
	遺伝学 I	2	1
	身近な植物	2	1
	森林生態学	2	1
地学	地学概論	2	2
	農業気象学	2	3

2. 特別研修講座・各種講座・試験

龍谷大学では、学生の自主的学修による知性の向上、各自の適性の啓発に寄与することを目的として、卒業の要件とは関わりなく、次の課程（講座）を開設しています。詳細については、各担当部署の窓口に設置されているパンフレット等で確認してください（不明な点は、各担当部署に問い合わせてください）。みなさんの積極的な参加を期待しています。

課程・講座	目的・内容	担当部署
国際伝道者養成課程	広く国際的な素養として英語で仏教・浄土真宗を学修することや、海外の仏教事情に関心を持つ方を対象にした課程であり、また同時に、将来、浄土真宗本願寺派の海外開教区で伝道者として活躍できる人材養成を目的とした講座です。	(大宮)文学部教務課
矯正・保護課程	刑務所、少年院、少年鑑別所などで働く矯正職員や、犯罪をおかしたり非行をおこなった人たちの社会復帰を手助けをする保護観察官等の専門職やボランティアを養成するために、実務に即したプログラムを提供しています。	矯正・保護総合センター事務局 (瀬田)社会学部教務課 6号館1階
法職課程	各種公務員試験（国家一般、地方上級等）の合格や法科大学院進学をめざす学生に対し、法律科目を体系的かつ効率的に学習できる講座や最新の試験情報などを提供しています。また、法職カウンセラーが常駐し、学習方法や受験対策のアドバイスを行っています。	法学部教務課 深草学舎 紫英館1階
模擬試験 資格試験	<模擬試験> TOEIC®IP/TOEFL®-ITP	龍大生協
	<資格試験> 簿記検定試験	経営学部教務課

課程・講座	目的・内容	担当部署
<p>キャリア支援講座 ※受講希望者が少ない場合、開講できないことがあります。 ※開講する学舎が限定されている講座があります。</p>	<p>キャリアアップに向けた資格取得や公務員試験などの対策が必須の就職を支援するために、各種講座を開講しています。資格取得等に信頼と実績のある有名予備校等と提携し、一人ひとりの目標や夢の実現をバックアップします。</p> <p><資格系> 宅地建物取引士講座／旅行業務取扱管理者講座／社会福祉士国家試験講座</p> <p><語学系> TOEIC® Listening&Reading Test対策講座</p> <p><就職対策> 公務員講座／エアライン就職対策講座</p>	<p>キャリアセンター (深草) 5号館 1階 (大宮) 東翼 2階 (瀬田) 1号館 1階</p>
<p>手 話 講 座</p>	<p><手話講座> 社会福祉法人全国手話研修センターとの連携事業により、「手話入門講座」「手話コミュニケーション講座」「手話通訳講座」を実施しています。「手話コミュニケーション講座」では全国手話検定試験2級合格を、「手話通訳講座」では手話通訳者全国統一試験合格を目指します。 2023年度の講座実施については、実施が決定次第、ポータルサイト等で案内します。</p>	<p>REC事務部 深草学舎 4号館 2階</p> <p><手話講座> 社会福祉法人全国手話研修センターホームページ (https://www.com-sagano.com/kenshu/ryukoku)</p> 

第4部

学修生活の手引き

1. 窓口事務

農学部教務課・瀬田教学部の窓口事務については、履修要項WEBサイトに掲載していますので、確認してください。

(<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>)



主に次の情報を掲載しています。

- (1) 窓口取扱時間
- (2) 届出書・願書および各種証明書
- (3) 各種証明書の交付について
- (4) 裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて

2. 保健管理センター

保健管理センターの利用については、本学HP『保健管理センター』に掲載しています。

(<https://www.ryukoku.ac.jp/hoken/index.php>)



毎年、4月には学生の定期健康診断が実施されますので、日程をHPで確認するようにしてください。その他、主に次の情報を掲載しています。

- (1) 緊急時には
- (2) 学校感染症に罹患した場合には
- (3) カウンセラーに相談したい
- (4) 保健師・看護師に相談したい
- (5) 医師の診療を受けたい
- (6) 急な怪我をした
- (7) タバコをやめたい
- (8) 健康チェックをしたい
- (9) 健康診断
- (10) 健康診断証明書・健康診断書発行について
- (11) AEDについて知りたい

3. 障がい学生支援室

障がい学生支援室は、すべての学生が社会参加に向けて主体的に取り組むことを支援するという視点に立ち、障がいのある学生の学修や学生生活上の困難に対し、様々な相談、支援を行っています。また、障がいのある学生とサポートをする学生、その他すべての学生や教職員が互いに理解し、尊重し合える関係づくりをめざし、サポーター養成や研修会、交流会などにも取り組んでいます。

詳しくは、本学HP『障がい学生支援』に掲載しています。

(<https://www.ryukoku.ac.jp/support/index.php>)



HPでは主に次の情報を掲載しています。

- (1) 障がい学生支援室について
- (2) 支援を希望される方へ（支援の内容、支援の申し出方法、障がい学生支援室の紹介）
- (3) 支援をしたい方へ（学生スタッフ募集）
- (4) よくある質問（Q&A）

Ⅱ




授業等の休講措置に関する取扱基準 (自然災害及び交通機関不通時の授業及び定期試験の取扱について)

自然災害及び交通機関不通時の授業及び定期試験の取扱については、「授業等の休講措置に関する取扱基準」によります。

https://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/support/classinfo/disaster.html



「授業等の休講措置に関する取扱基準」に定める自然災害及び交通機関不通時の授業等の実施有無については、以下の方法で確認することができます。

確認方法	説明
(1) 龍谷大学ホームページ https://www.ryukoku.ac.jp/ 	トップページをに「重大なお知らせ」として授業実施の有無を記載します。
(2) ポータルサイト https://portal.ryukoku.ac.jp 	ポータルサイトのログイン画面に、ホームページと同様の情報を記載します。
(3) 公式Twitter「龍谷大学（緊急連絡用）」 https://twitter.com/Ryukoku_univ (@Ryukoku_univ) 	大学全体に関わる緊急情報の速報発信を目的として、本学公式Twitterアカウントを開設しています。ここからホームページと同様の情報を発信します。

※緊急時は、大学ホームページおよびポータルサイトへのアクセスが集中し、サイトを閲覧できなくなる可能性がありますので、公式Twitter「龍谷大学（緊急連絡用）」の利用を推奨します。

Ⅲ

学籍の取り扱い

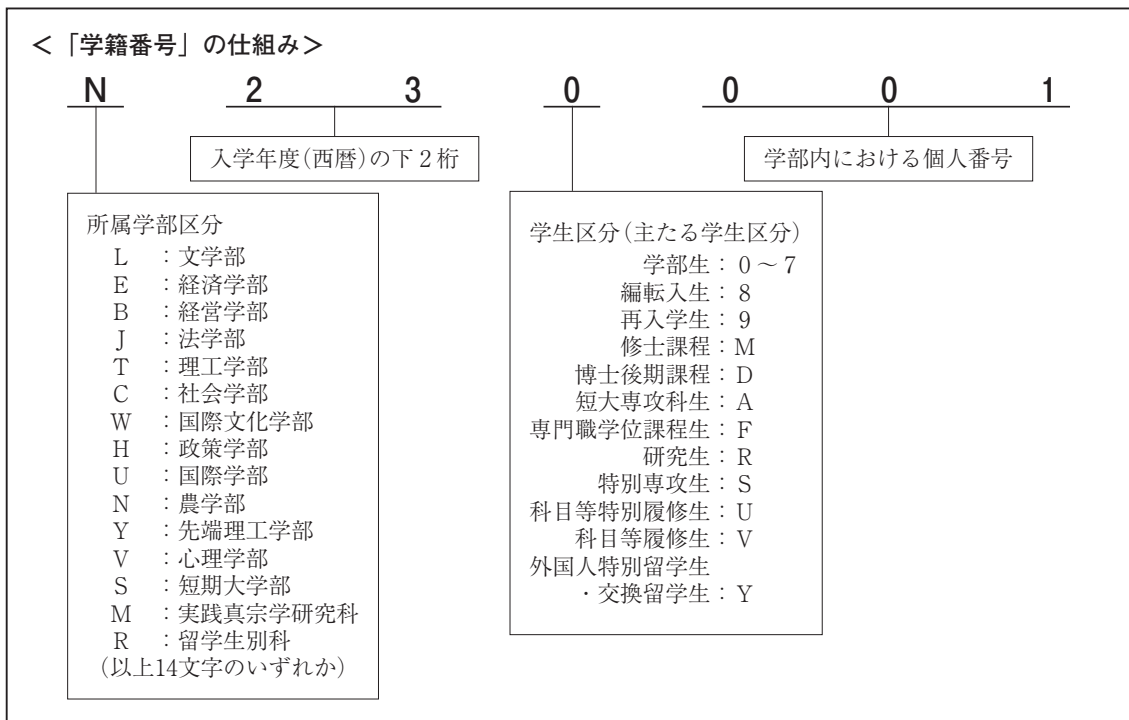
1. 学籍とは

「学籍」とはその学校の在学者としての身分を意味する用語です。学籍は入学によって発生し、入学は大学が行った入学許可に対して学生の入学諸手続きが完了することにより成立します。学籍は卒業により消滅します。

2. 学籍簿

(1) 学籍番号

入学と同時に、各個人に記号と数字を組み合わせた7桁の「学籍番号」が与えられます。在学中の学内における事務取扱は、すべてこの学籍番号により処理されます。学籍番号は卒業後も変わらない本人固有の番号であり、本学在学中は身分証明証（学生証）の番号でもありますから、正確に記憶し、記入が必要な場合は省略せずに記入してください。



このような仕組みになっているので、同姓同名者がいたとしても混同を防ぐ機能を持っています。

ただし、頭のアルファベット（学部等をあらわす）が記入されないと、他学部の学生と区別ができませんので注意してください。

(2) 学籍簿

学籍取得により、大学における在学関係を明確にするものとして、学籍簿（入学手続き時に各自がWeb入学手続にて登録）が編成されます。学籍簿に登録される事項（本人の現住所、保証人の現住所、学費の請求先等）は、基本的には本人であることの確認に必要な事項に限定されています。これら記載事項に変更が生じたときには直ちに所属の農学部教務課窓口へ届け出てください。

3. 学生証

「学生証」は、本学の学生であるという身分を証明するとともに、学生生活での諸手続きに際して本人であることを証明する大切なものです。

- (1) 学生証は常に携帯し、次の場合はこれを提示しなければなりません。
 - ① 試験を受けるとき。
 - ② 各種証明書の発行を受けるとき。
 - ③ 通学定期乗車券の購入および学割証の交付を受けるとき。
 - ④ 龍谷大学保健管理センターを利用するとき。
 - ⑤ 図書館を利用するとき。
 - ⑥ その他、本人であることを確認することが必要なとき。
- (2) 入学時に交付した学生証は、卒業するまで使用しますので大切に扱ってください。ただし、在籍を証明する「在籍確認シール」は、毎年学年初めに配付します。新しい「在籍確認シール」(学生証裏面に貼付)を受け取ったら(在籍生は、必ず前年度のシールをはがしたうえで)、速やかに新しいシールを貼ってください。

シールを重ねて貼ると、カードに登録されている情報が認識されず、図書館に入館できないなどのトラブルが発生することがあります。

なお、当該年度の「在籍確認シール」が貼られていない学生証は、無効として取り扱いますので注意してください。
- (3) 学生証の記載事項に変更が生じた場合は、速やかに農学部教務課窓口にてその内容を届け出てください。ただし、「在籍確認シール」に記載されている“通学区間情報”を変更する場合は、ポータルサイトの“連絡先・通学情報登録”画面にて変更のうえ、農学部教務課窓口で「在籍確認シール」の交付を受けてください。
- (4) 学生証を破損または紛失した場合は、直ちに農学部教務課窓口へ届け出てください。届け出は所定の「学生証再発行願」(紛失・破損届)に必要な事項を記入・捺印のうえ提出してください。なお、紛失した場合は、直ちに最寄りの警察署(交番)、生協事務室に紛失届等の提出をしてください。
- (5) 学生証の再発行については、1,000円の手数料が必要です。証明書自動発行機より学生証再発行願を出力できますので、所定の手続きを農学部教務課窓口にて行ってください。また、学生証の再発行には、2日以上を要するので注意してください。
- (6) 学生証を折り曲げたり汚したり磁気に近づけたりしないでください。
- (7) 学生証は他人に貸与または譲渡してはいけません。
- (8) 卒業・退学の場合または有効期限が過ぎた学生証は、速やかに農学部教務課窓口にて返納してください。

4. 学籍の喪失

卒業以外の事由で学籍を喪失(本学の学生でなくなる)する場合としては、退学と除籍の2種類があり、さらに退学はその内容により依願退学と懲戒退学に区分されます。

(1) 退学

1) 依願退学

「依願退学」は、学生自身の意志により学籍を喪失(本学の学生でなくなる)することです。

依願退学は、学生の意志によるものであることから、いつでも願い出ることはできますが、次の諸手続きが必要です。

- ① 大学所定の書式により、退学理由を明記し、保証人と連署により願い出てください。

- ② 当該学期分の学費を納入していること（学費の納入と学籍の取得は、対価関係にあり、学費の納入の無い者は本学学生と見なすことができず、したがって退学を願い出る資格もありません。なお、学期当初に退学をする場合は、学部で個別に対応をしているので相談してください）。

また、休学期間中の者も退学を願い出ることができますが、除籍となった者は、退学を願い出ることはできません。

2) 懲戒退学

「懲戒退学」は、学生が本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した場合、その内容、軽重等を考慮し、別に定める学生懲戒規程により、在学契約を解消することです。

(2) 除籍

「懲戒」という概念になじまない事由であっても、大学が一方的に在学契約を解消する必要のある場合があります。このため本学ではこれを除籍として処理しています。しかし、除籍といえども本学学生としての身分を失う点では、退学と同じ結果となるので、その事由は学則により明記されています。

本学学則において定められている除籍の事由は、次のとおりです。

- ① 定められた期間に所定の学費を納入しないとき。
- ② 在学し得る年数（通常の場合は8年間）以内に卒業できないとき。
- ③ 休学期間を終えても復学できないとき。

なお、死亡の場合も除籍とします。

5. 休学と復学

学生が疾病またはその他の事情により、3ヶ月以上修学を中断しようとするときは、「休学」を願い出ることができます。

(1) 休学の願出

休学には、次の諸手続きが必要です。

- ① 大学所定の書式により願出すること。
- ② 休学の必要性を証明する書類（診断書等）を添付すること。
- ③ 保証人と連署で願出すること。

(2) 休学期間

- 1) 休学期間は、1学年間または1学期間のいずれかです。

1年間あるいは第1学期（前期）休学希望者は6月30日まで、第2学期（後期）休学希望者は12月31日までに農学部教務課窓口で大学所定の書類を提出してください。なお、受付は窓口の開室日に限ります。

- 2) 休学期間の延長の必要がある場合は、さらに1学年間または1学期間の休学期間の延長を願い出ることができます。
- 3) 休学期間は連続して2年、通算して4年を越えることはできません。

(3) 休学中の学費

休学者は、学費として休学する学期の休学在籍料（200,000円（年間））を納入しなければなりません。

(4) 復学の願出

休学者の休学事由が消滅したときは、願出により「復学」することができます。復学できる時期は、教育課程編成との関係で、学期の始め（第1学期（前期）または第2学期（後期）の開始日）に限定されています。したがって、復学の願出は、第1学期復学の場合は前年度3月1日から3月31日まで、第2学期復学の場合は当該年度9月1日から9月30日までに手続きしなければなりません。

(5) 休学による学年進行

学年進行するためには、各年度末の時点で当該学年における1年以上の在学歴が必要となります。例えば1年生の時に第1学期もしくは第2学期のいずれか1学期間の休学をした場合、在籍2年目となる翌年度の一年間も1年生の扱いとなります。このことにより、在籍2年目も1年生対象の科目しか受講できない可能性がありますので、休学する場合は履修計画に注意してください。

6. 再入学

- (1) 学則第19条により退学した者が再び入学を願い出たときは、その事情を調査の上、原年次またはそれ以下の年次に、入学を許可することがあります（学則第14条）。ただし、再入学を願い出たときが、退学した年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (2) 学則第20条第1項第1号により除籍された者が再び入学を願い出たときは、原年次に入学を許可することがあります（学則第14条第2項）。ただし、再入学を願い出たときが除籍された年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (3) 休学期間の満了するまでに退学を願い出て許可された者は、再入学を願い出ることができます。
- (4) 再入学を願い出る時は、学費等納入規程に定める受験料を納め、所定の期間内に手続きをしなければなりません。なお、出願期間、出願書類等については入試部に問い合わせてください。

7. 編入学・転入学

本学の他学部（学科・専攻）、他大学への編入学・転入学をすることになった場合は、その旨を農学部教務課窓口へ速やかに報告してください。

なお、本学学内での編入学・転入学に関する学則は以下のとおりです。

- ①本学の第3年次および第2年次に転入学または編入学を希望する者については、選考の上これを許可することがある（学則第13条）。
- ②入学志願者は、所定の書式にしたがい、入学願書、履歴書および修学証明書を提出しなければならない（学則第15条）。
- ③他の大学へ転学を希望する学生は、学長に願い出てその許可を受けなければならない（学則18条の3）。

※本学の他学部（学科・専攻）への転入学の場合は、学則19条に基づく退学の手続きが必要です。

8. 「9月卒業」

第1学期（前期）末（9月30日）で卒業要件（修得単位・在学期間）を充足することとなる学生が届出期間内に9月卒業の希望申込をした場合には、9月30日付で卒業の認定を受けることができます（要件充足者について、自動的に卒業認定を行うことはありません）。詳細については農学部教務課窓口で相談してください。

1. 自転車・バイク通学

自転車・バイクは、日々多くの学生が利用しています。

バイクはもちろんのこと、自転車も『軽車両』の仲間です。一瞬の気の緩みが取り返しのできない事故に繋がりがかねません。学友の中でも、死亡事故が起こるなど、通学途上の交通事故が頻発しています。

また、「自転車・バイクが、狭い生活道路を、スピードを出して通行するので大変危険！」等の苦情が近隣住民から多数寄せられています。事故防止のために、交通ルール・マナーを遵守し、交通安全に十分配慮した運転を心掛けてください。万が一、交通事故に遭遇してしまった場合、負傷した、もしくは、相手に怪我を負わせてしまったという場合は、事故の大小に関わらず、119番・110番に通報し、相談してください。(参考URL) 政府インターネットテレビ【自転車は車のなかま〜ルールを守って安全運転〜】

<http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg5823.html>

2. 自転車・バイクの駐輪

瀬田学舎では、学内に駐輪する自転車・バイクは必ず登録申請のうえ、登録シールの交付を受けて利用車両に貼付する必要があります。この登録制度は、自転車・バイク通学をされる皆さんが、安全運転意識の向上、事故防止、盗難防止、放置車両の減少など、通学中に起こる様々なトラブルを回避する目的で実施しています。

登録は無料で、一度登録すれば卒業・修了まで有効です。登録受付は生協ショップSMYLEサービスカウンター（智光館1階）で随時行っています。

なお、自転車・バイクは必ず構内の指定された場所に駐輪してください。構内の建物周辺や路上等に長時間放置している車両は、「駐輪場利用要領」に基づき、一定期間保管の後、処分します。また、「駐輪場利用要領」に定めるとおり、駐輪場内での事故・盗難および破損について大学は一切関与しません。

利用者は、盗難防止に努め、駐輪にあたっては、必ず施錠を行ってください。2つ以上の施錠（ツーロック）により盗難防止効果が向上します。各自の責任で被害に遭わないよう十分注意してください。

(参考URL) 自転車・バイク登録について

http://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/support/bicycle.html

3. 自動車通学の禁止

本学では、自動車による通学を全面的に禁止しています。これは、交通事故の防止、大学周辺環境の維持などの理由からです。しかしながら、禁止しているにも関わらず、キャンパス近隣の公共施設や商業施設の駐車場等に無断で駐車し、通学する学生が見受けられます。迷惑駐車により、地域住民や近隣施設からの苦情も寄せられ、これらの行為は社会のルールに反するもので、大学の名誉を著しく傷つける行為です。

ルールに反した自動車通学が判明した場合には、保護者への連絡、ゼミ担当教員等からの指導をしたうえで、厳しく処分することとしています。学生の皆さんの節度ある行動を求めます。

4. 自動車の臨時入構許可

自動車による通学を全面的に禁止していますが、以下のような理由があるときは、例外として許可することがありますので、必要な場合は必ず事前に以下窓口にご相談してください。

- ① 夜間にまでおよぶ研究等で、公共交通機関の利用が困難な場合 → 農学部教務課
- ② 長期間の疾病や障がいなどにより、公共交通機関の利用が困難な場合 → 農学部教務課
- ③ 大学行事やクラブ活動のため、資材等を運搬するのに必要な場合 → 学生部

許可なく入構した場合は、厳重に処分する対象となります。必要な事情がある場合には、必ず事前に相談してください。

付 録

農学部教員名簿

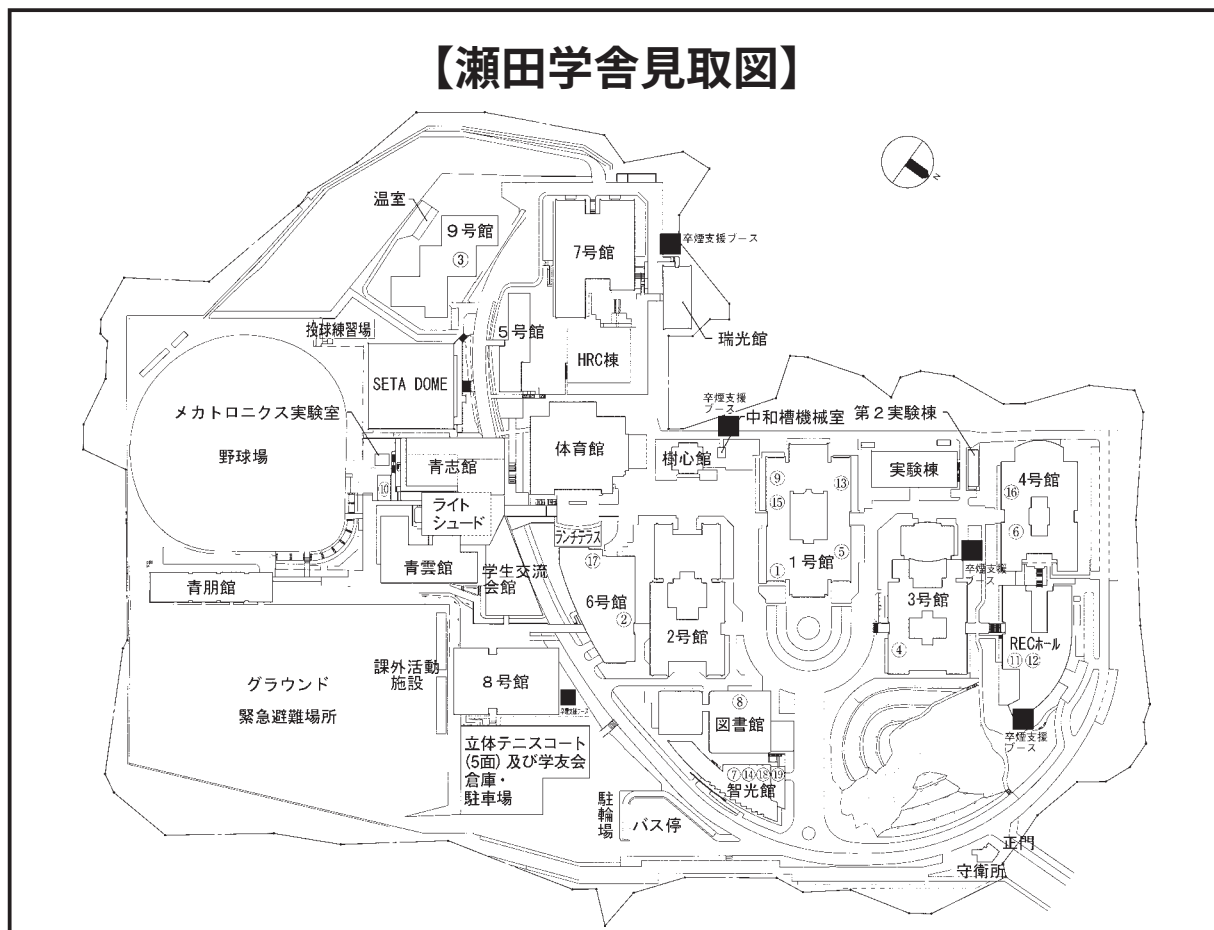
生命科学科 教員名簿					
氏名	職位	研究室	氏名	職位	研究室
浅水恵理香	教授	9号館 217室	垣口 由香	准教授	9号館 305室
塩尻かおり	教授	9号館 212室	別役 重之	准教授	9号館 214室
島 純	教授	9号館 317室	竹中祥太郎	講師	9号館 213室
土岐 精一	教授	9号館 319室	辻村 真衣	ラボラトリー専門助手	9号館 2階助手室
永野 惇	教授	9号館 215室	中田 聖月	ラボラトリー専門助手	9号館 2階助手室
古本 強	教授	9号館 218室	吉山 洋子	ラボラトリー専門助手	9号館 2階助手室
打本 弘祐	准教授	9号館 304室			
小野木章雄	准教授	9号館 318室			

農学科 教員名簿					
氏名	職位	研究室	氏名	職位	研究室
岩堀 英晶	教授	9号館 313室	ウェンダコーンSK	講師	9号館 302室
尾形 凡生	教授	9号館 301室	滝澤 理仁	講師	9号館 314室
神戸 敏成	教授	9号館 310室	玉井 鉄宗	講師	9号館 315室
多賀 優	教授	9号館 316室	平山 喜彦	講師	9号館 307室
大門 弘幸	教授	9号館 312室	山本 涼平	ラボラトリー専門助手	9号館 2階助手室
樋口 博也	教授	9号館 308室	吉良 徹	農場専門技術助手	農学部牧農場
三柴啓一郎	教授	9号館 309室	妹尾 拓司	農場専門技術助手	農学部牧農場
森泉美穂子	教授	9号館 210室	吉村 大輔	農場専門技術助手	農学部牧農場
三浦 励一	准教授	9号館 209室			
吉村 征洋	准教授	9号館 311室			

食品栄養学科 教員名簿					
氏名	職位	研究室	氏名	職位	研究室
朝見 祐也	教授	9号館 101室	鈴木 太郎	講師	9号館 205室
石原 健吾	教授	9号館 102室	西澤 果穂	講師	9号館 202室
上田由喜子	教授	9号館 211室	矢野真友美	講師	9号館 208室
楠 隆	教授	9号館 206室	井上 幹太	管理栄養士養成課程助手	9号館 1階助手室
田邊 公一	教授	9号館 203室	岡野あゆみ	管理栄養士養成課程助手	9号館 1階助手室
中村 富子	教授	9号館 105室	島 大輔	管理栄養士養成課程助手	9号館 1階助手室
榊田 哲哉	教授	9号館 104室	白木 理恵	管理栄養士養成課程助手	9号館 1階助手室
宮本 賢一	教授	9号館 207室	深尾 奈央	管理栄養士養成課程助手	9号館 1階助手室
山崎 英恵	教授	9号館 103室	松下 実代	管理栄養士養成課程助手	9号館 1階助手室
山崎 正幸	教授	9号館 204室	三上 葵	管理栄養士養成課程助手	9号館 1階助手室
岡崎 史子	准教授	9号館 201室	渡部 恭輔	管理栄養士養成課程助手	9号館 1階助手室

食料農業システム学科 教員名簿					
氏名	職位	研究室	氏名	職位	研究室
淡路 和則	教授	4号館 331室	中川 千草	准教授	4号館 326室
落合 雪野	教授	4号館 301室	中田 裕子	准教授	4号館 304室
香川 文庸	教授	4号館 332室	山口 道利	准教授	4号館 323室
佐藤 龍子	教授	4号館 324室	渡邊 洋之	准教授	4号館 305室
竹歳 一紀	教授	4号館 325室	尾崎 智子	講師	4号館 302室
中川 雅嗣	教授	4号館 327室	金子あき子	講師	4号館 303室
嶋田 大作	准教授	4号館 306室			

【瀬田学舎見取図】



瀬田学舎 〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷1-5
TEL 077-543-5111 (代表)

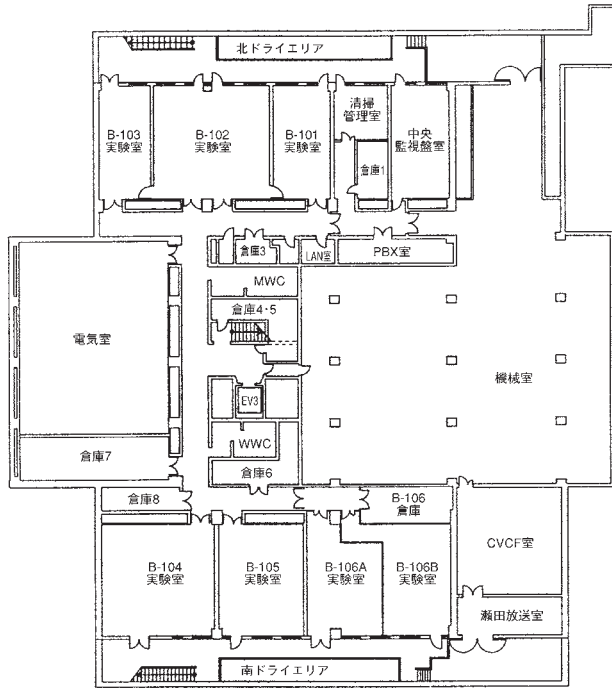
◆主な事務室連絡先

市外局番は「077」です。

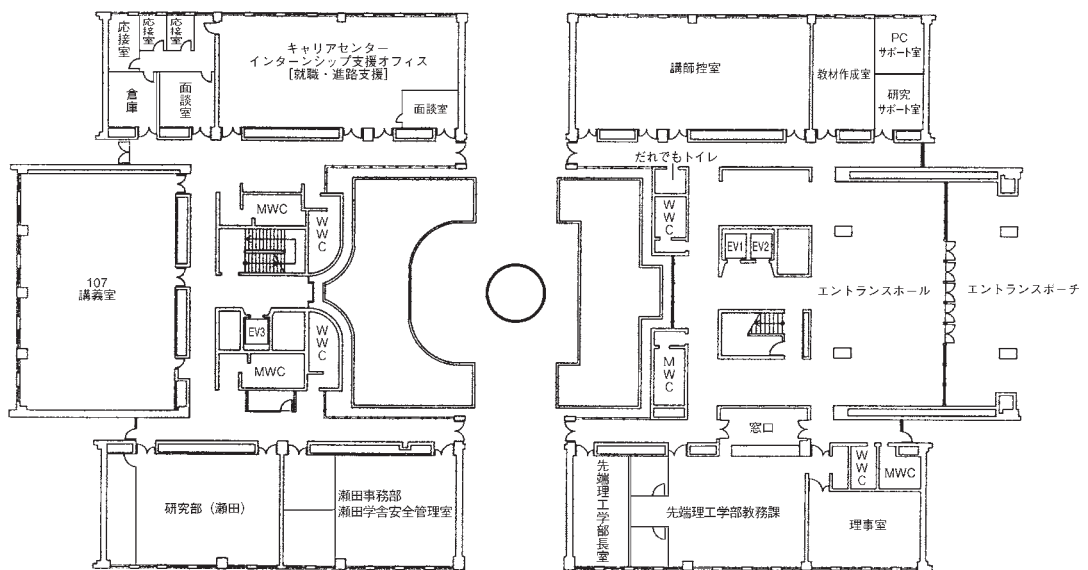
	部署名	事例	ダイヤルイン	FAX
①	先端理工学部教務課	先端理工学部・理工学部の科目に関する事	543-7730	543-7749
②	社会学部教務課	社会学部の科目に関する事	543-7760	543-7615
③	農学部教務課	農学部の科目に関する事	599-5601	599-5608
④	瀬田教育学部 教養教育センター事務部 教職センター(瀬田)	瀬田学舎の教養教育科目に関する事。教職課程に関する事。教室に関する事。教材作成に関する事	543-7739	543-7674
⑤	講師控室	大学からの通知・連絡	543-7770	—
⑥	学生部(瀬田)	学生生活に関する事	543-7734	543-7889
⑦	情報メディアセンター(瀬田) (メディア教材作成室)	情報処理実習室、メディア機器の利用に関する事 メディア教材作成に関する事	544-7287	544-7289
⑧	瀬田図書館 (図書館事務部)	図書館の利用に関する事	543-7751	543-7769
⑨	研究部(瀬田)	各種研究支援に関する事	543-7741	544-7195
⑩	ボランティア ・NPO活動センター事務部(瀬田)	教育研究活動とボランティア・NPO活動との連携に関する事	544-7252	544-7261
⑪	REC事務部(瀬田)	地域社会との交流、「産・官・学」連携による教育・研究活動の推進に関する事	543-7743	543-7771
⑫	知的財産センター事務部	知的財産に関する事	544-7270	544-7263
⑬	キャリアセンター(瀬田)	学生の就職支援及びキャリア開発に関する事	543-7735	543-7780
⑭	グローバル教育推進センター(瀬田)	留学・国際交流に関する事	543-7672	544-7251
⑮	瀬田事務部	瀬田学舎全般に関する事	543-7710	543-7729
⑯	保健管理センター(瀬田)	診察、健康診断、健康相談に関する事	543-7781	543-7783
⑰	障がい学生支援室	障がい学生支援に関する事	544-7216	543-7236
⑱	生活協同組合	購買(文具、チケット等)	544-4111	544-4114
⑲	丸善	購買(書籍)	543-7777	543-5135

〈瀬田学舎〉 1 号 館

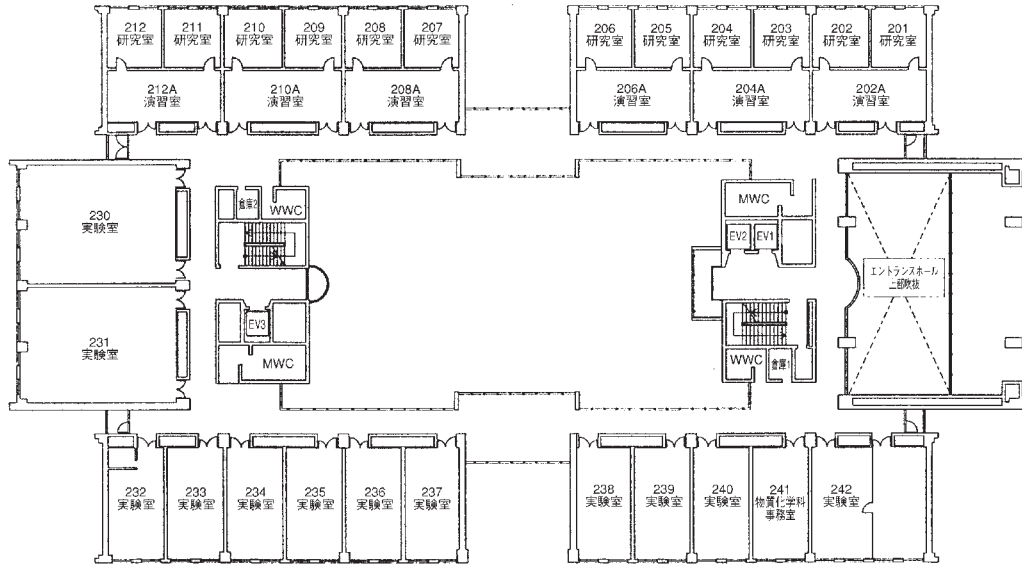
地下1階



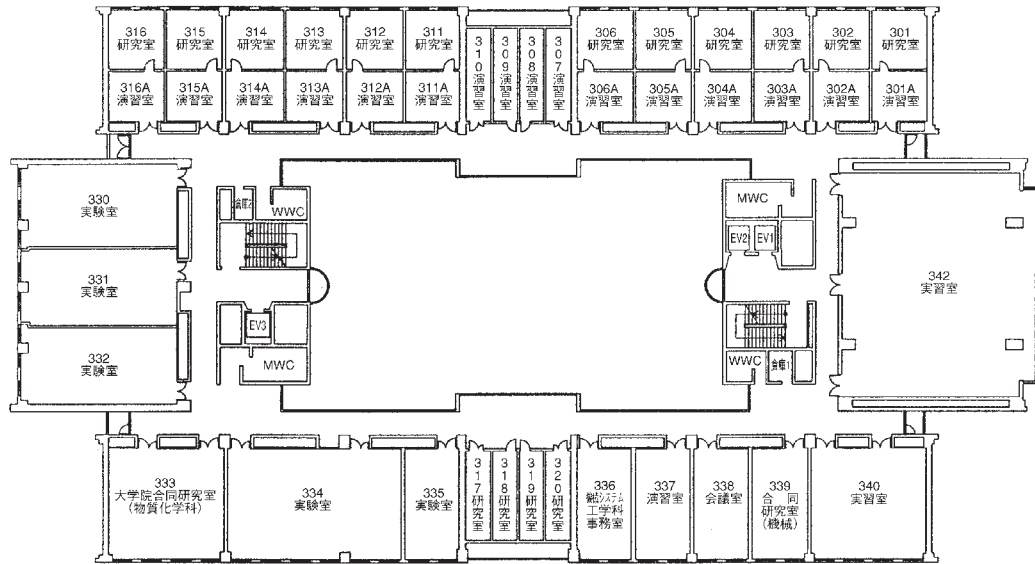
1 階



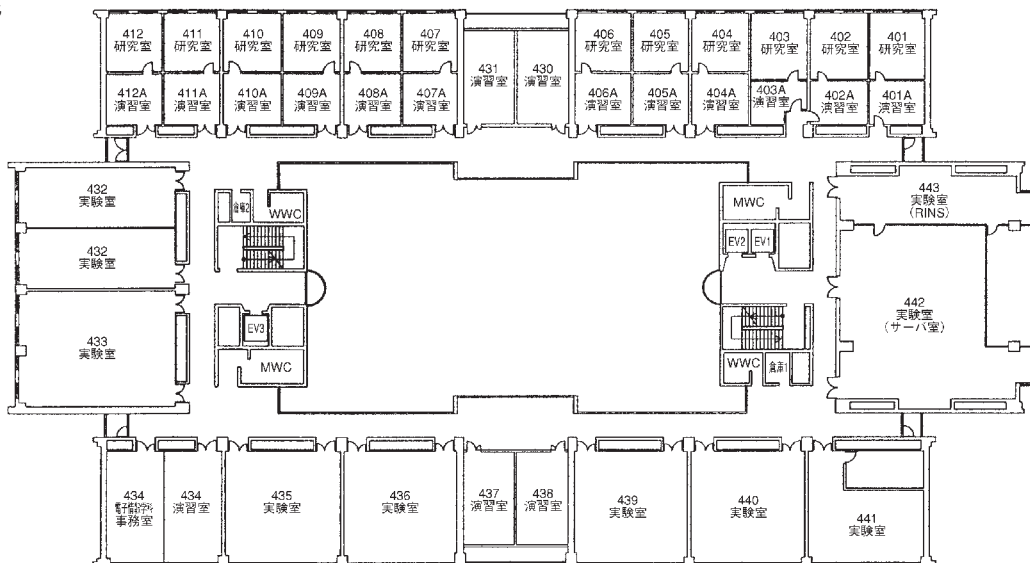
2 階



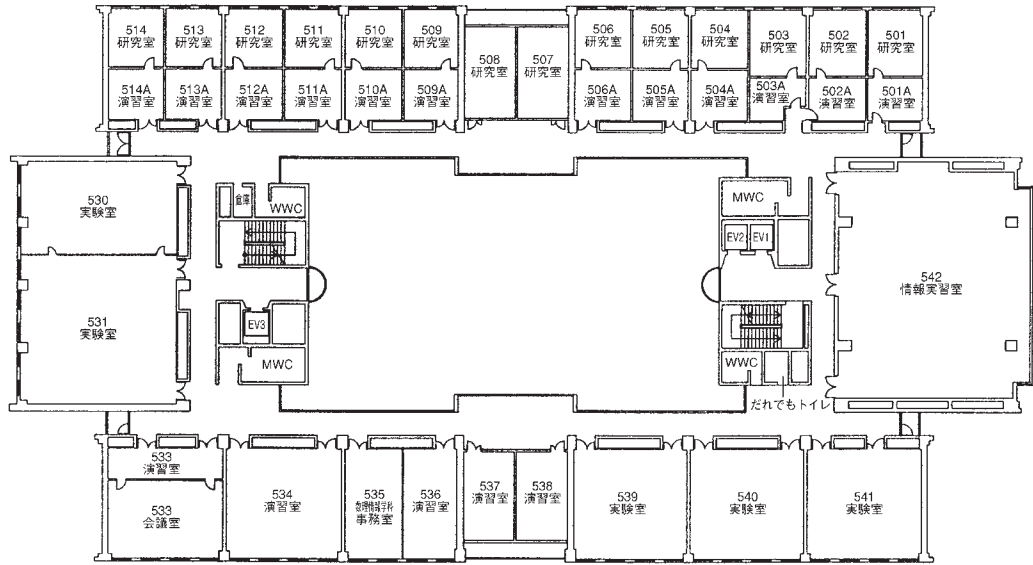
3 階



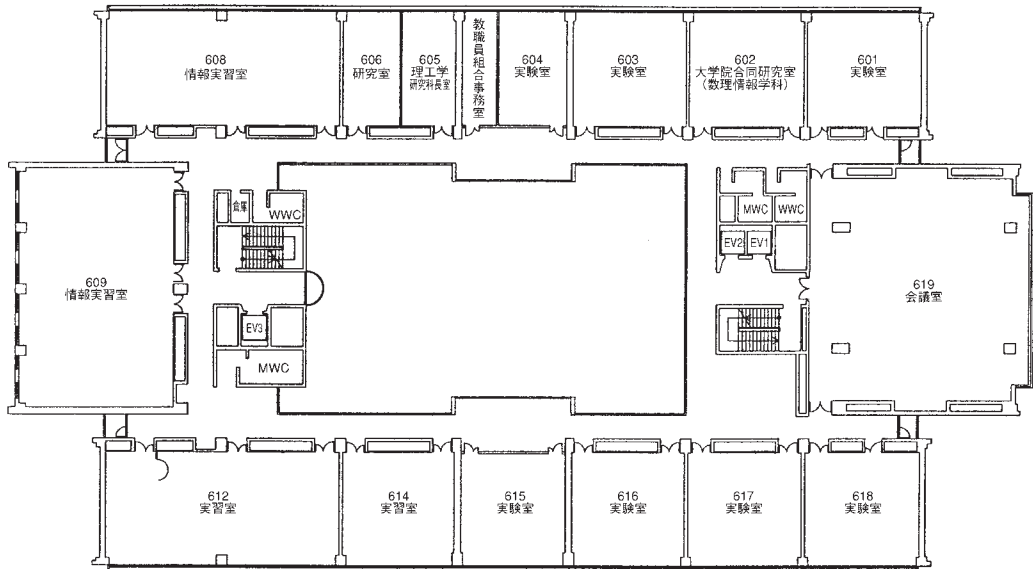
4 階



5 階

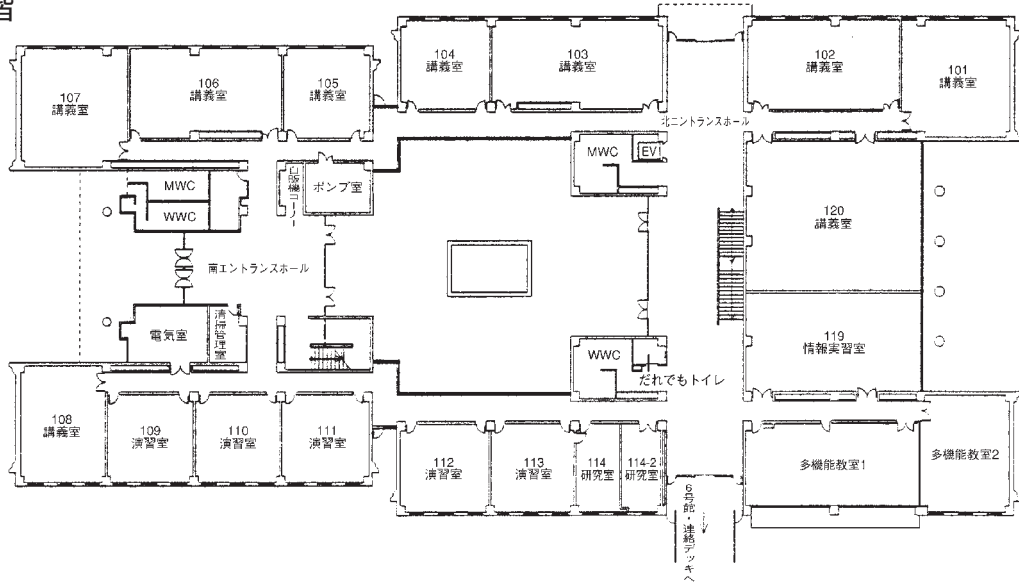


6 階

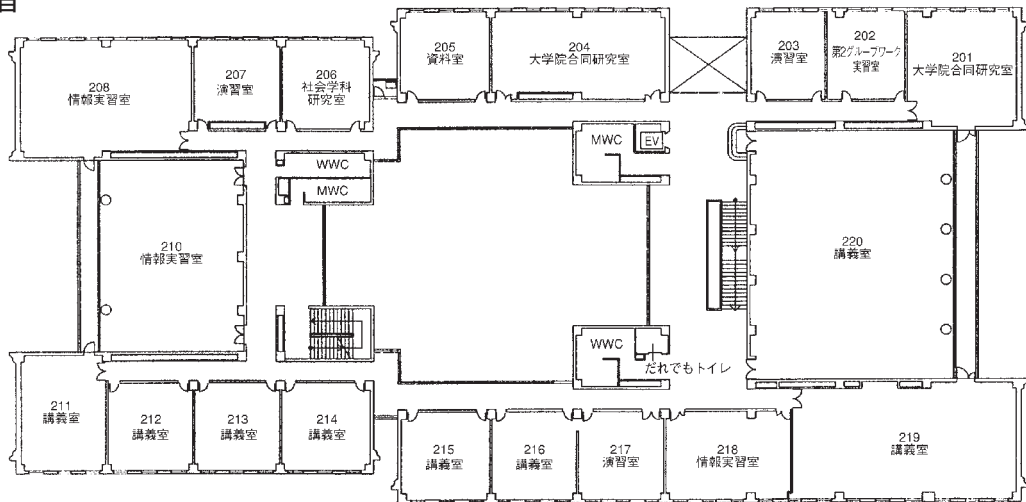


〈瀬田学舎〉 2号館

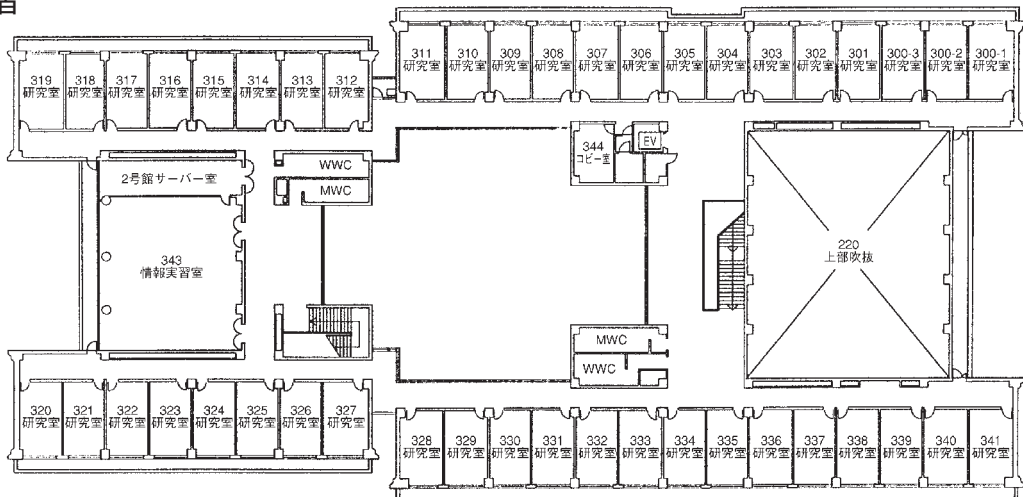
1 階



2 階

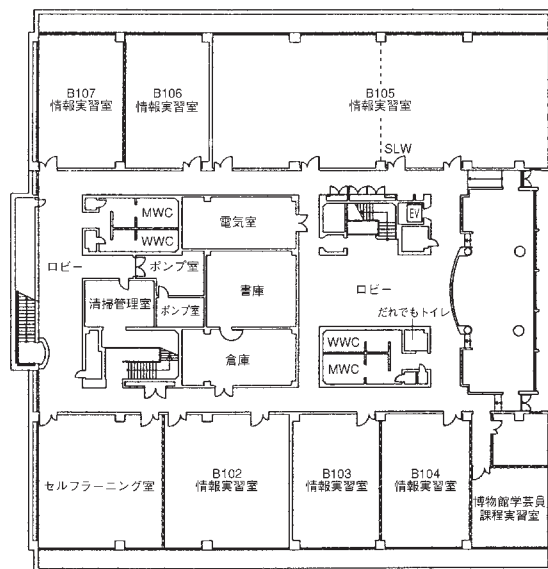


3 階

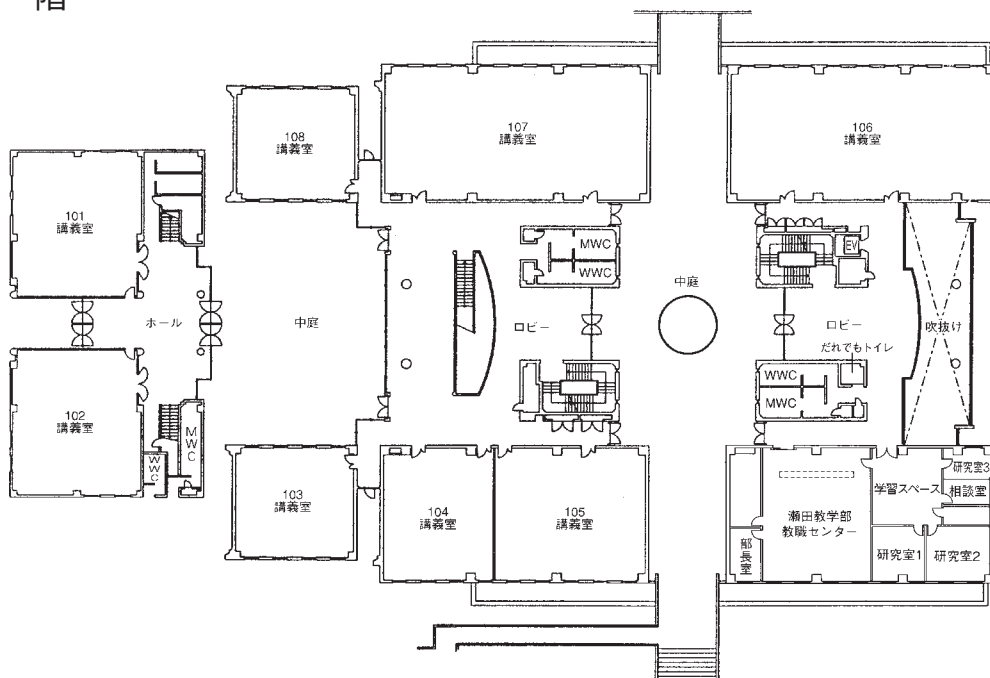


〈瀬田学舎〉 3 号 館

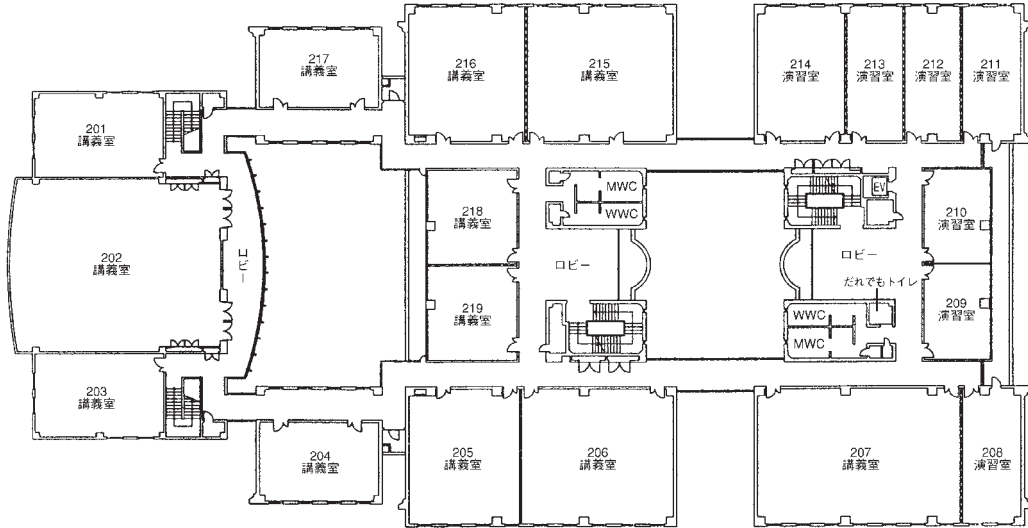
地下1階



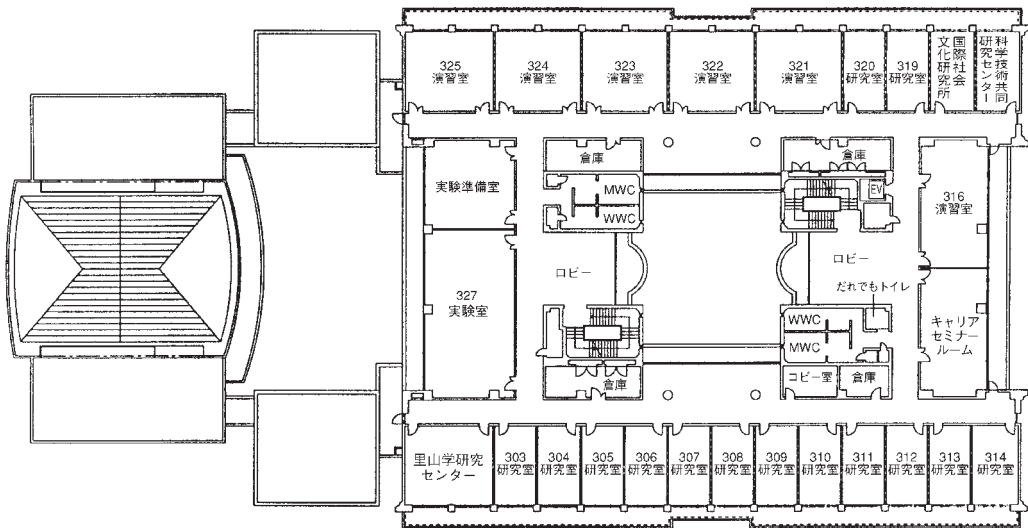
1 階



2 階

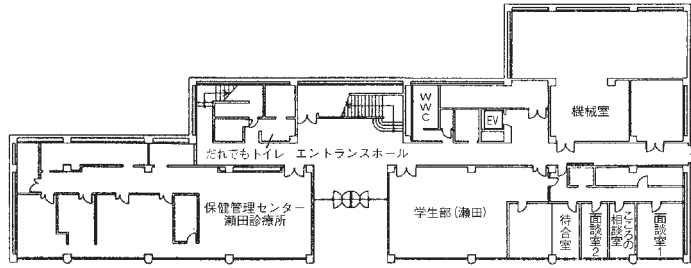


3 階

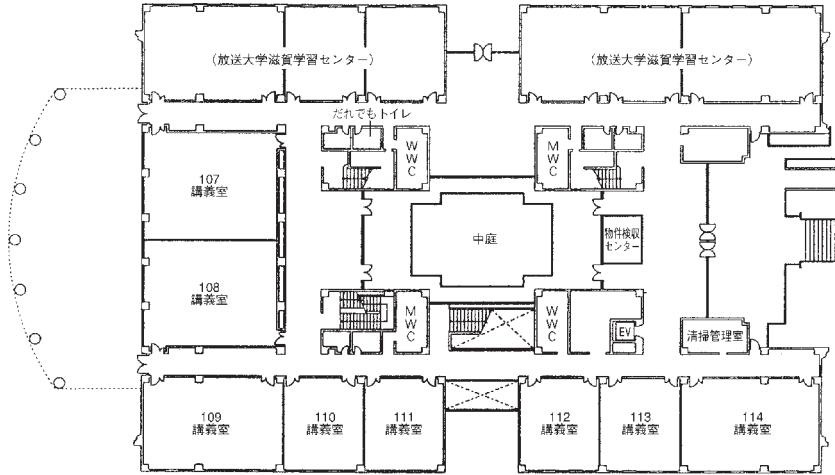


〈瀬田学舎〉 4 号 館

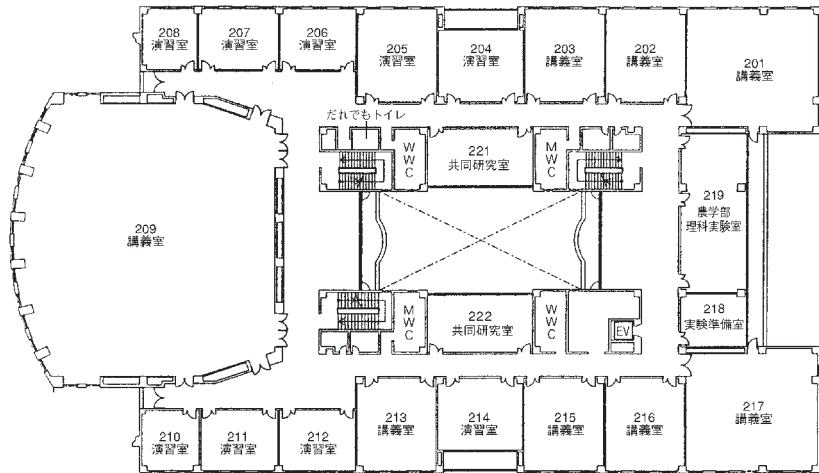
地下1階



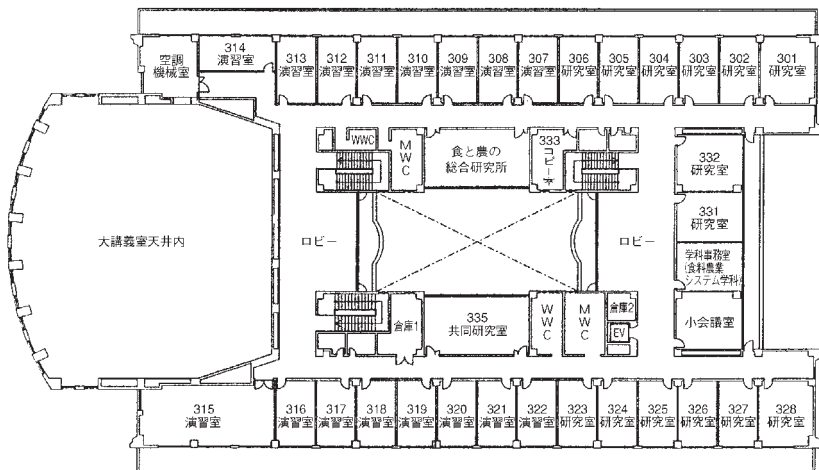
1 階



2 階

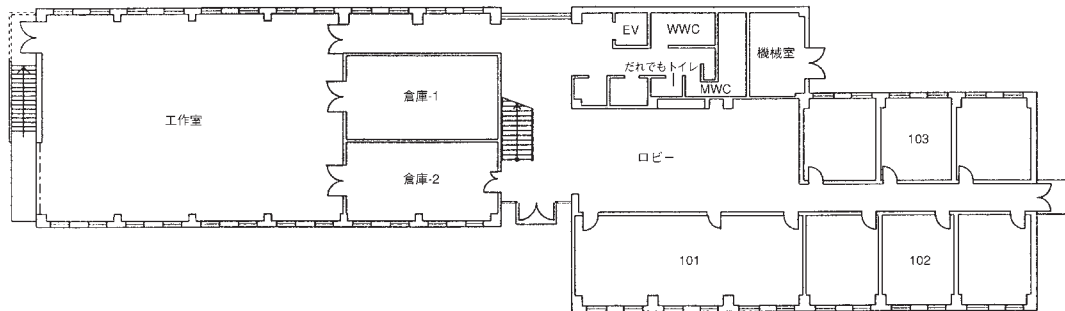


3 階

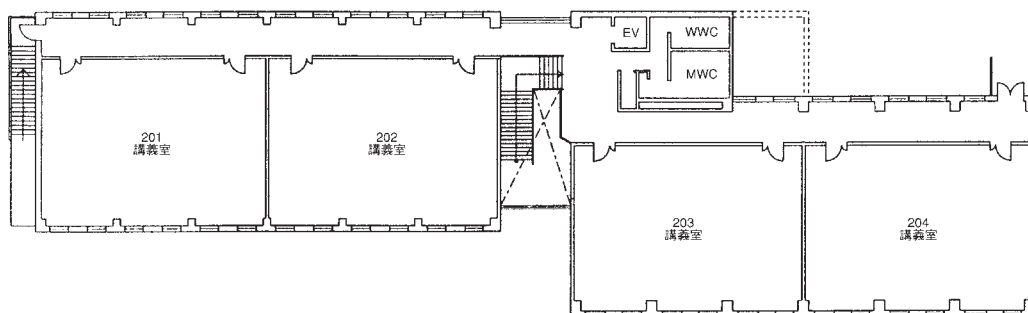


〈瀬田学舎〉 5 号 館

1 階

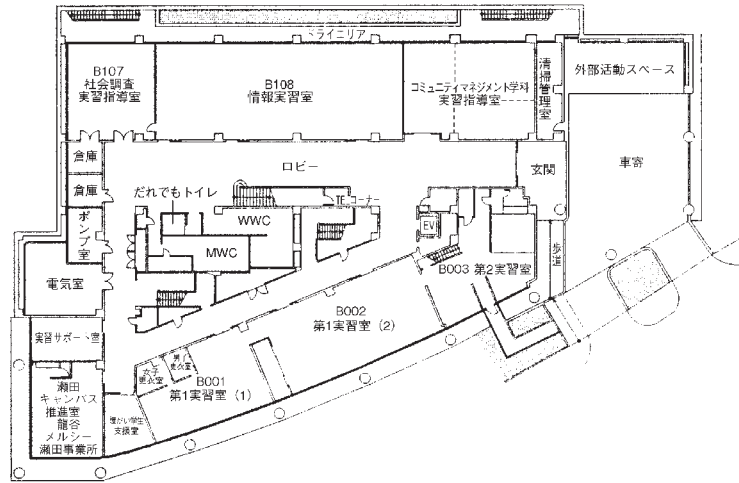


2 階

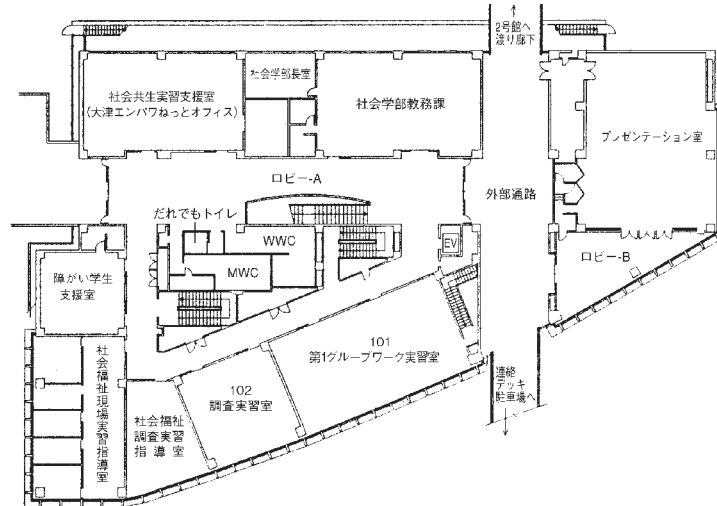


〈瀬田学舎〉 6号館

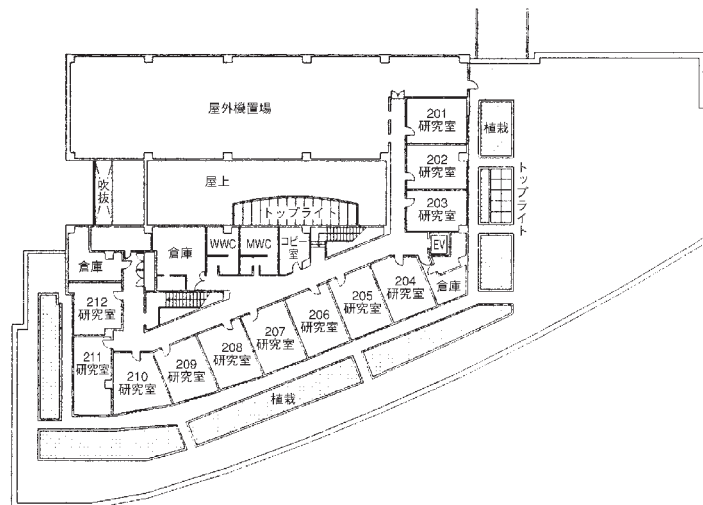
地下1階



1階

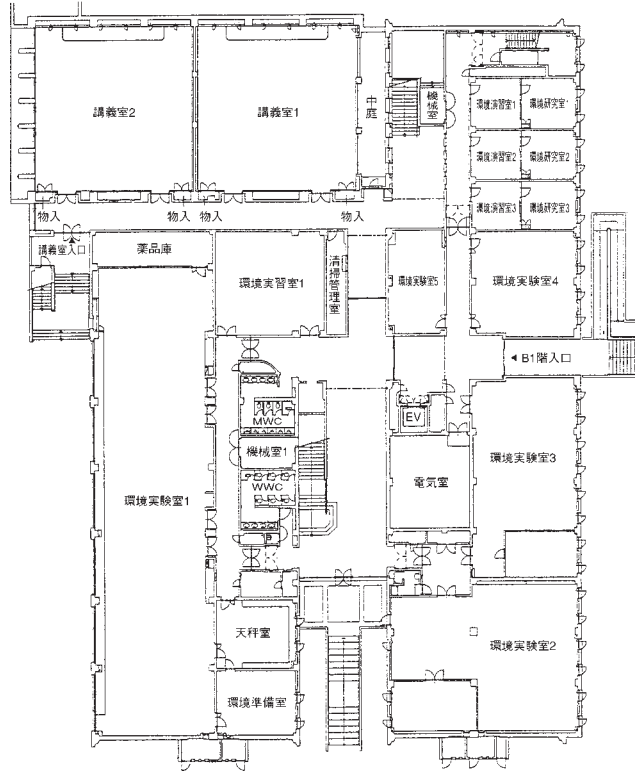


2階

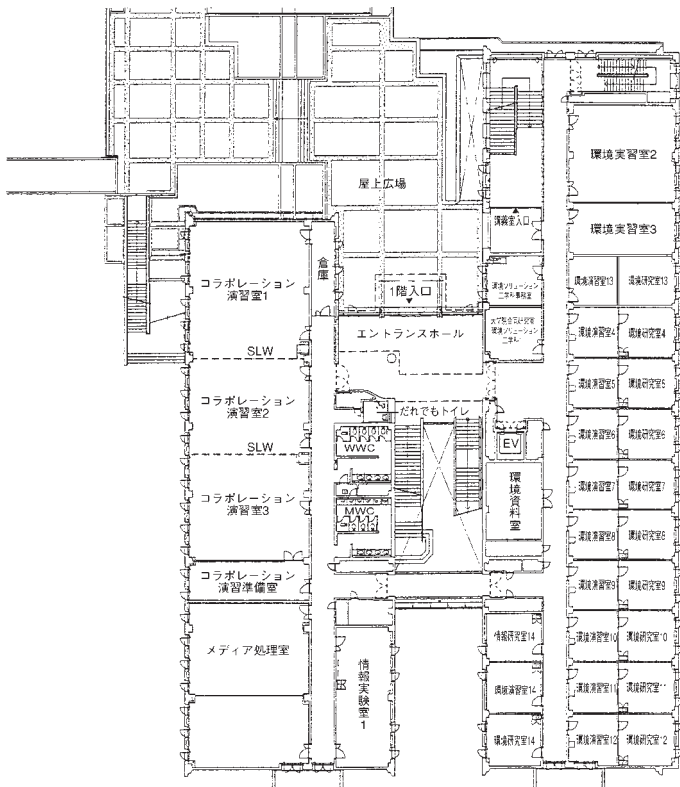


〈瀬田学舎〉 7号館

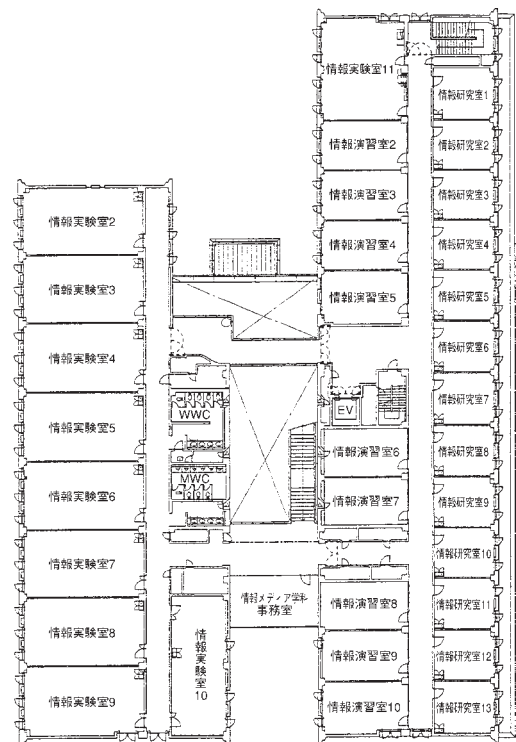
地下1階



1階

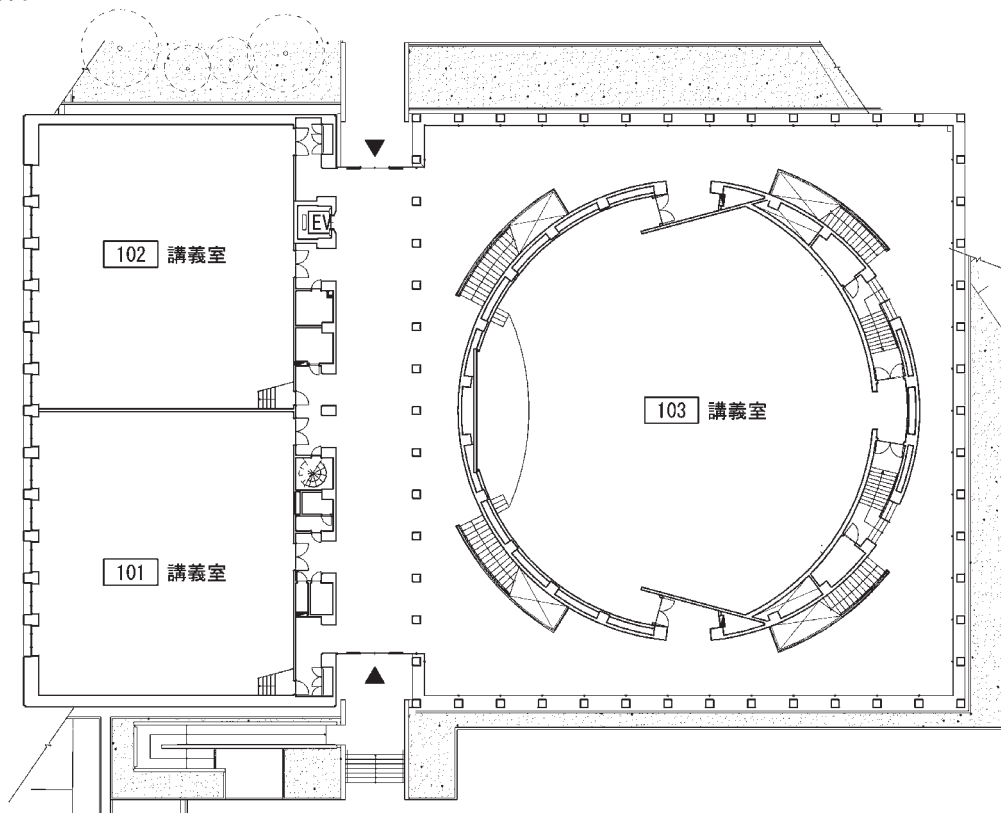


2階

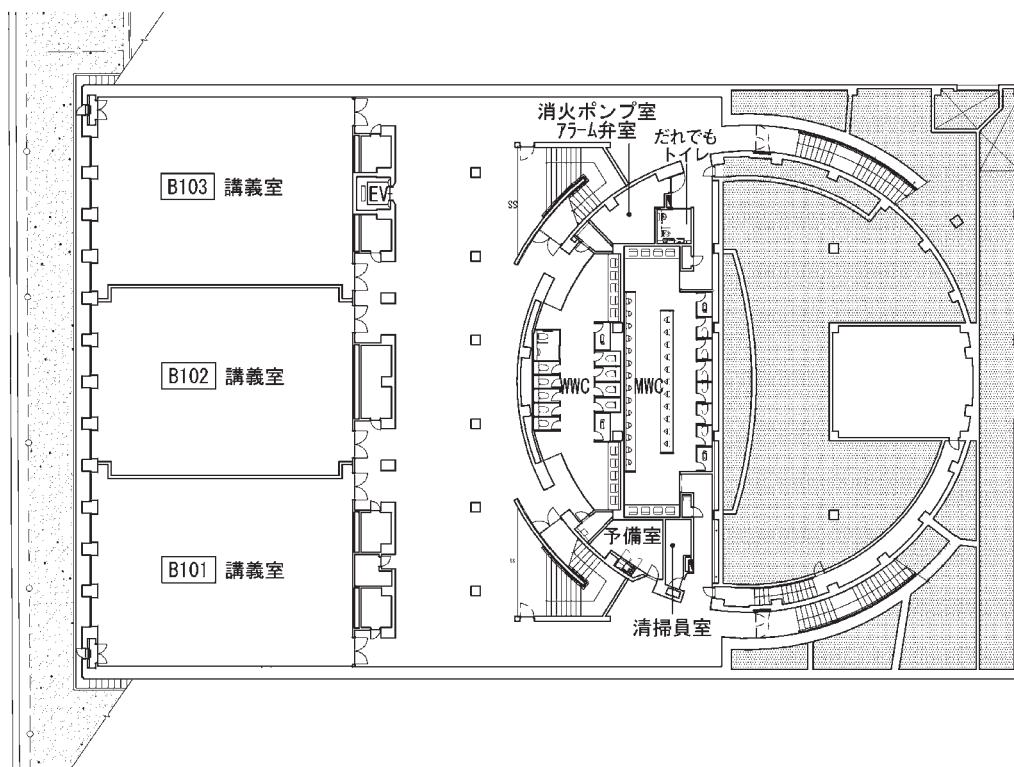


〈瀬田学舎〉 8 号 館

1 階



地下1階

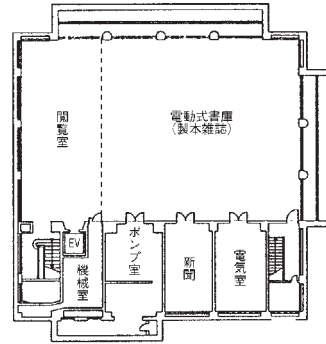


3 階

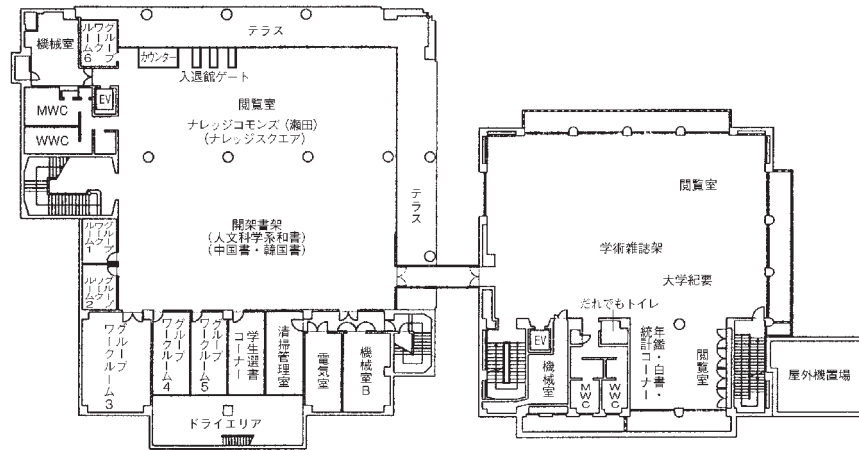


〈瀬田学舎〉 図書館（図書館事務部）

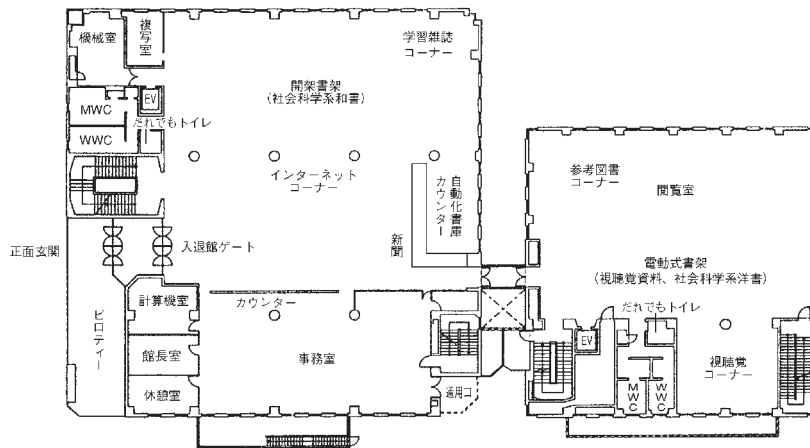
地下2階



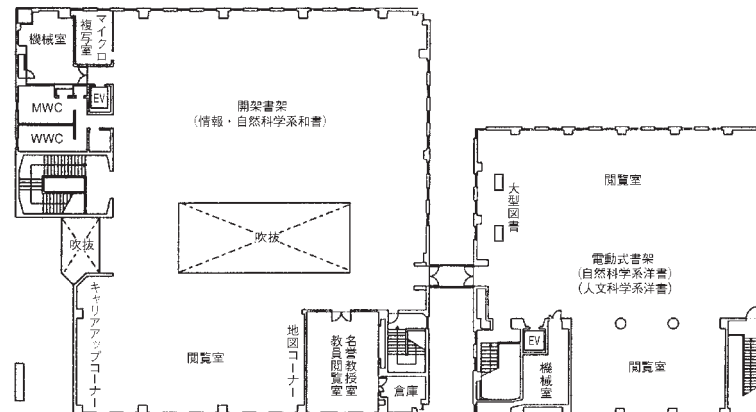
地下1階



1 階

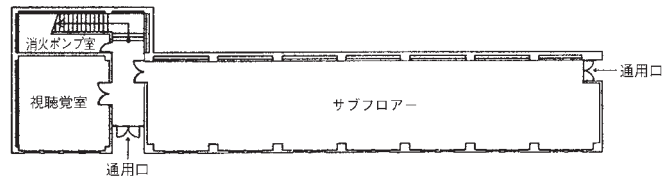


2 階

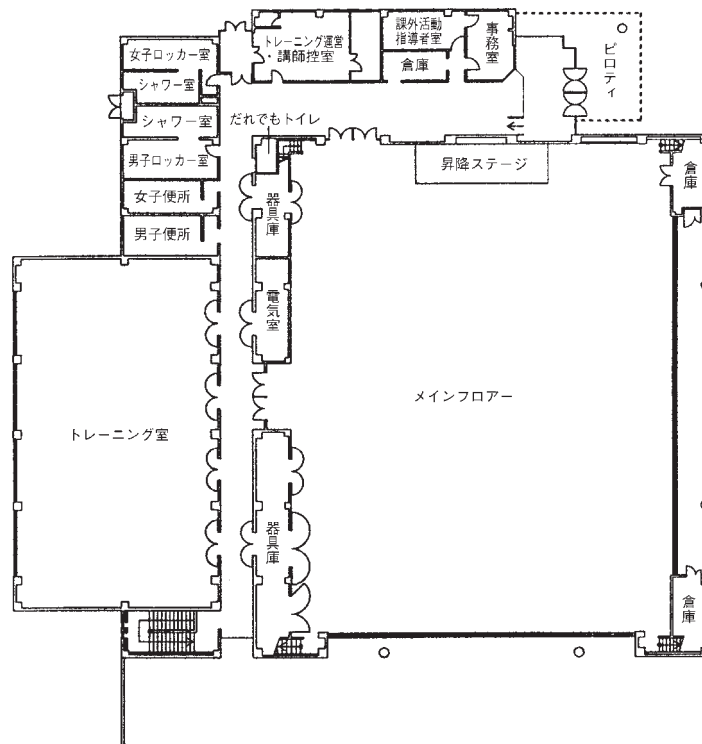


〈瀬田学舎〉 体 育 館

地下1階

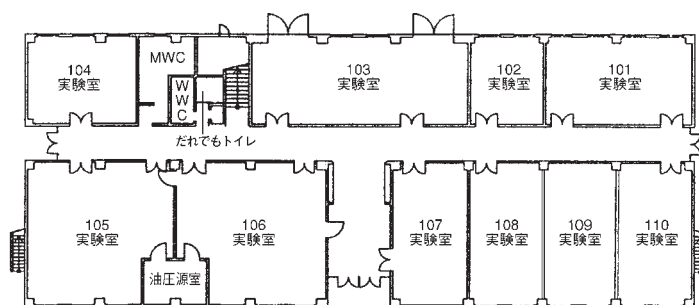


1 階

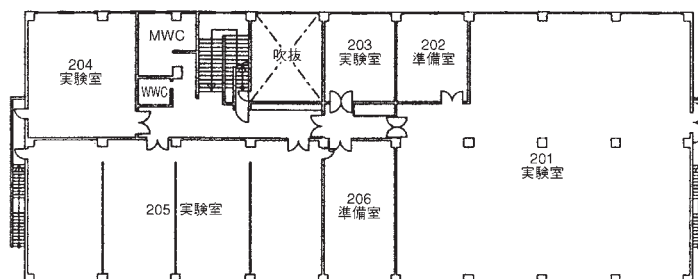


〈瀬田学舎〉 実験棟

1 階

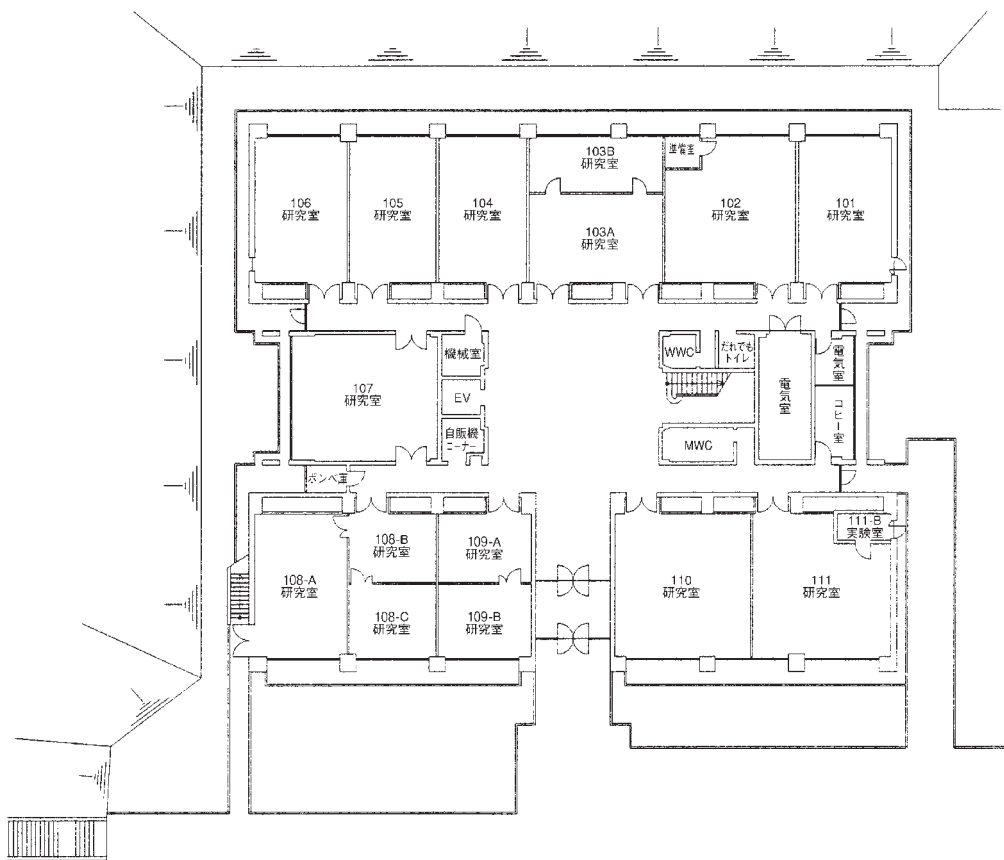


2 階

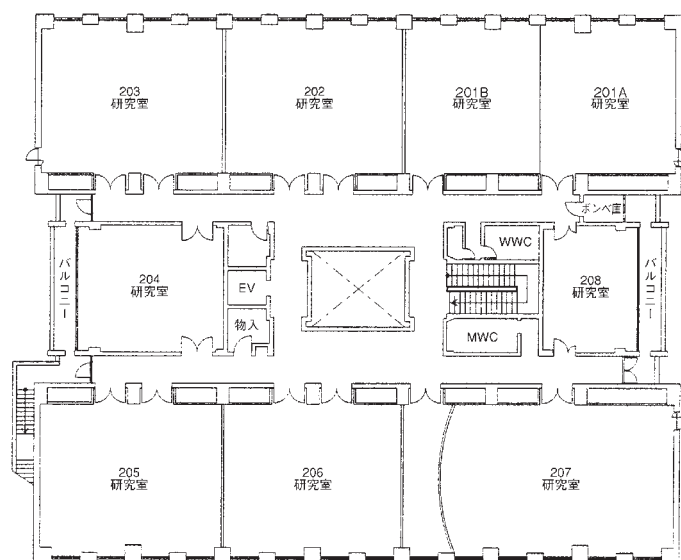


〈瀬田学舎〉 H R C 棟

1 階

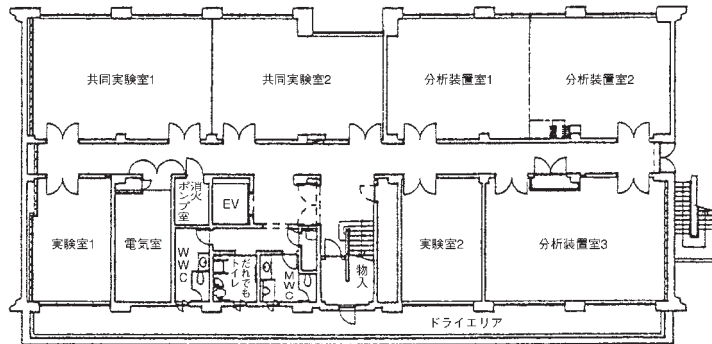


2 階

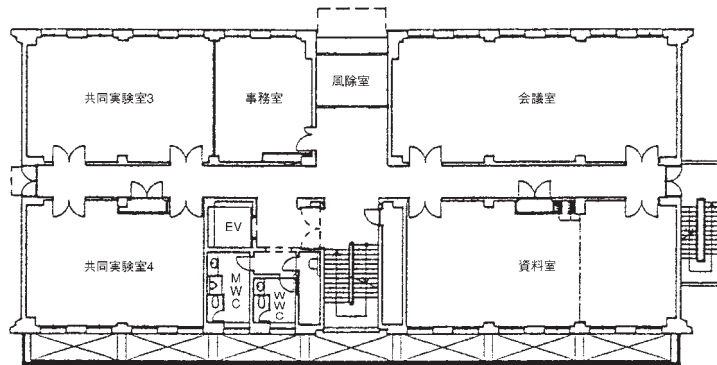


〈瀬田学舎〉 瑞光館

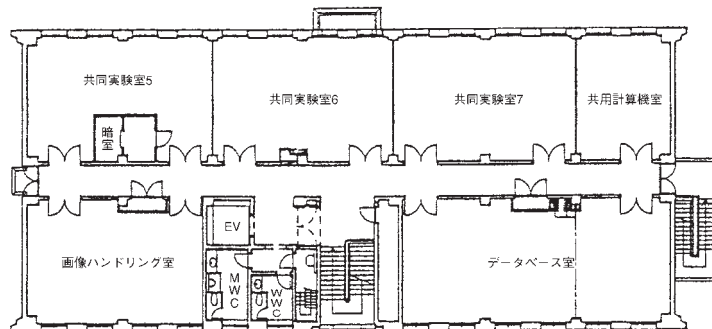
地下1階



1 階

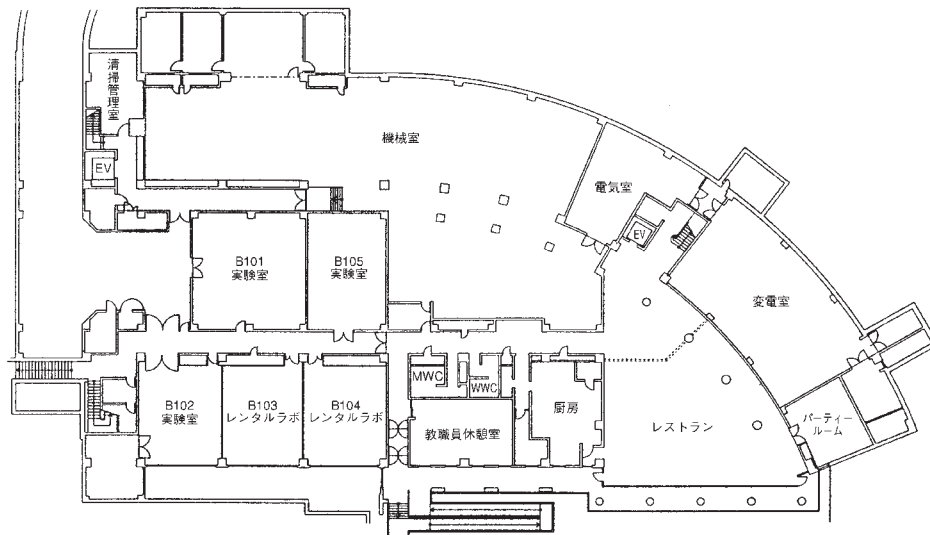


2 階

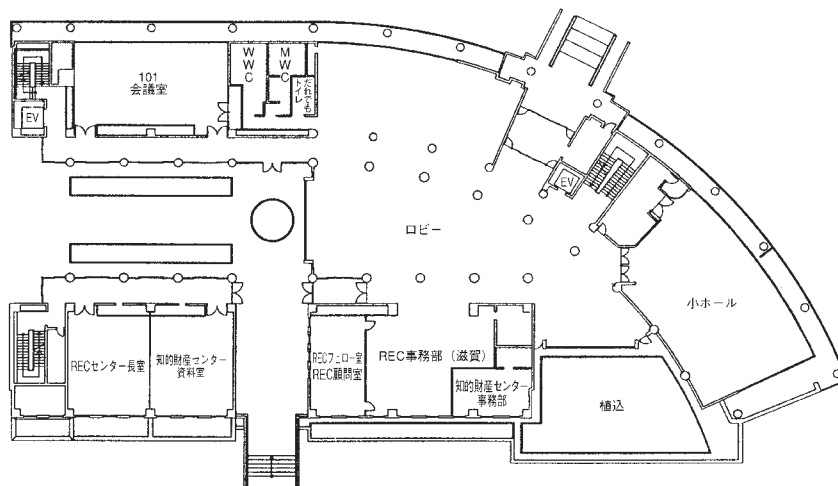


〈瀬田学舎〉 RECホール

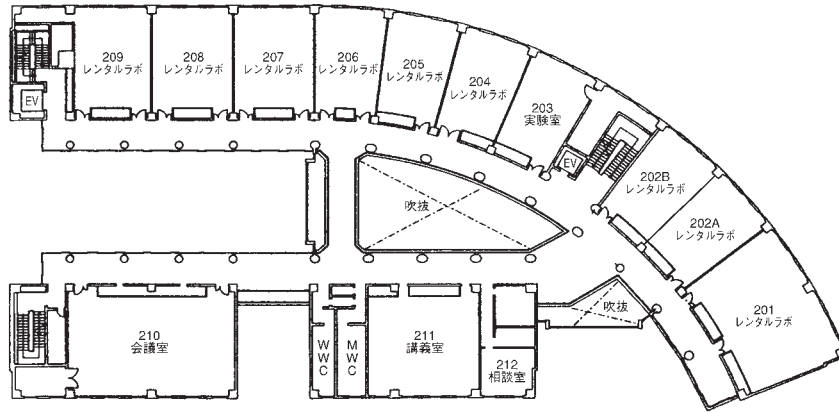
地下1階



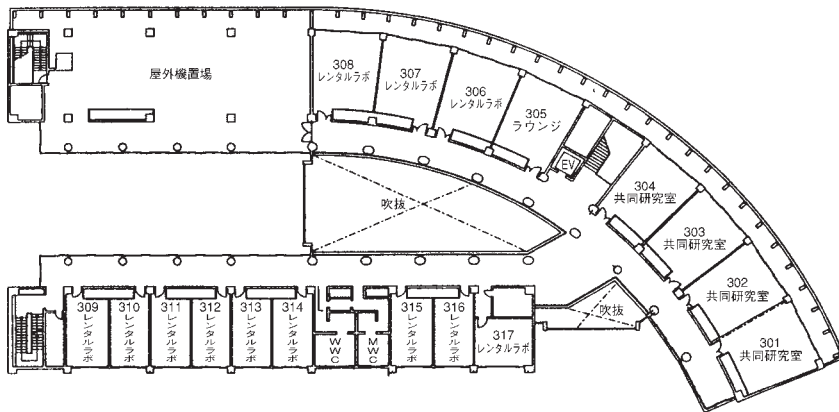
1 階



2 階

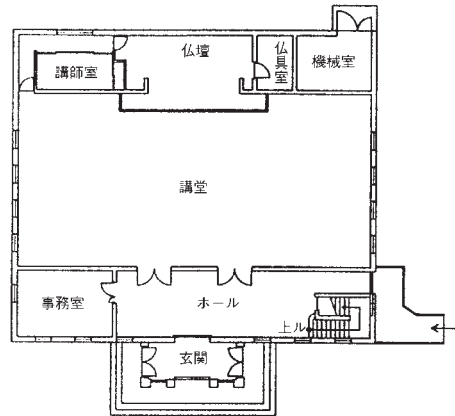


3 階

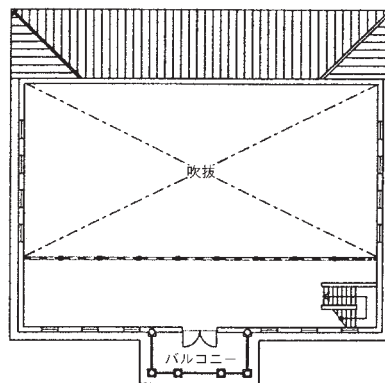


〈瀬田学舎〉 樹心館

1 階

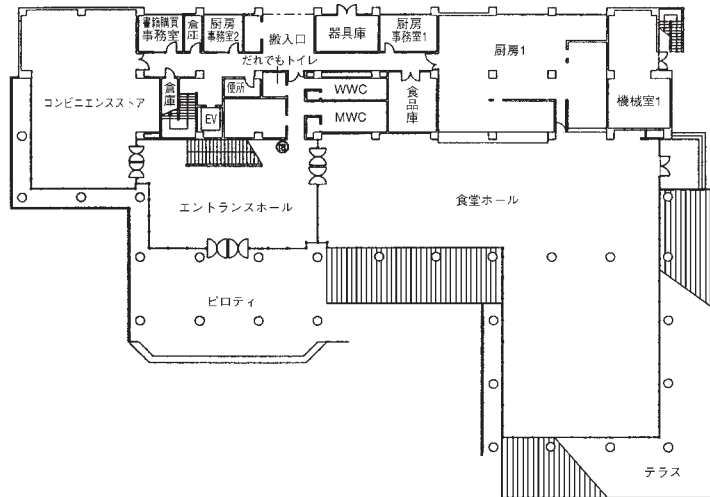


2 階

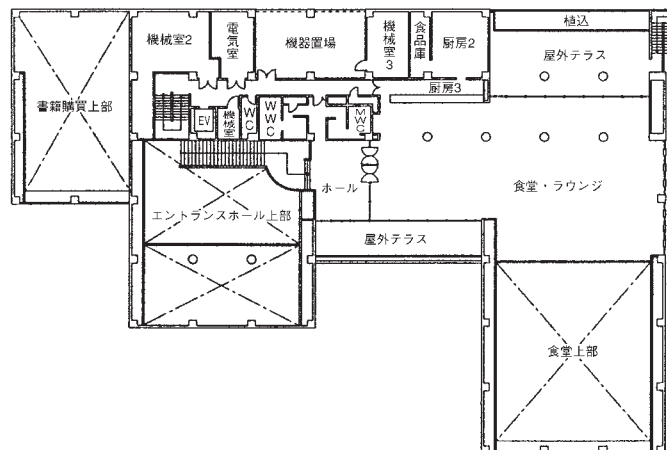


〈瀬田学舎〉 青雲館

1 階

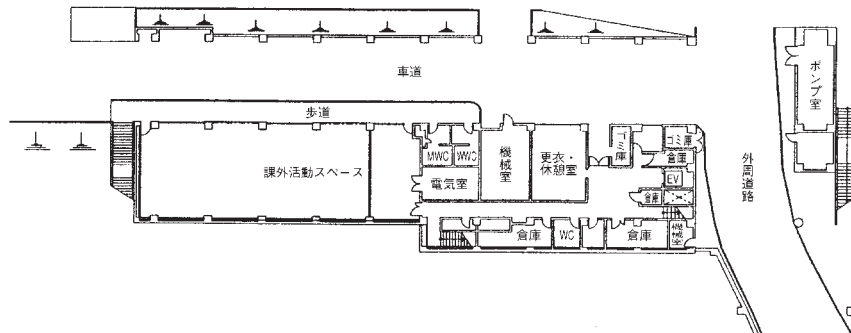


2 階

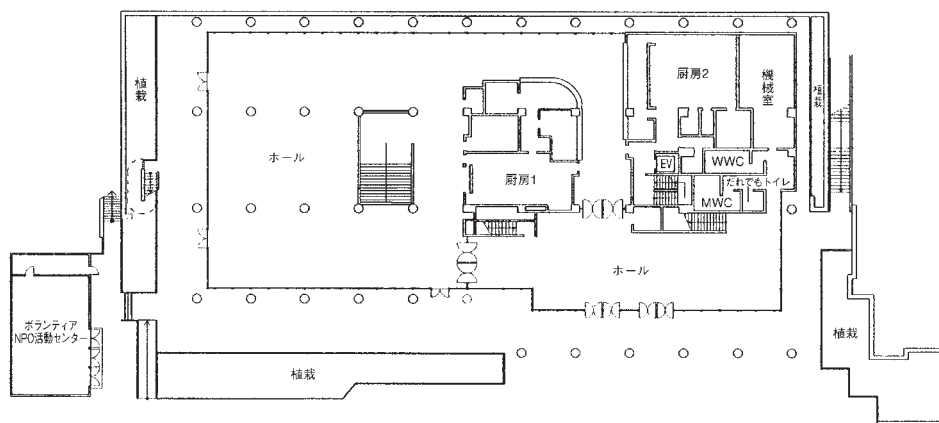


〈瀬田学舎〉 青志館

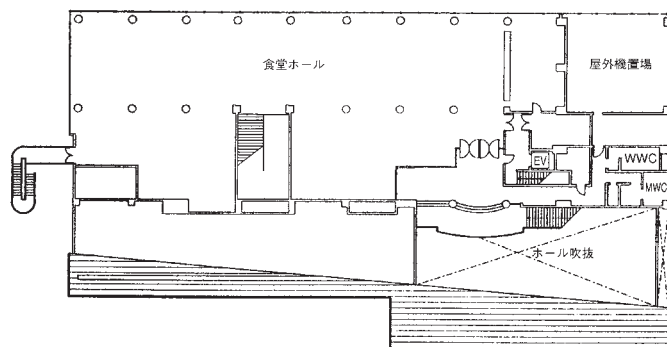
地下1階



1 階

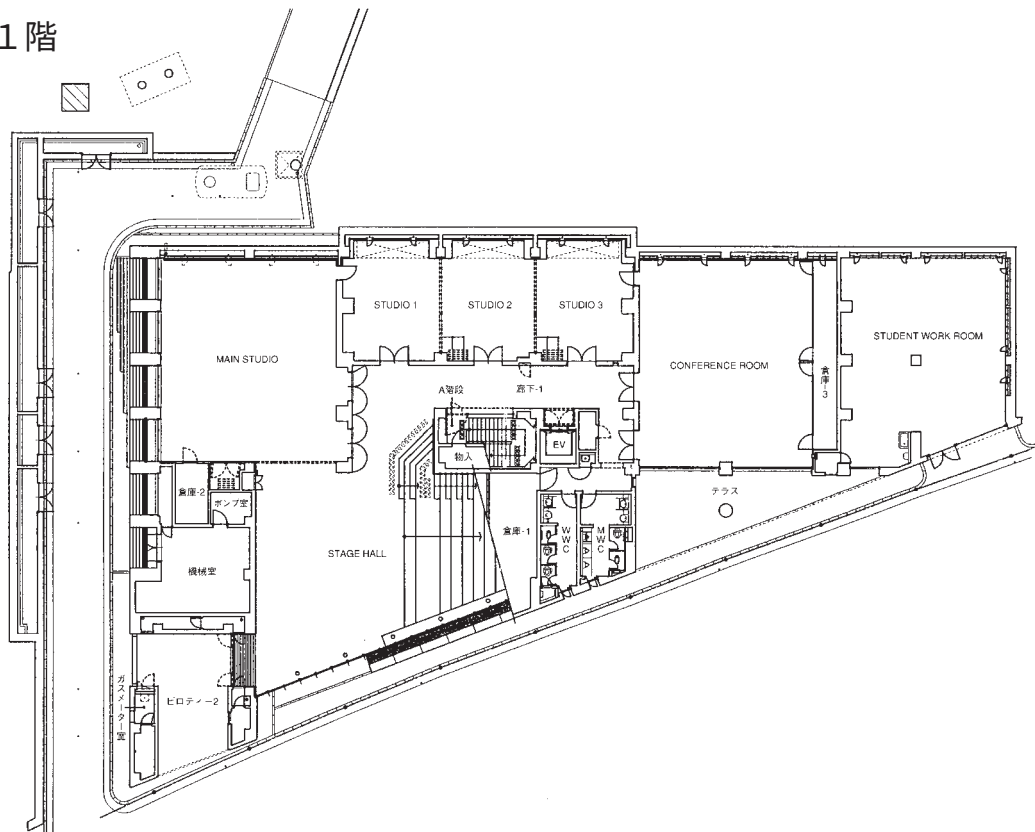


2 階

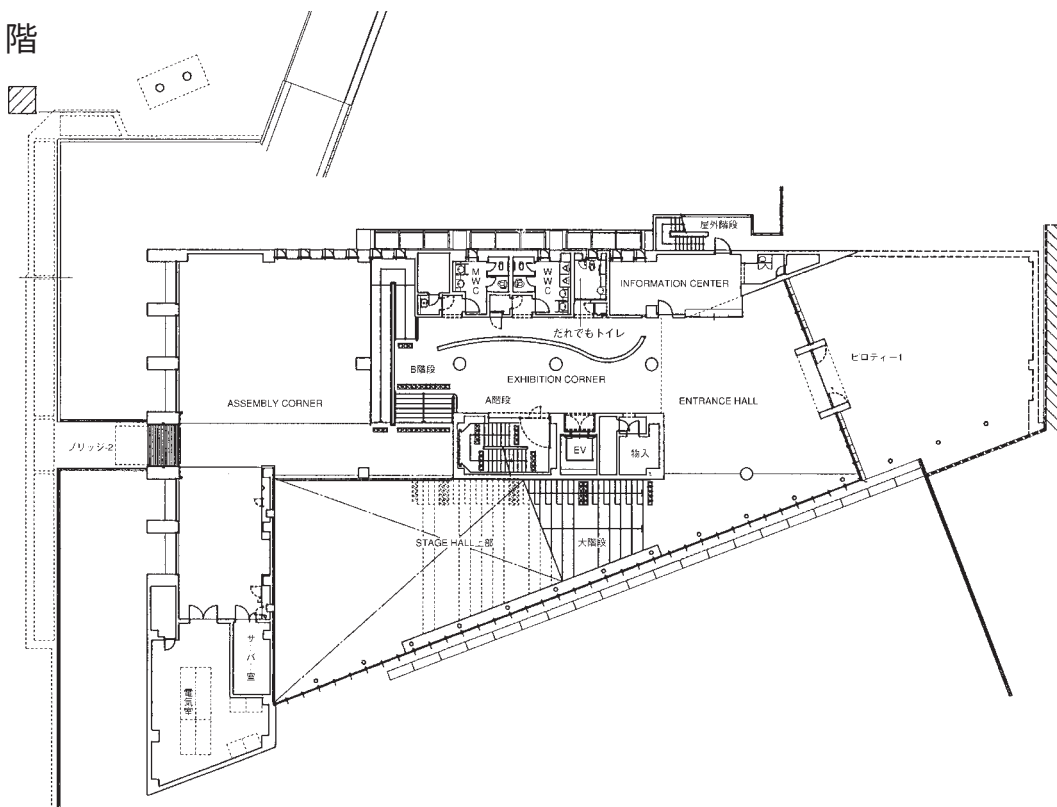


〈瀬田学舎〉 学生交流会館

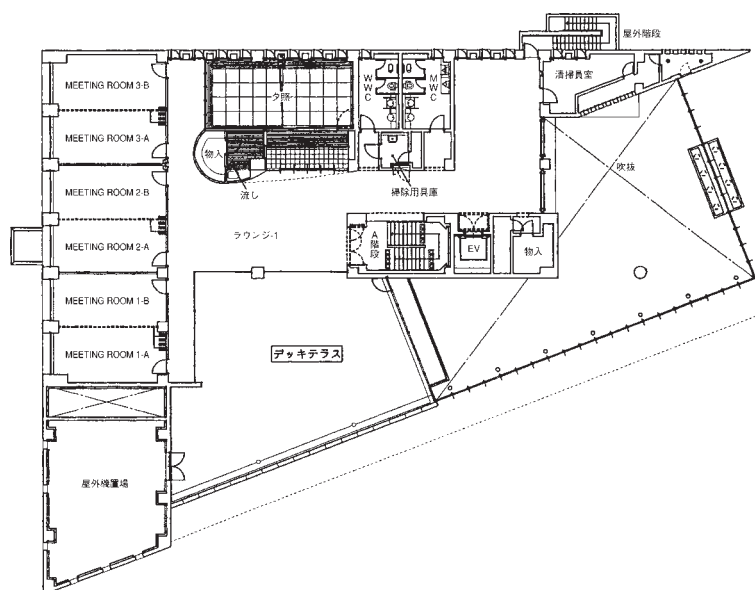
地下1階



1階

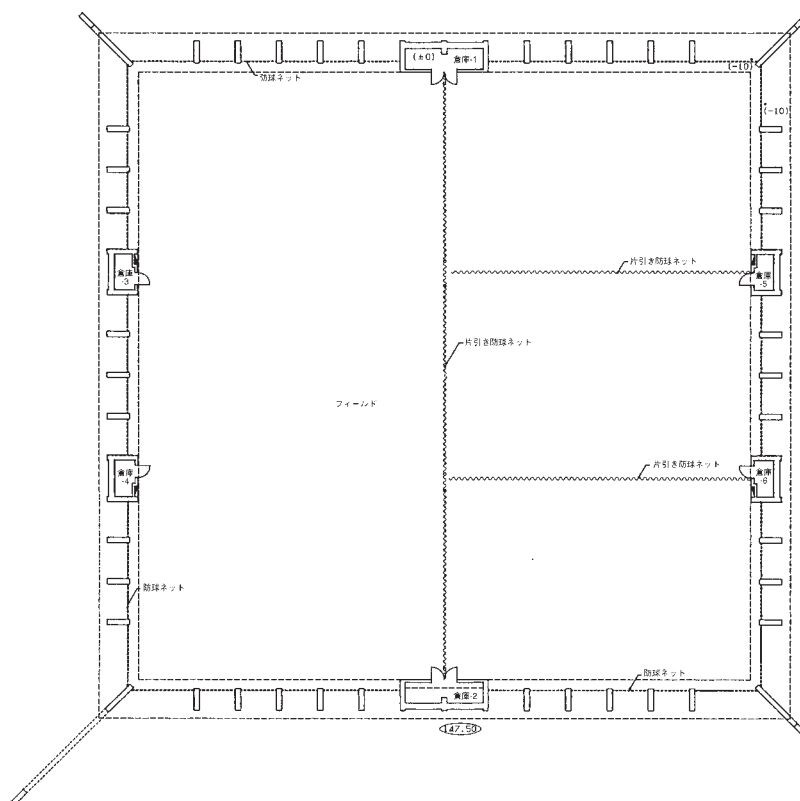


2 階



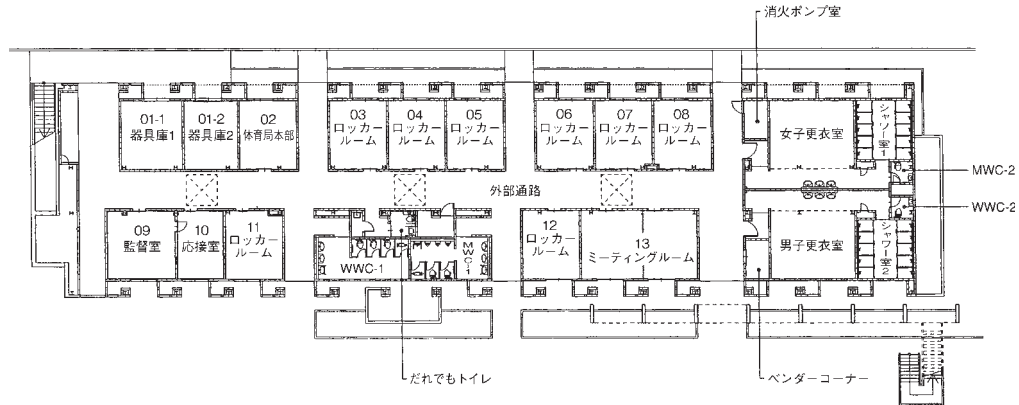
〈瀬田学舎〉 SETA DOME

1 階

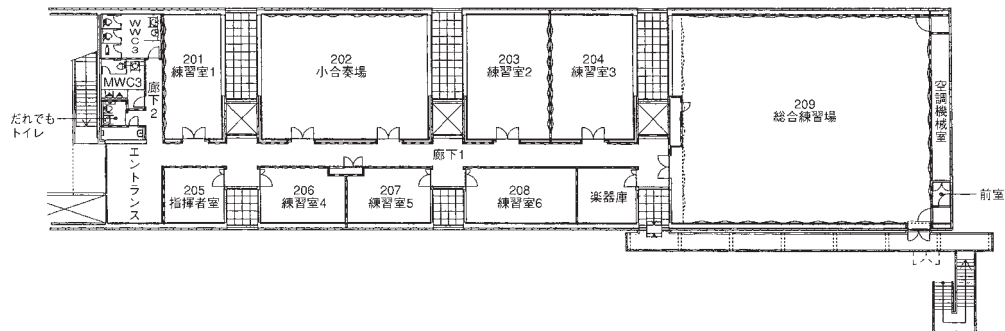


〈瀬田学舎〉 青 朋 館

1 階



2 階



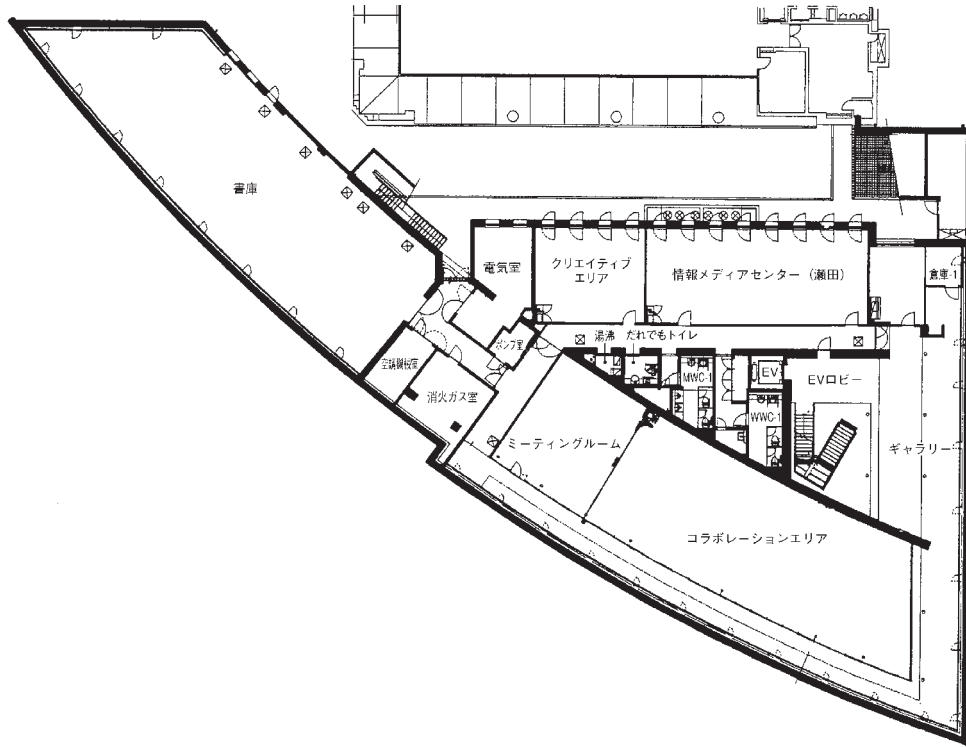
〈瀬田学舎〉 第2実験棟

1 階

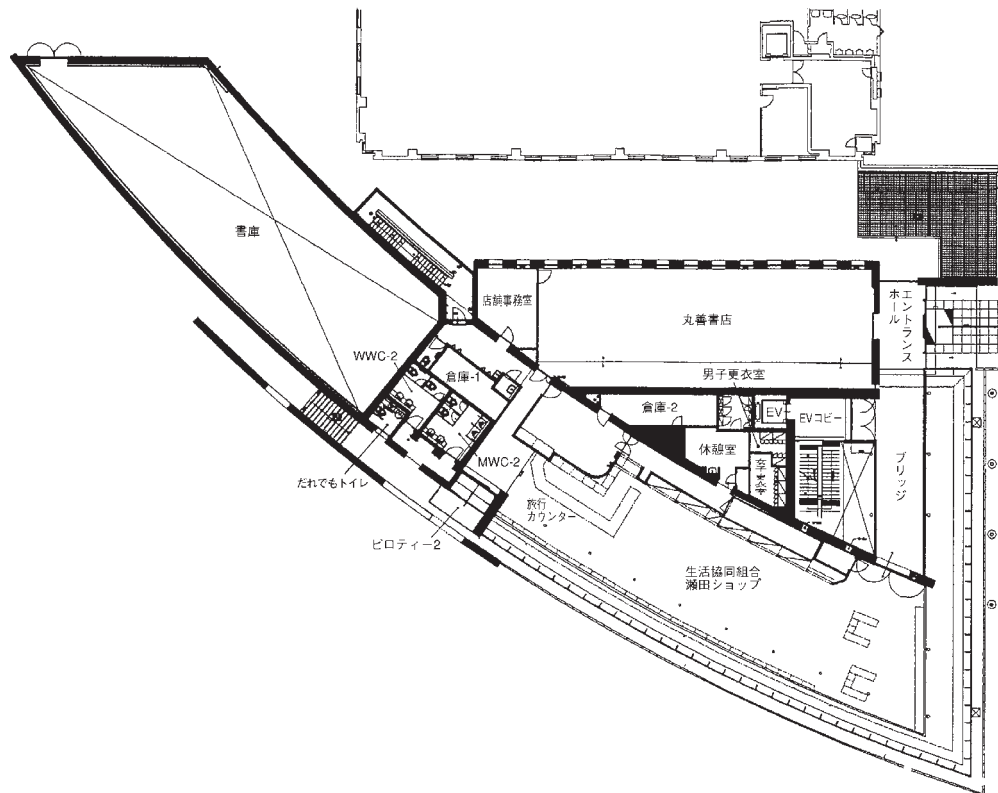


〈瀬田学舎〉 智 光 館

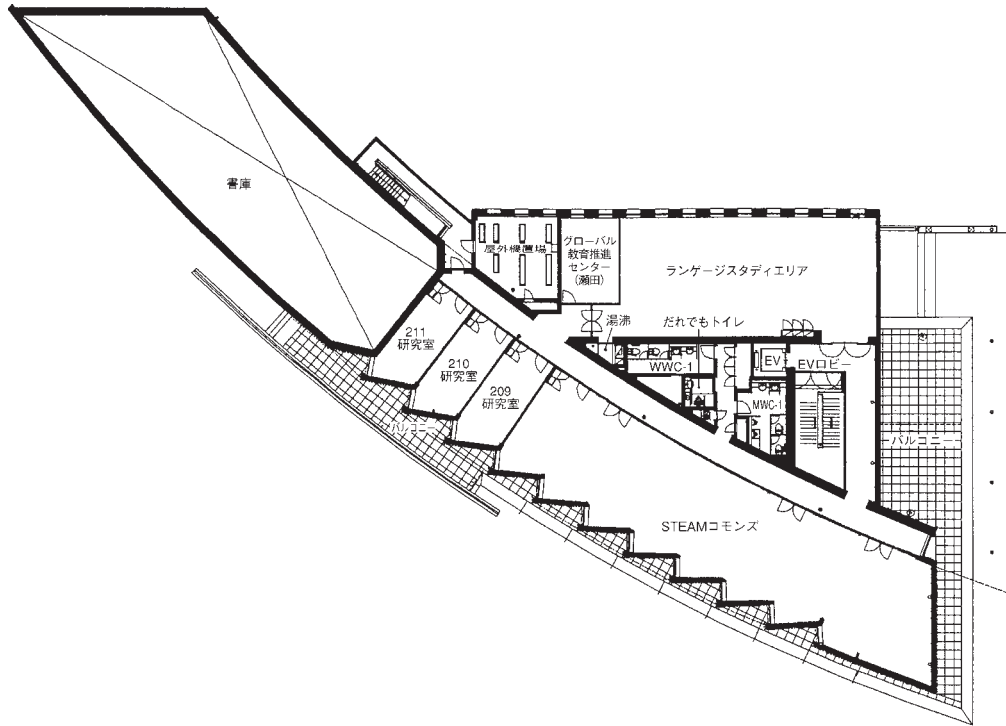
地下1階



1 階

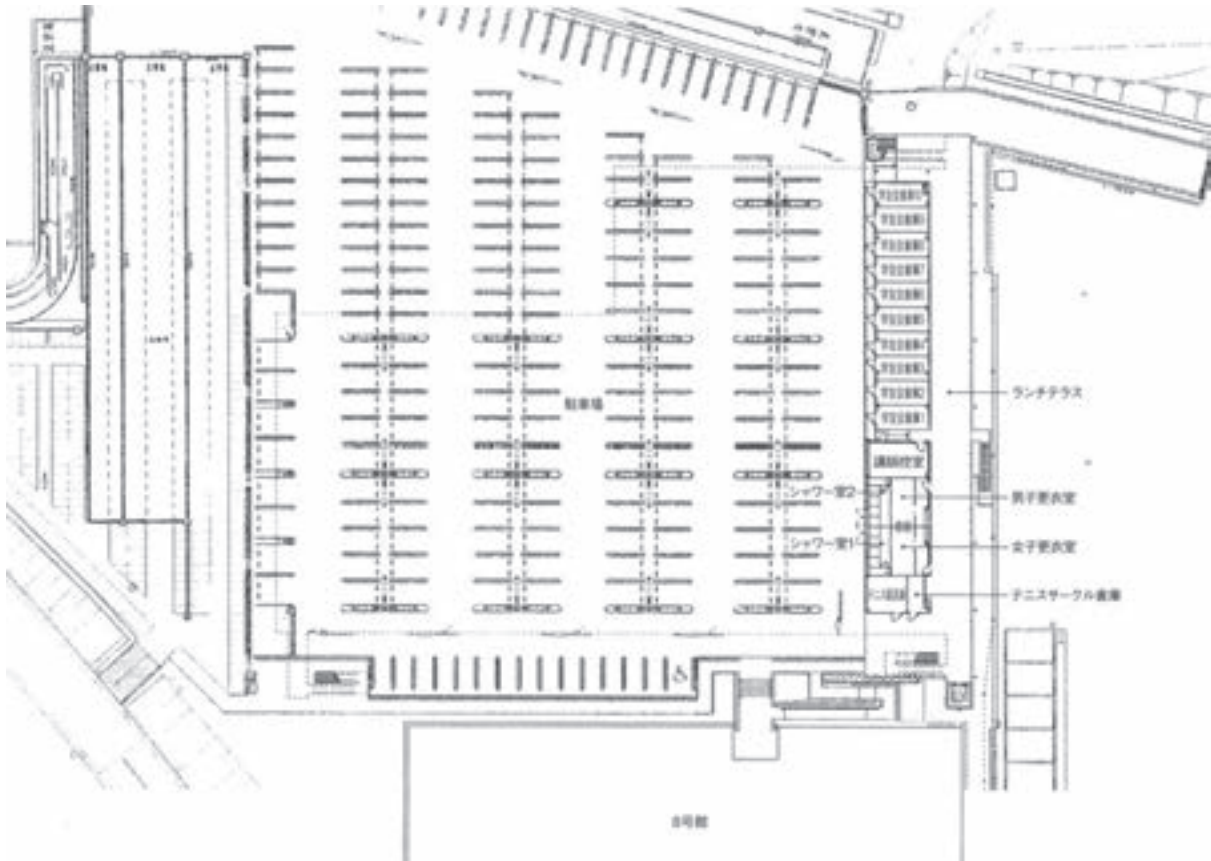


2 階

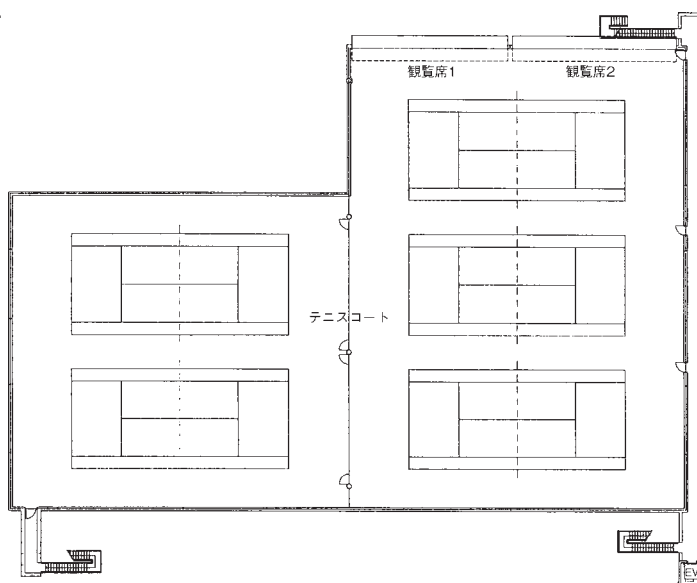


〈瀬田学舎〉 テニスコート棟

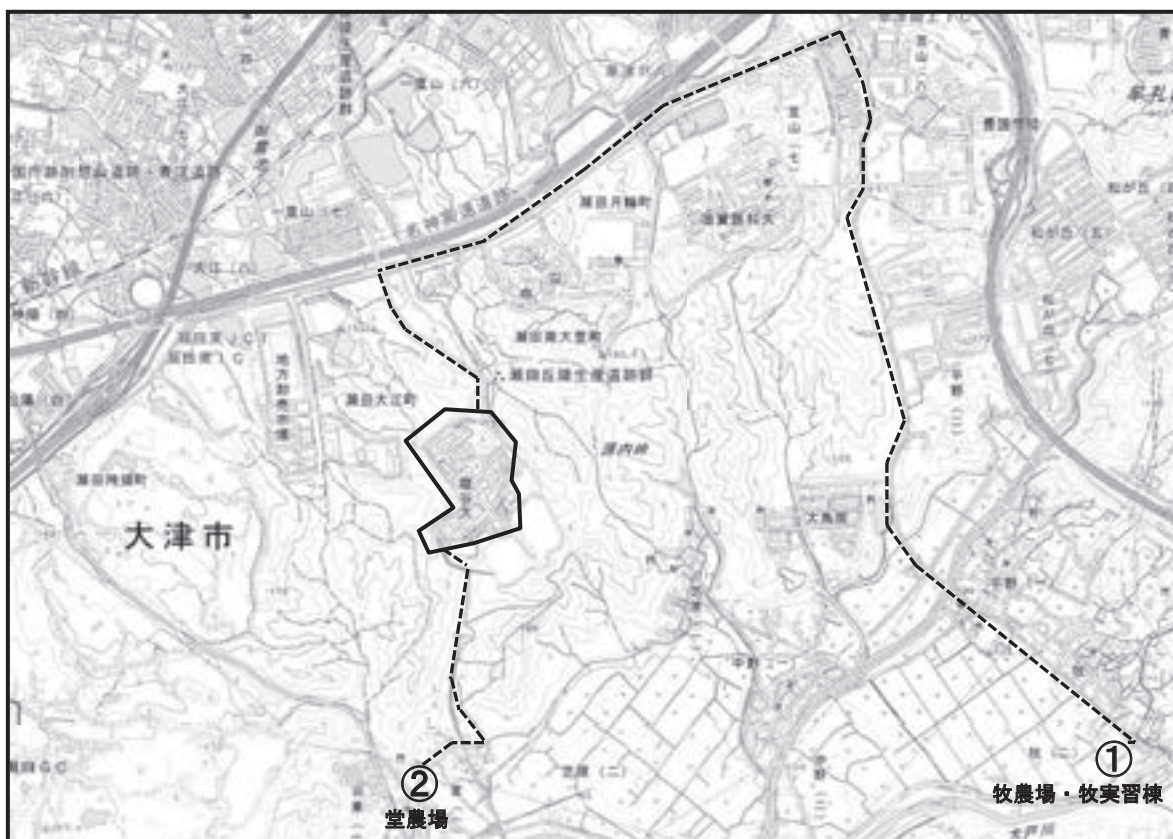
1 階



屋 上



龍谷大学農学部の農場・実習棟の位置



① 龍谷大学農学部牧農場・牧実習棟（滋賀県大津市牧二丁目）

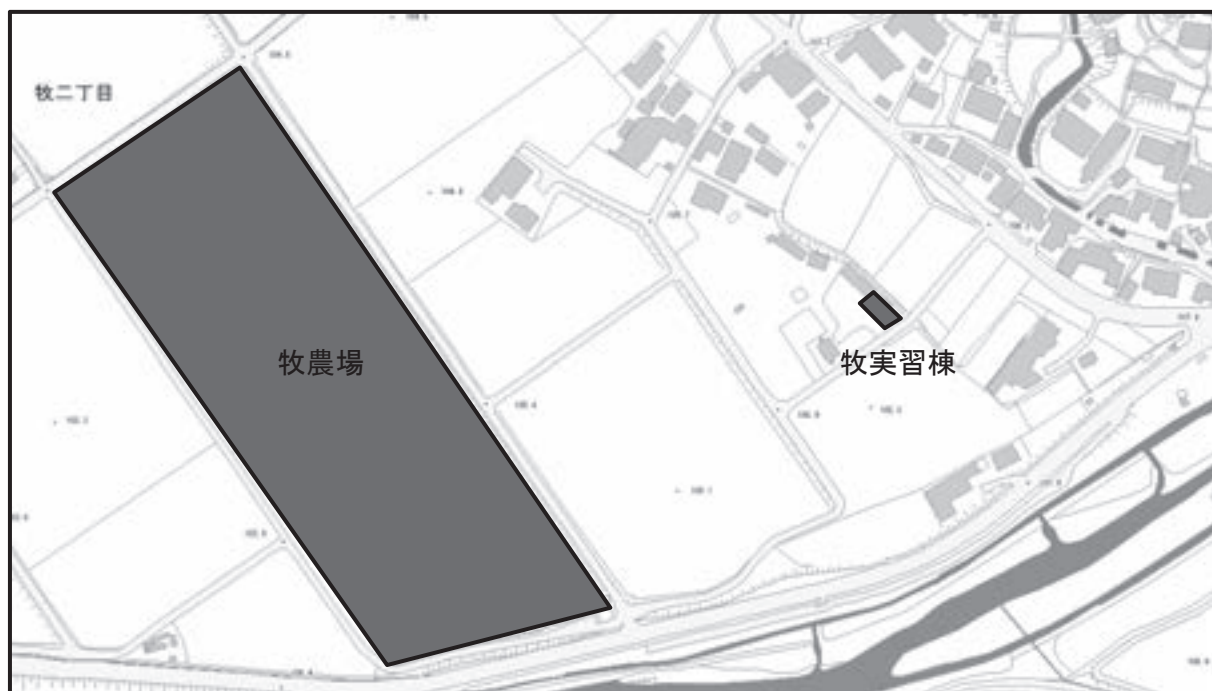
<アクセス：専用バス※で約20分>

※「食の循環実習Ⅰ・Ⅱ」の開講時に瀬田学舎から牧農場までの送迎バスを運行します。

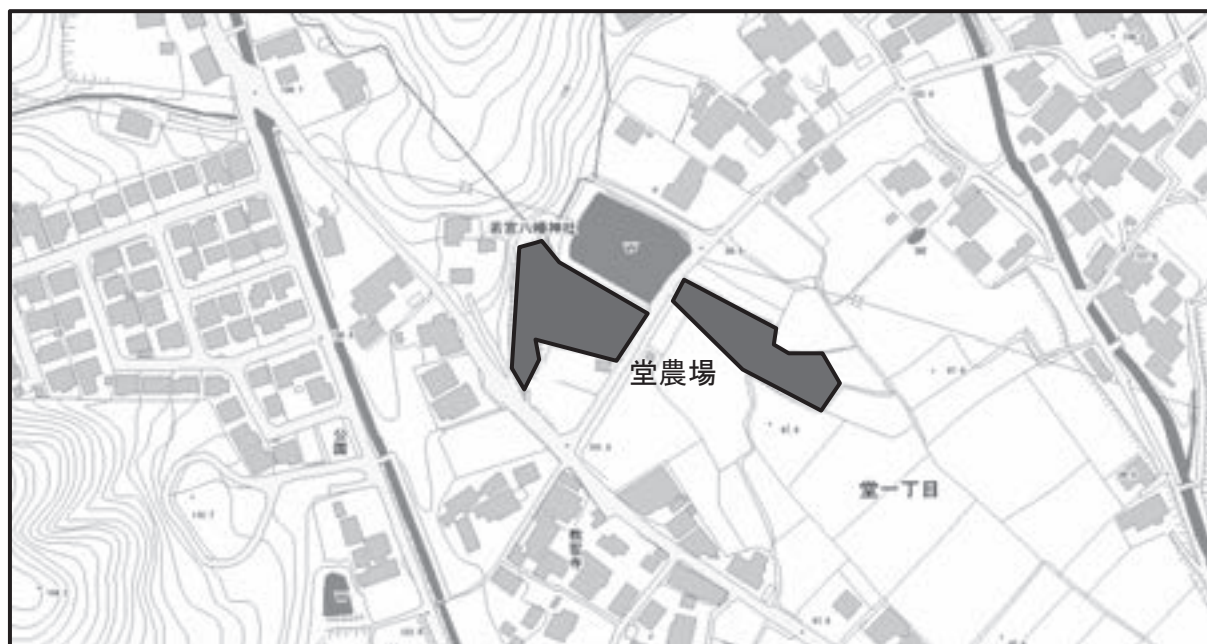
② 龍谷大学農学部堂農場（滋賀県大津市堂一丁目）

<アクセス：瀬田学舎から徒歩で約15分>

龍谷大学農学部牧農場・牧実習棟



龍谷大学農学部堂農場



緊急時の対応

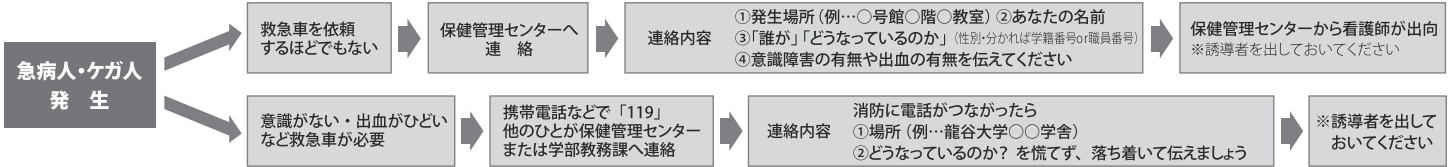
急な怪我をした、気分が悪くなった（応急処置）

授業や課外活動中に思わぬ事故で「けが」をしたり、急に体調が悪くなったような場合は、医師の診療時間外にも看護師が応急処置に応じています。また、教室等で急病やケガ人が発生し、保健管理センターまで来所できない場合は、保健管理センターから看護師が現場まで出向、対応します。

また、保健管理センターには休養室が設置されています。学内で体調を崩したときなどにご利用ください。

●各学舎の保健管理センター、対応時間と連絡先（土・日・祝日を除く）

学舎	利用時間	番号
深草学舎	8:45 ~ 17:15	075-645-7879 <small>ダイヤルイン</small>
大宮学舎	8:45 ~ 17:15	075-343-3322 <small>ダイヤルイン</small>
瀬田学舎	9:00 ~ 17:30	077-543-7781 <small>ダイヤルイン</small>



救急・夜間休日診療

施設名	受付時間	電話番号	診療科目	備考
救急外来「ERおおつ」	24時間365日	077-525-0299	内科 外科	※大津市民病院内 救急外来
滋賀県精神科救急医療相談	①平日: 17:15~21:30 ②休日: 9:30~12:00, 13:00~21:30	077-566-1190	精神科	※電話相談
循環器ホットライン	24時間365日	090-6977-8535	循環器	※大津赤十字病院内
心臓血管外科ホットライン	24時間365日	077-548-3524	心臓血管外科	※滋賀医大病院内
湖南広域休日急病診療所	日曜日・祝日・年末年始 10:00~22:00 (受付9:30~21:30)	077-551-1599	内科 小児科	※済生会滋賀県病院前 栗東市大橋2-7-3

瀬田学舎近隣医療機関

※ 診療科目・診療日・診療時間等は変更される場合がありますので事前に電話で確認してください。

※ 救急指定病院は24時間の診療体制を行っています。診療科目など詳しいことは直接電話で確認してください。

病院名	住所	電話番号	診療受付時間	月	火	水	木	金	土	備考	
救急指定病院	大津市民病院	大津市本宮2丁目9-9	077-522-4607	8:30~11:30	○	○	○	○	○	×	
	大津赤十字病院	大津市長等1丁目1-35	077-522-4131	8:00~11:30	○	○	○	○	○	×	
	JCHO滋賀病院	大津市富士見台16-1	077-537-3101	8:30~11:30	○	○	○	○	○	×	
	草津総合病院	草津市矢橋町1660	077-563-8866	8:00~11:30 13:00~16:00	☆診療科により 診療日異なる						
	近江草津徳洲会病院	草津市東矢倉3丁目34-52	077-567-3610	8:00~11:30 16:00~19:30	☆診療科により 診療日異なる						
内科	瀬田クリニック	JR「瀬田」駅より徒歩10分 帝産バス「葛原遊園地」下車徒歩1分 大津市一里山3丁目1-5	077-545-3945	8:30~11:30 13:00~16:30	○	○	○	○	○	○	受付時間: 月・水・木8:30~16:30 火・金・土8:30~11:30 (11:30からの受付は午後診療)
	小西医院	JR「瀬田」駅より徒歩1分 大津市大童1丁目17-35	077-543-3600	9:00~12:30 17:00~19:30	○	○	○	○	○	○	皮膚科・泌尿器科・外科
	大道医院	JR「瀬田」駅より瀬田北中学校方向へ徒歩15分 大津市大將軍1丁目15-7	077-547-3650	9:00~12:00 14:00~16:00 16:30~19:30	○	○	×	○	○	○	呼吸器・循環器 日曜AM診療(TEL要確認) △訪問診療
外科	はえうち診療所	帝産バス「一ツ松」下車徒歩1分 大津市一里山4丁目25-21	077-543-3861	9:00~12:00 15:00~17:00	×	○	○	×	○	○	胃腸科・肛門科
整形外科	かわむら整形外科	JR「瀬田」駅より徒歩10分 大津市大將軍1丁目17-7	077-572-8650	9:00~12:00 15:30~18:30	○	○	○	○	○	○	
	さいき整形外科	JR「瀬田」駅より徒歩10分 大津市一里山3丁目19-4	077-545-7711	9:00~12:00 16:30~19:30	○	○	○	×	○	○	
眼科	鶴岡眼科	JR「瀬田」駅より徒歩10分 大津市大江2丁目12-38	077-544-1075	8:30~12:00 14:00~18:00	○	×	○	△	○	○	月曜は16:00まで 第1,3,5週予約診療 △木曜特殊検査
	やました眼科	JR「瀬田」駅より車で7分 フォレオから徒歩5分 大津市大江7丁目6-45	077-574-7207	9:00~12:00 15:00~18:00	○	○	×	○	○	○	

耳鼻科	瀬田耳鼻咽喉科	JR「瀬田」駅より徒歩4分 大津市一里山1丁目2-13	077-543-1490	8:45~12:00	○	○	○	○	○	○	月・水・金午前のみ内科併設 (糖尿病内分泌専門)
				15:45~19:00	○	○	○	○	○	×	
婦人科	たかこ レディースクリニック	JR「石山」駅・「京阪石山」駅すぐ 大津市粟津町3-2 JR石山駅NKビル303	077-534-4031	9:00~12:00	○	○	○	×	○	○	
				17:00~19:00	○	×	○	×	○	×	
皮膚科	田中皮フ科医院	JR「瀬田」駅より徒歩5分 大津市一里山1丁目8-29 一里山中央ビル2F	077-545-1232	9:30~12:30	○	×	○	×	○	×	
				16:00~19:00	○	×	○	×	○	×	

現在診療中の医療機関を探したいとき 【医療ネット滋賀】



<http://www.shiga.iryo-navi.jp/qport/kenmintop/>

自動音声案内〈大津市〉077-525-3799

自動音声案内〈草津・守山・栗東・野洲市〉077-553-3799

“医療ネット滋賀”は、滋賀県内の病院・診療所・歯科診療所などの医療機関を検索することができます。

2023年度
農学部 履修要項

2023（令和5）年4月1日発行

編集発行 龍谷大学農学部教務課

〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5

電話 077-599-5601

印刷 アインズ株式会社
